
神奈川県立近代美術館

年2012報

ANNUAL REPORT

目次

あいさつ[水沢勉]	3
展覧会活動	
2012年度展覧会 会期・観覧者数一覧	4
葉山館	5
鎌倉館	11
鎌倉別館	16
特別プロジェクト	20
地域連携としての「アントニー・ゴームリー 彫刻プロジェクト IN 葉山」 [李美那]	21
教育普及活動	
受講・参加プログラム(講演会・ギャラリートーク・ワークショップ等)	22
研修等受入プログラム(研修・実習・団体観覧等)	24
視察状況	24
美術図書室[藤代知子]	25
美術館紹介・広報 掲載実績等	26
刊行物	27
2012年度の教育普及活動 [是枝開]	28
作品蒐集管理活動	
購入・寄贈状況	29
新収蔵作品一覧	29
館外貸出作品一覧	45
修復報告	48
修復作品一覧	51
調査研究活動	
研究・調査報告	
須田国太郎による動物園での『スケッチブック』その他 [橋秀文]	52
イリヤ・レーピンの絵画の特質について—《皇女ソフィヤ》と《新兵の見送り》を中心に— [靱山昌夫]	55
調査研究・執筆等	58
外部資金の活用	58
講師派遣・外部委員等就任	59
運営・管理報告	
概況(沿革・所掌事務・施設の状況)	60
収支・支出の状況	60
関係法規	61
組織	62
職員一覧	63

神奈川県立近代美術館2012年度年報を刊行いたします。前年度が東日本大震災の影響が美術館活動のものにも及び、いくつか予定の変更を余儀なくされたのに比べるならば、本年度は美術館の本来のペースに徐々に復した一年であったといえるのではないかと思います。

当館のもっとも重要なコレクションは幕末明治以後の日本の近代美術です。企画展の場合でも、そこにおのずと重きが置かれています。須田国太郎、松本竣介の大規模な回顧展を葉山館で開催することができ、その重要性をあらためて広く知っていただき、また、今後の研究に資するいくつかの貢献ができたのではないかと思います。高橋由一作と伝えられる二枚の《西周像》を、最新の保存科学の成果を反映させながら、展示することが出来たことも、保存修復の地道な作業が、歴史研究と一体化されたときに、どれほど鑑賞の深まりや研究の進展にとって大切なものであるかを改めて認識するよい機会となりました。そのときに同時に葉山館の第4展示室を使用して、東日本大震災で被災した石巻文化センター所蔵の修復後や修復中の油彩画を展示でき、ささやかとはいえ、当館の美術品レスキュー活動の一端をご紹介できたこともうれしい出来事でした。海水に浸され、さまざまな汚れが付着した作品の修復は、気の遠くなるような作業の積み重ねですが、疑いなく「復興」の一環であるからです。

葉山館では、近年連携を積み重ねてきた国立民族学博物館の全面的な協力により同館コレクションによる「ビーズ イン アフリカ展」を開催いたしました。この展覧会によって、一口にアフリカといってもいかに多様な文化がそこに花咲いているかを、身近なビーズを例にしてお伝えできたのではないかと思います。近年のゲノムの解読など、遺伝子工学の驚くべき発展は、人類の起源がアフリカ大陸にあることを実証しました。大航海時代以後の近代システムは、産業革命を経て、欧米中心の経済圏を形成させてきましたが、人類史の視点から眺めるならば、いうまでもなく、それがすべてであるわけではありません。小さなビーズの多種多様な表現が、アフリカ大陸に育まれた、知られざる文化的な豊かさを教えてくれたのです。アフリカのビーズを総覧する国内では前例のない試みであり、国立民族学博物館の学術協力なしには不可能な展覧会でした。

同時代の創造に対しても当館は1951年の開館以来、積極的に関わってまいりました。葉山館での桑山忠明の個展は、チタニウムという作家にとって積年の夢であった素材を駆使した新作を中心とした忘れがたいものとなりました。同展の会期中に、葉山館のための期間限定のプロジェクト「TWO TIMES—ふたつの時間」のために来日したイギリスの彫刻家アントニー・ゴームリーは、桑山展との出会いを「示唆」に富むものとして葉山館での記念講演会で言及しています(当館の広報誌『たいせつな風景』第18号)。虹のように変幻しつづけるチタニウムの新作を前にして、彫刻の素材としての金属を知り尽くしているゴームリーが、しばし言葉を失っていた様子が印象的でした。また、ゴームリーのプロジェクトは、外部空間を変容させる触媒として二体の人体彫刻を野外に設置し、プロジェクト実現のプロセスも含めて、葉山の地域との新たな関係を構築するために試みられた実験的なものでした。

鎌倉館と鎌倉別館においても、同じように、日本近代を検証する展覧会を、鯨絵、古都鎌倉と縁の深い近代美術、そして、知られざる夭折の画家

小野元衛を取りあげ紹介いたしました。鯨絵は、フランス近代を中心とする版画研究でも知られる故・気谷誠氏が所蔵されていたものであり、ご遺族からの一括寄贈のお披露目でした。「古都鎌倉」と近代との関係を美術の視点から紹介する展示は、当館の文化的背景への認識を深める好機となりました。小野元衛の鮮烈な色彩とデフォルメによる表現主義的な絵画世界が湛える精神性は、多くのひとに新鮮な驚きと感動をあたえてくれたのではないのでしょうか。シャガール、マチスの優れた版画を当館コレクションから精選して展示し、近代と現代の基点を確認しながら、現代日本彫刻を代表する江口週の近作を含む個展も同時期に開催しました。染色作家の柚木沙弥郎の文学者村山暉土の短篇「夜の絵」に触発された独創的な布コラーズのシリーズを中心とする、詩的な香りに満ちた作品展は、現代工芸の水準と可能性を示すものとして忘れがたいものでした。この展覧会を機に、「夜の絵」の連作を含む多くの代表作が作家より美術館に寄贈されました。

1951年に開館した当館にとっては、1950年代の歴史的検証は、もっとも大事な仕事になりつつあります。1950年代日本の写真にとって最大の出来事のひとつである石元泰博の桂離宮のシリーズ、それも昭和大大改修の際のカラー写真を除いた、初期のモノクローム写真のみを展示したのも、そのような意図に基づいてのことです。当館の開館日1951年11月17日の前日に活動を開始した前衛芸術家集団「実験工房」についての公立美術館での最初の包括的な展覧会も当館としてぜひとも取り組むべきテーマでした。近年の国内外で実験工房への関心の高まりを背景として、現存する作家たちの証言を改めて確認するなど、最新の情報の収集に心がけました。同展の第二会場として使用した鎌倉別館では、同時に、当館コレクションから戦後まもない時期の重要作品を網羅的に展示し、時代背景を理解するように配慮いたしました。

収集活動については、限られた予算のなかで、恩地孝四郎、幸徳幸衛の貴重な油彩作品、桑山忠明の当館のスペースのために制作された作品、ゴームリー・プロジェクトに連動して葉山館の庭に設置された鈴木昭男の、その周辺的环境音を聴くための作品《点音(おとだて)》などが加わり、また、700点を越す作品が寄贈されました。

通常の展覧会にさらにオプションとして追加されたゴームリーのプロジェクトも含めて、各展覧会には、講演会、ワークショップ、ギャラリートーク、イベントなどの教育普及的プログラムが多彩に用意され、さらにそのほかに地域の教育機関との連携によるプログラムも地道に持続的に展開されました。

美術館は、じつに多くの人々の協力と理解という浮力があって、はじめて社会という水面に顔を出すことができるということを改めて知った一年であったと思います。常日頃よりご理解ご協力を頂いている関係各位に、最後になりましたが、改めて深く謝意を表したいと思います。

2014年3月

神奈川県立近代美術館長
水沢 勉

展覧会活動

2012年度展覧会 会期・観覧者数一覧

	展覧会名	会期	日数	観覧料		観覧者数(人)				他館との 開催協力 など
						有料観 覧者数	無料観 覧者数	うち 中学生 以下	観覧者 数合計	
葉 山 館	光と影の生命 須田国太郎展 没後50年に顧みる	4/7～5/27	45日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,000円 850円 500円 100円	4,915	2,142	154	7,057	巡回： 茨城県近代美術館 石川県立美術館 鳥取県立博物館 京都市美術館 島根県立美術館
	生誕100年 松本竣介展	6/9～7/22	39日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,000円 850円 500円 100円	7,658	2,454	286	10,112	巡回： 岩手県立美術館 宮城県美術館 島根県立美術館 世田谷美術館
	国立民族学博物館コレクション ビーズ イン アフリカ	8/4～10/21	70日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,000円 850円 500円 100円	10,390	3,877	1,657	14,267	共催： 国立民族学博物館
	桑山忠明展 HAYAMA	11/3～1/14	59日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	900円 750円 450円 100円	2,810	1,531	172	4,341	
	美は甦る 検証・二枚の西周像 高橋由一から松本竣介まで	1/26～3/24	51日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	900円 750円 450円 100円	3,284	1,501	166	4,785	
	小計		264日				29,057	11,505	2,435	40,562
	アントニー・ゴームリー 彫刻プロジェクト IN 葉山 TWO TIMES-ふたつの時間	8/18～3/3	展示日数 201日	無料						推定観覧者数 42,725人
鎌 倉 館	石元泰博写真展 桂離宮1953,1954	4/7～6/10	57日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	7,533	3,125	1,158	10,658	
	コレクター気谷誠の眼 絵とボードレール展	6/23～9/9	69日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	5,461	2,963	1,542	8,424	
	シャガールとマティス、 そしてテリアド 20世紀フランス版画と出版 江口週展 漂流と原形 彫刻/デッサン	9/22～12/24	82日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	11,804	3,571	1,125	15,375	
	現代への扉 実験工房展 戦後芸術を切り拓く	1/12～3/24	64日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	900円 750円 450円 100円	4,484	2,365	416	6,849	巡回： いわき市立美術館 富山県立近代美術館 北九州市立美術館分館 世田谷美術館
小計		272日				29,282	12,024	4,241	41,306	
鎌 倉 別 館	村山亜土作『夜の絵』とともに 柚木沙弥郎展	4/7～6/10	57日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	4,808	1,770	236	6,578	
	古都鎌倉と近代美術 併陳・新収蔵作品展	6/23～9/9	69日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	3,300	1,177	481	4,477	
	天折の画家 小野元衛 1919-1947展	9/22～12/24	82日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	4,312	1,030	128	5,342	
	戦後の出発展 1945年以後 混乱と希望の時代	1/12～3/24	64日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	2,864	1,267	148	4,131	
小計		272日				15,284	5,244	933	20,528	
合 計	14展覧会					73,623	28,773	7,669	102,396	

676

いのち
光と影の生命 須田国太郎展 没後50年に顧みる

SUDA Kunitaro : Looking Back 50 Years After His Death

須田国太郎(1891-1961)は京都大学で美学・美術史を学び、並行して関西美術院でデッサンを学んだ。その後、スペインに留学し、ヴェネツィア派の色彩理論や、バロック絵画の明暗法を研究し、帰国後は西洋絵画を基礎にしながら日本独自の油彩画を生み出そうと努力を重ねた。風景や草花、鳥や動物などを描いた主要作品約130点を展示し、その成果を回顧する。

主催：神奈川県立近代美術館、日本経済新聞社

特別協力：京都国立近代美術館

会期：2012年4月7日(土)～5月27日(日)

休館日：月曜日(ただし4月30日は開館)

開催日数：45日

出品総点数：129点

総観覧者数：7,057人

担当学芸員：橋秀文

関連企画

- 1) 講演会 5月19日(土)「須田国太郎の形と色」講師：原田平作(大阪大学名誉教授)
- 2) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 4月14日(土)、5月12日(土)
- 3) 先生のための特別鑑賞の時間 5月12日(土)

カタログ

29.0×23.0cm、229ページ、販売価格2,000円

多色152図、単色1図、挿図79図

監修：原田平作(大阪大学名誉教授)

翻訳：小川紀久子

制作：ニューカラー写真印刷株式会社

デザイン：今西久(デザインブルー)

編集・発行：神奈川県立近代美術館、茨城県近代美術館、石川県立美術館、鳥取県立博物館、京都市美術館、島根県立美術館(島根県立石見美術館)、日本経済新聞社

目次

あいさつ

追憶(須田寛)

画家の横顔(松居直)

須田国太郎 写実と理想を求めて(橋秀文)

図版

須田国太郎の京都(尾崎真人)

須田国太郎の光輝表現—動物は逆光に息づくのか(二木伸一郎)

画が立つまでの須田国太郎—深田康算との関係から(井野功一)

山陰の風景—「隠国」の世界観(左近充直美)

資料紹介「欧州での都鳥英喜との交流を中心に」(林野雅人)

作品解説

年譜

主要参考文献

作品リスト

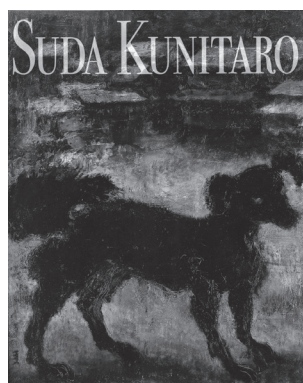
関連記事

- ・ 下野綾「日本独自の油絵を模索 須田国太郎展 27日まで、県立近美葉山」『神奈川新聞』2012年5月16日、5面
- ・ 無記名「思索する油絵 須田国太郎展」『朝日新聞』2012年5月16日夕刊、3面
- ・ 竹田博志「第32回 底光り(須田国太郎)」『美術の窓』No.345、2012年6月20日、p.88

▼情報掲載：7紙(33回)/15誌(22回)



ポスター



カタログ表紙

677

生誕100年 松本竣介展

MATSUMOTO Shunsuke : A Centennial Retrospective

昭和前期の日本美術界に大きな足跡を残し、36歳で夭折した画家・松本竣介(1921-1948)の生誕100年を記念した展覧会。初期から晩年までの代表作の油彩画約120点のほか、彼の創作活動を知るうえでの手掛かりとなる素描作品約60点を展示する。また、当時の写真や友人宛の書簡などの資料類も合わせて展示し、人間としての松本竣介像に迫る。

主催：神奈川県立近代美術館、NHK横浜放送局、NHKプロモーション

制作協力：NHKプラネット東北

会期：2012年6月9日(土)～7月22日(日)

休館日：月曜日(ただし7月16日は開館)

開催日数：39日

出品総点数：440点(展示替有)

総観覧者数：10,112人

担当学芸員：長門佐季、土居由美

関連企画

- 1) 講演会 7月7日(土)「松本竣介と都市風景の発見」講師：海野弘(美術史家)
- 2) 講演会 7月14日(土)「松本竣介とその時代」講師：長門佐季(当館主任学芸員)
- 3) 学芸員によるギャラリートーク 6月16日(土)、6月30日(土)
- 4) 先生のための特別鑑賞の時間 6月30日(土)

カタログ

25.7×19.6cm、414ページ、販売価格2,300円

多色514図、単色49図、挿図26図

編集：岩手県立美術館、神奈川県立近代美術館、宮城県美術館、島根県立美術館、世田谷美術館、NHKプラネット東北、NHKプロモーション

翻訳：小川紀久子

校閲：岩田高明

デザイン：梯耕治

制作：印象社

印刷：光村印刷株式会社

発行：NHKプラネット東北、NHKプロモーション

目次

生誕100年松本竣介展開催にあたって

On the Occasion of This Centennial Retrospective

作品編

資料編[1]

論稿編

松本竣介の生涯と作品—素描作品を交えながら(加藤俊明)

自強の画家・松本竣介(有川幾夫)

廃墟に立っている。—松本竣介の1940年代(水沢勉)

松本竣介のカルトン(加野恵子)

線の行方—松本竣介と童画(長門佐季)

ブッキッシュな竣介像—松本竣介の本・雑誌の仕事について(柳原一徳)

宮沢賢治は有り難い人だ(原田光)

墓参記—松本竣介にふれて(酒井忠康)

資料編[2]

書簡・原稿 採録

案内・目録・冊子 再録

松本竣介・論考 再録(編：杉山悦子)

『雑記帳』総目次(編：加野恵子)

松本竣介・主要蔵書目録(編：小金沢智)

写真アルバム(編：柳原一徳)

事項解説(編：和田浩一、柳原一徳)

年譜(編：柳原一徳)

展覧会出品記録(編：柳原一徳)

文献目録(編：柳原一徳、帯刀菜緒)

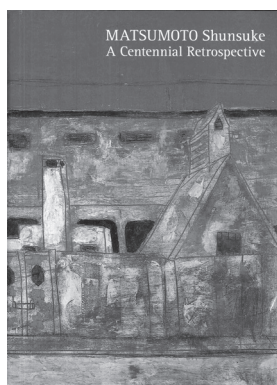
出品作品目録 | List of Works

出品作品索引

出品資料目録



ポスター



カタログ表紙

関連記事

- ・長門佐季「生きてゐる画家 松本竣介」『月刊 展覧会ガイド』2012年7月、p.28
- ・森村泰昌「ART 美術の見方、美術の話。『生誕100年松本竣介展』雲行きのあやしい時代に背を向け、堂々と立ちほだかる作者自身の姿。」『クロワッサン プレミアム』No.57 (2012年8月号)、2012年6月20日、pp.156-157
- ・宮田徹也「美術 生誕100年 松本竣介 「人間」の文化の情景」『新かながわ』2012年6月24日、2面
- ・無記名「激動の時代に厳しく対峙…松本竣介展」『葉山新聞』通巻108号、2012年6月24日、p.5
- ・増田愛子「「線」の表現にこだわり 神奈川で松本竣介展」『朝日新聞』2012年7月4日夕刊、3面
- ・児島やよい「美術評 生誕100年 松本竣介展 天逝した「抵抗の画家」の全貌 他」『東京新聞』2012年7月6日夕刊、7面
- ・窪田直子「都会を活写、早世の画家 「生誕100年 松本竣介展」」『日経新聞』2012年7月6日、40面
- ・洪沢和彦「美の扉 廃墟の街で見つけた美 生誕100年 「松本竣介展」」『産経新聞』2012年7月8日、22-23面
- ・無記名「街を愛した画家の足跡 9月から松江巡回 松本竣介生誕100年展」『中国新聞』2012年7月10日、16面 ※同内容の記事が次の紙面に掲載：『東奥日報』2012年7月10日、9面/『山陰中央新報』2012年7月10日、19面/『高知新聞』2012年7月13日、18面/『熊本日日新聞』2012年7月20日、20面。
- ・下野綾「生誕100年 松本竣介展 短い活動の全容振り返る」2012年7月11日、5面
- ・洪沢和彦「Art 松本竣介展 キャンパスの中に純粹なる美を求めた画家」『MOSTLY CLASSIC』September 2012 vol.184、2012年7月20日、p.139
- ・山下裕二「山下裕二のこれが欲しい! Vol.42 / 松本竣介「橋(東京駅裏)」」『アートコレクター』No.42、2012年9月25日、p.76
- ・松井みどり「自己更新と再統合の絵画—松本竣介のリビジョニズムの実像「生誕100年松本竣介展」」『美術手帖』Vol.65 No.982、2013年4月1日、p.192
- ・暮沢剛巳「生誕100年 松本竣介展」『AXIS』Vol.162、2013年4月、p.50

▼展覧会紹介：4誌(6回)

▼情報掲載：8紙(32回)/19誌(25回)

678

国立民族学博物館コレクション ビーズ イン アフリカ

The Collection of National Museum of Ethnology – Beads in Africa

世界各国との交易を通して独自の歩みをたどったアフリカのビーズは、装飾品であるばかりか呪術や儀式上の意味が込められ、富の象徴、社会的権威や民族性と深く結び付いている。ビーズを主題とした展覧会としては公立美術館で初の試みとなる本展は、現地で長年にわたりフィールドワークと資料収集を続けている国立民族学博物館の学術協力のもと約170点の作品資料を紹介する。

主催：神奈川県立近代美術館

共催：国立民族学博物館

協賛：株式会社資生堂

会期：2012年8月4日(土)～10月21日(日)

休館日：月曜日(ただし9月17日、10月8日は開館)

開催日数：70日

出品総点数：169点

総観覧者数：14,267人

担当学芸員：朝木由香、鈴木智香子

カタログ

21.5×15.5cm、158ページ、販売価格1,800円

多色107図、挿図181図

翻訳：ポリー・バートン

撮影：矢萩喜從郎

写真提供：国立民族学博物館

編集：朝木由香、鈴木智香子

デザイン：矢萩喜從郎

制作：美術出版社デザインセンター

印刷：光村印刷株式会社

発行：神奈川県立近代美術館

関連企画

- 1) 講演会 8月4日(土)「アフリカ、ビーズの世界」講師：吉田憲司(国立民族学博物館教授、総合研究大学院大学教授)
- 2) 講演会 9月30日(日)「民博のビーズコレクション－フィールドワークを通して」講師：池谷和信(国立民族学博物館教授、総合研究大学院大学教授)
- 3) ゲスト・トーク 9月1日(土)「こんなにも多様なアフリカの音楽」ピーター・バラカン(ブロードキャスター)
- 4) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 8月25日(土)、9月17日(月・祝)、10月13日(土)
- 5) ワークショップ 8月26日(日)「ナンデモ・ビーズ・アクセサリー」講師：seto(瀬戸けいた)
- 6) ワークショップ 8月5日(日)、9月2日(日)、10月7日(日)「マイオリジナル・つぶつぶ仮面」
協賛：寺西化学工業(株)
- 7) 先生のための特別鑑賞の時間 8月18日(土)

目次

あいさつ(水沢勉)

あいさつ(須藤健一)

図版

いのち・かたちの・つらなりー「ビーズ イン アフリカ」展の開催にあたって(水沢勉)

ビーズにみるアフリカの文化(吉田憲司)

民博のアフリカンビーズコレクション－フィールドでの資料収集と情報収集の実践(池谷和信)

つくり手の仕事場から－ナイジェリア、イレ・イフェのビーズ細工師たち(緒方しらべ)

地図

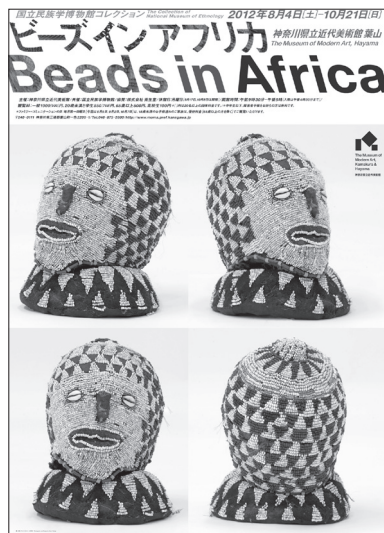
出品リスト

関連記事

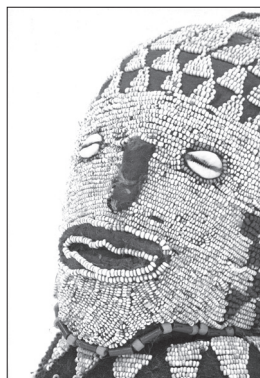
- ・無記名「ビーズ イン アフリカ 国立民族学博物館コレクション」『新美術新聞』No.1287、2012年8月1-11日、p.4
- ・窪田直子「心を和ます手触り「ビーズ イン アフリカ」展」『日経新聞』2012年8月22日、40面
- ・下野綾「アフリカビーズの魅力 県立近美葉山 多様な素材で手作り」『神奈川新聞』2012年9月7日、16面

▼展覧会紹介：1紙(1回)/10誌(13回)

▼情報掲載：6紙(38回)/21誌(28回)



ポスター



カタログ表紙

679

桑山忠明展 HAYAMA

TADAAKI KUWAYAMA : HAYAMA

桑山忠明(1932-)は、1958年に渡米後、ニューヨークを拠点に現在まで第一線で創作活動を行っている。本展では、海と山に囲まれた自然環境に立地する葉山館の5つの展示室を、それぞれの空間スケールに基づいて桑山忠明が新たに制作したインスタレーション作品として提示し、桑山の造形思想の現在を明らかにする。

主催：神奈川県立近代美術館

協力：ギャラリーヤマガチ、株式会社EMC

会期：2012年11月3日(土・祝)～2013年1月14日(月・祝)

休館日：月曜日(ただし12月24日、1月14日は開館)

開催日数：59日

出品総点数：9点

総観覧者数：4,341人

担当学芸員：三本松倫代、長島彩音

目次 | Contents

ごあいさつ | Foreword

空間から/空間へ—葉山のなかの桑山忠明(水沢勉)

From Space / To Space: Tadaaki Kuwayama in Hayama [Tsutomu Mizusawa]

カタログ | Catalogue

「桑山忠明展 HAYAMA」プロジェクト・ノート(三本松倫代)

Project notes on Tadaaki Kuwayama's Hayama [Tomoyo Sanbonmatsu]

年譜(編：長島彩音) | Biography

参考文献(編：長島彩音) | Bibliography

出品リスト | List of works

関連企画

- 1) 桑山忠明氏によるアーティスト・トーク 11月3日(土・祝)
- 2) 講演会 11月24日(土)「透過と交感—桑山忠明の空間について」講師：林道郎(上智大 学教授、美術史/美術批評)
- 3) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 2012年11月23日(金・祝)、12月15日(土)、2013年1月13日(日)
- 4) 先生のための特別鑑賞の時間 11月24日(土)

カタログ

29.0×22.5cm、64ページ、販売価格2,000円

多色10図

編集・発行：神奈川県立近代美術館

写真：山本糾

デザイン：秋山伸/edition.nord

3Dドローイング：中山大介

翻訳：アラン・ミラー

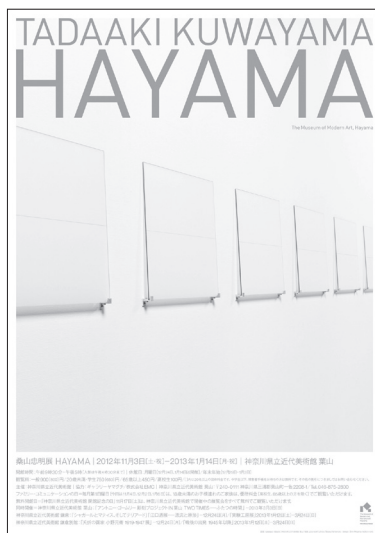
制作：美術出版社デザインセンター

関連記事

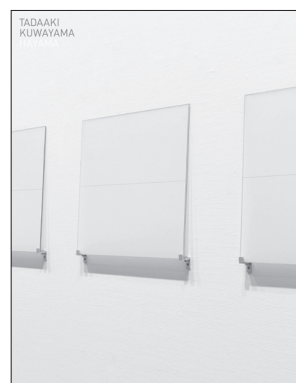
- ・ Michael Klein, Tadaaki Kuwayama at the Museum of Modern Art Hayama, ARTWRITE, Monthly Issue No. 19, November 2012, <http://www.artwrit.com/article/tadaaki-kuwayama-moma-hayama/>
- ・ 大西若人「評 桑山忠明展 現代美術2等兵・駄美術20年史展 崇高と笑いの戦場」『朝日新聞』2012年12月5日夕刊、3面
- ・ 藤島俊会「神奈川の文化時評 回顧'12 美術 文化切り捨てに危機感 神奈川臨調の県有施設見直し 桑山忠明展 HAYAMA」『神奈川新聞』2012年12月31日、20面
- ・ 本江邦夫「Art『桑山忠明展 HAYAMA』 展示空間に表情をもたらす矩形」『中央公論』1551号(2013年2月号)、2013年1月10日、p.162

▼展覧会紹介：4誌(6回)

▼情報掲載：5紙(30回)/18誌(28回)



ポスター



カタログ表紙

680

美は甦る 検証・二枚の西周像—高橋由一から松本竣介まで

Verification of the Two Portraits of NISHI Amane — From TAKAHASHI Yuichi to MATSUMOTO Shunsuke

高橋由一作とされる2点の《西周像》が制作された謎に迫るとともに、近年当館で修復された岸田劉生、藤田嗣治、松本竣介などを中心に、明治期から昭和前期までの約60名の画家による油彩画、水彩画約170点を紹介する。保存・修復という作品の知られざる部分に光をあてることによって、近代日本美術の問題点をさぐり、新たな発見を浮かび上がらせる。

主催：神奈川県立近代美術館
助成：公益財団法人 ポーラ美術振興財団
会期：2013年1月26日(土)～3月24日(日)
休館日：月曜日(ただし2月11日は開館)
開催日数：51日
出品総点数：178点
総観覧者数：4,785人
担当学芸員：長門佐季、橋秀文

[同時開催]東日本大震災による被災美術品修復報告(石巻文化センター所蔵作品)

2011年3月の東日本大震災で被災した石巻文化センターの所蔵作品から、修復作業によって甦った13点を展示。

主催：神奈川県立近代美術館
協力：全国美術館会議

関連企画

- 1) 県立機関活用講座「美は甦る—修復の現在」(全5回)
 - 第1回 2013年1月26日(土)：「近代洋画の父・高橋由一について」講師：青木茂(美術史家、文星芸術大学特任教授、明治美術学会会長)
 - 第2回 2月9日(土)：「修復から見た明治前期の油絵—高橋由一を中心に—」講師：歌田真介(修復家、東京藝術大学名誉教授)
 - 第3回 2月23日(土)：「版画・素描の保存修復」講師：山領まり(絵画修復家)
 - 第4回 3月2日(土)：「彫刻の修復」講師：藤原徹(修復家、東北芸術工科大学教授)
 - 第5回 3月16日(土)：「文化財建造物彩色の保存—剥落止めによる現状保存と剥ぎ取り及び痕跡調査による資料化—」講師：山内章(一般社団法人 天野山文化遺産研究所代表理事、桃山学院大学国際教養学部客員研究員)
- 2) 学芸員によるギャラリー・トーク 2月3日(日)、3月10日(日)、3月17日(日)
- 3) 先生のための特別鑑賞の時間 2月2日(土)

カタログ

29.0×22.6cm、72ページ、販売価格1,200円
多色61図、挿図66図
編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：求龍堂

目次

あいさつ
西周伝の周辺(青木茂)
図版
二枚の西周像の修復調査—そこから見えるもの(伊藤由美)
書簡に見る三者の関係—亀井茲明、高橋由一、柳源吉(角田拓朗)
二枚の西周像—研究の経緯と概要について(長門佐季)
高橋由一関連年表(編：角田拓朗)
関根正二と河野通勢、伊東深水との関係(橋秀文)
岸田劉生の肖像画—古屋君像から麗子像まで(長門佐季)
三科会員展の時代の玉村方久斗(橋秀文)
藤田嗣治の輝かしき「乳白色の肌」(橋秀文)
松本竣介の制作のプロセス—断章(長門佐季)
作品目録

リーフレット「東日本大震災による被災美術品修復報告」

29.7×21.0cm、A3二つ折1枚、無料配布、多色34図

関連記事

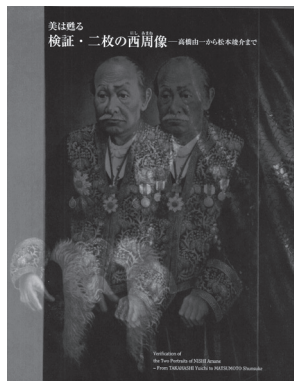
- ・長門佐季「二枚の西周像 研究の経緯と概要について」『つわぶき』第58号、2013年7月、pp.7-8
- ・無記名「近代美術の代表作も展示 美は甦る 検証・二枚の西周像—高橋由一から松本竣介まで」『葉山新聞』通巻114号、2013年1月27日、p.5
- ・Edan Corkill, Art disaster turns out to have a silver lining, *The Japan Times*, 17th February 2013, p.7.
- ・下野綾「修復をテーマに展覧会 県立近代美術館葉山「美は甦る 検証・二枚の西周像」」『神奈川新聞』2013年2月27日、23面
- ・無記名「まるでコピー?新たな西周像発見」『朝日新聞』2013年3月6日夕刊、3面
- ・井上晋治「酷似「西周像」を同時公開 神奈川県立近代美術館の葉山館」『読売新聞』2013年3月21日、17面
- ・横光竜二「石巻の美復興 油彩画13点を修復葉山で展示 震災から2年 作業途中の作品も紹介」『東京新聞』2013年3月9日、26面

▼展覧会紹介：5誌(5回)

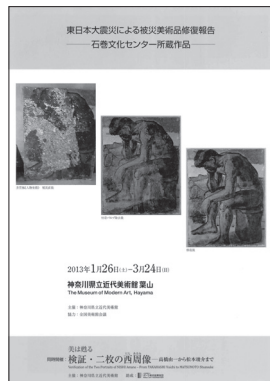
▼情報掲載：7紙(46回)/16誌(38回)



ポスター



カタログ表紙



リーフレット表紙

681

石元泰博写真展 桂離宮 1953, 1954

ISHIMOTO Yasuhiro-Katsura Imperial Villa

戦後日本の写真界に多大な影響を与えた石元泰博(1921-2012)は、サンフランシスコ生まれ、バウハウスの教育理念を継承したシカゴ・インスティテュート・オブ・デザインで写真を学んだ。本展では1953、1954年に制作された〈桂離宮〉シリーズに焦点を絞り、大胆かつ緻密な構図によって捉えられた伝統的な日本建築の美しさと写真というメディアの融合、そして石元の根源的で堅牢な造形感覚を紹介する。

主催：神奈川県立近代美術館

特別協力：高知県立美術館

会期：2012年4月7日(土)～6月10日(日)

休館日：月曜日(ただし4月30日は開館)

開催日数：57日

出品総点数：255点(展示替有)

総観覧者数：10,658人

担当学芸員：是枝開

関連企画

- 1) ゲスト・トーク 4月21日(土)「石元泰博—写真という思考」講師：森山明子(武蔵野美術大学教授)
- 2) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 5月12日(土)、5月26日(土)
- 3) 先生のための特別鑑賞の時間 5月19日(土)

カタログ

30.0×30.0cm、52ページ、販売価格1,400円

多色35図、挿図2図

編集・発行：神奈川県立近代美術館

装丁・デザイン：太田徹也

写真著作権：高知県立美術館、宮内庁京都事務所

制作：アート印刷株式会社

目次

ごあいさつ

「桂」誕生のとき(水沢勉)

石元泰博《桂離宮》1953-1954—自立する写真の力(是枝開)

図版

略年譜・作品目録

関連記事

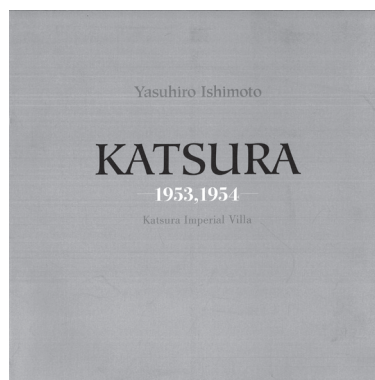
- ・西岡一正「桂離宮のモダニズム 石元泰博写真展」『朝日新聞』2012年5月9日夕刊、3面
- ・海路佳孝「想像かき立てる写真群 石元泰博展 桂離宮255点」『高知新聞』2012年5月15日、15面
- ・無記名「exhibition「石元泰博写真展—桂離宮 1953, 1954」開催中」『新建築 住宅特集』2012年6月号(第314号)、2012年5月19日、p.158
- ・下野綾「大御所の情熱堪能 来月10日まで 近美鎌倉と別館で 写真石元泰博 染色柚木 沙弥郎」『神奈川新聞』2012年5月28日、22面
- ・藤島俊会「美術 神奈川の文化時評 光と闇のドラマを描く 中上清[新作展] [石元泰博写真展]」『神奈川新聞』2012年6月1日、6面
- ・ダリル・ウィー[著]、近藤亮介[訳]「新人月評第5回 和洋折衷の構図を試みて「石元泰博写真展—桂離宮 1953, 1954—」」『美術手帖』No.971、2012年8月、p.180

▼展覧会紹介：1紙/9誌(17回)

▼情報掲載：4紙/8誌(44回)



ポスター



カタログ表紙

682

コレクター気谷誠の眼 鯨絵とボードレール展
The Kitani Collection - Namazu-e and Baudelaire

今年度に寄贈を受けた気谷誠(1953-2008)のコレクションを紹介する展覧会。銅版画家シャルル・メリヨンの研究で知られる気谷の愛蔵した鯨絵や明治期の銅版画など約70点、19世紀の西洋版画および柄澤齊をはじめとする日本人作家の版画約50点を展示する。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：2012年6月23日(土)～9月9日(日)
休館日：月曜日(ただし7月16日は開館)
開催日数：69日
出品総点数：126点
総観覧者数：8,424人
担当学芸員：橋秀文

関連記事

- ・遠田英樹「息づく「伝える使命」 鯨絵や西洋版画お披露目 美術史家・気谷誠さん(石川県かほく市出身) 遺族がコレクションを寄贈」『北陸中日新聞』2012年7月6日、14面
- ・下野綾「コレクター 気谷誠がひかれた時代「鯨絵とボードレール展」」『神奈川新聞』2012年8月17日、4面
- ・増田愛子「コレクターの情熱に迫る 社長を支えたアート ボーラ美術館 鈴木常司展 鯨の浮世絵に魅せられ 鎌倉で開催中の気谷誠展」『朝日新聞』2012年8月22日夕刊、3面

- ▼展覧会紹介：1紙(1回)/1誌(1回)
- ▼情報掲載：5紙(36回)/17誌(23回)

関連企画

- 1)担当学芸員によるギャラリー・トーク 6月23日(土)、9月1日(土)
- 2)先生のための特別鑑賞の時間 8月4日(土)

カタログ

29.8cm×21.4cm、55ページ、販売価格1,000円
多色45図、単色1図
編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：アート印刷株式会社

鯨絵とボードレール コレクター気谷誠の眼(橋秀文)

図版
気谷誠略年譜
気谷誠著作目録抄
気谷誠による鯨絵の解説
出品リスト



ポスター



カタログ表紙

683-1 【第1展示室】

シャガールとマティス、そしてテリアード 20世紀フランス版画と出版

Chagall, Matisse, and Tériade—French Prints and Publication in the 20th Century

シャガール(1887-1985)の『ダフニスとクロエ』、マティス(1869-1954)の『ジャズ』といった版画の代表作85点に加え、当時の美術出版をリードしたテリアードの編集による、世界で最も美しい雑誌といわれた美術雑誌『ヴェルヴ』を展示し、20世紀フランス版画と出版の状況を紹介した。なお、展示された『ヴェルヴ』15冊は、美術評論家であった仲田定之助氏と日本画家山口蓬春氏から当館に寄贈された「仲田定之助文庫」「山口蓬春文庫」から出品した。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2012年9月22日(土・祝)～12月24日(月)

休館日：月曜日(ただし10月8日、12月24日は開館)

開催日数：82日

出品総点数：100点

総観覧者数：15,375人

担当学芸員：李美那

▼情報掲載：4紙(34回)/19誌(35回)

リーフレット

29.7×21.0cm、A3二つ折1枚、無料配布、多色4図



ポスター



リーフレット表紙

関連企画

- 1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 9月29日(土)、12月22日(土)
- 2) 先生のための特別鑑賞の時間 9月29日(土)

関連記事

- ・ 無記名「巨匠を支えた編集者に光 シャガールやマティス 本で紹介 県立近代美術館鎌倉館で特集展」『産経新聞』2012年9月15日、21面
- ・ 下野綾「シャガール、マティスら支え 出版者の業績に光、企画展 夭折の画家「小野元衛」展も」『神奈川新聞』2012年12月5日、7面

683-2 【第2展示室・彫刻室】

江口週展 —漂流と原形— 彫刻/デッサン

Drift and Origin—EGUCHI Shu: Sculptures/Drawings

60年代初頭から注目された江口週(1932-)はクスなどを素材にした量塊感に溢れる木彫で知られる。60年代に制作された作品と近作を併せて展示し、そのデッサンと彫刻を通して、抽象彫刻の第一人者としての仕事の展開を再検証する。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2012年9月22日(土・祝)～12月24日(月)

休館日：月曜日(ただし10月8日、12月24日は開館)

開催日数：82日

出品総点数：33点(展示替有)

総観覧者数：15,375人

担当学芸員：是枝開

目次

ごあいさつ

原形のあらわれ 江口週の出発をめぐって(水沢勉)

江口週—漂流と原形「揺れ」を彫るということ(是枝開)

図版

略年譜・作品目録

関連記事

▼情報掲載：3誌(21回)/13誌(29回)



ポスター



カタログ表紙

関連企画

- 1) 江口週氏によるアーティスト・トーク 10月13日(土)
- 2) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 10月27日(土)、11月10日(土)
- 3) 先生のための特別鑑賞の時間 9月29日(土)

カタログ

30.0×30.0cm、52ページ、販売価格1,400円

多色33図、挿図4図

写真撮影：上野則宏

写真提供：三重県立美術館

編集・発行：神奈川県立近代美術館

制作：印象社

684

現代への扉 実験工房展 戦後芸術を切り拓く
Jikken Kōbō — Experimental Workshop —

1951年に結成された「実験工房」は、ジャンルの垣根を越えて集まった若手の芸術家たちによって戦後芸術の新しい時代を生み出した。絵画、立体、映像、写真のほか、楽譜や公演プログラムなど作品及び関連資料約400点の展示を通してその活動の全貌を紹介する。実験工房のイベントを再現するコンサートも併せて開催。一部を鎌倉別館で展示。

主催：神奈川県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網
特別協力：武蔵野美術大学 美術館・図書館/造形研究センター
企画協力：東京パブリッシングハウス
会期：2013年1月12日(土)～3月24日(日)
休館日：月曜日(ただし1月14日、2月11日は開館)
開催日数：64日
出品総点数：443点(展示替有)
総観覧者数：6,849人
担当学芸員：西澤晴美、朝木由香

関連企画

- 1) ゲストトーク 1月19日(土)「実験工房の写真と映像」講師：大日方欣一(フォトアーキビスト/武蔵野美術大学造形研究センター客員研究員)
- 2) ワークショップ 2月3日(日)「ガラスの球体 モビールワークショップ」講師：鶴飼美紀(美術作家)
- 3) コンサート 3月10日「ミュージック・コンクレート/電子音楽オーディション」再現コンサート(レクチャー付き) 講師：川崎弘二(電子音楽研究) 音響：有馬純寿
- 4) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 1月27日(日)、2月16日(土)
- 5) 先生のための特別鑑賞の時間 2月16日(土)

カタログ

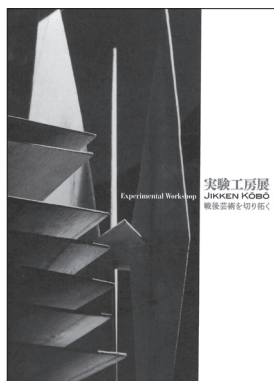
26.5×19.8cm、352ページ、販売価格2,200円
多色554図、挿図52図
編集：神奈川県立近代美術館、いわき市立美術館、富山県立近代美術館、北九州市立美術館、世田谷美術館
翻訳：スタン・アンダソン、ボリー・バートン、管啓次郎、川野恵子
編集協力：角山朋子
校閲：岩田高明
デザイン：梶耕治
制作：印象社
発行：読売新聞社、美術館連絡協議会

目次

- 実験工房一芽生えと兆し(水沢勉)
[再録]実験工房と1950年代(ヤシャ・ライハート)
実験工房の音楽活動(石田一志)
実験工房—世界の舞台へ(手塚美和子)
影像から/影像へ—初期実験工房の探究(大日方欣一)
実験工房—舞台とパフォーマンス(西澤晴美)
図版
激動の中の美術雑誌、そしてパレエ『生きる喜び』への助走(杉野秀樹)
実験工房前夜—日米通信社時代の瀧口修造(朝木由香)
実験工房時代の駒井哲郎(石井幸彦)
「実験工房」のかたち—北代省三を中心として(佐藤玲子)
「実験工房」誕生の背景としての世田谷—新作曲派協会からの展開(矢野進)
実験工房の電子音楽(川崎弘二)
インターメディアとしての運動体—1960年代における実験工房について(平野明彦)
実験の精神が語るもの—実験工房、その後を個々の活動から探る(麻生恵子)
実験工房メンバーによる座談会(出席者：今井直次、福島和夫、山口勝弘、湯浅譲二/聞き手：那須孝幸/構成・編集：那須孝幸、松原知子)
実験工房 略年譜
実験工房メンバー略歴
実験工房時代の人物関係図
プログラム掲載文一覧
主要文献リスト(編：藤代知子、西澤晴美)
出品リスト



ポスター



カタログ表紙

英文

Experimental Workshop: A Seeding and a Sign [MIZUSAWA Tsutomu]
 Experimental Workshop and the Fifties [Jasia REICHARDT]
 Musical Activities of the Experimental Workshop [ISHIDA Kazushi]
 Jikken Kōbō in the International Arena [TEZUKA Miwako]
 From Images/To Images: Exploring the Early Achievements of the Experimental Workshop [OBINATA Kin'ichi]
 Experimental Workshop: Stage Works and Performances [NISHIZAWA Harumi]
 List of Exhibits

関連記事

- ・水沢勉「実験工房展・上 爛熟の世界を換骨奪胎」『読売新聞』2013年2月7日、34面
- ・朝木由香「実験工房展・中 時空を超えて泳ぐ造形」『読売新聞』2013年2月8日、30面
- ・西澤晴美「実験工房展・下 無数の円、凛とした構図」『読売新聞』2013年2月9日、32面
- ・宮田徹也「美術 権威に立ち向かう芸術 「現代への扉 実験工房展 戦後芸術を切り拓く」」『新かながわ』2013年1月27日、2面
- ・鈴木繁「よみがえる昭和の文化怪人 武智鉄二多彩な顔の奥」『朝日新聞』2013年1月28日、32面
- ・関優子「「実験工房」進む再評価 前衛芸術育んだ異分野交流」『日経新聞』2013年1月28日夕刊、16面
- ・浅田彰「実験工房・ゴームリー・瑞泉寺一冬の鎌倉から」『REALKYOTO Cultural Search Engine』2013年1月31日、<http://realkyoto.jp/blog/>
- ・石川健次「石川健次 Art Scene 実験工房展 戦後芸術を切り拓く」『サンデー毎日』第92巻第4号(通巻5149号)、2013年2月3日、p.125
- ・三田晴夫「アートの風 2月 実験工房展 世界と呼吸を通じる精神」『毎日新聞』2013年2月6日夕刊、4面
- ・西岡一正「「実験工房展 戦後芸術を切り拓く」 美術と音楽領域超えて」『朝日新聞』2013年2月13日夕刊、3面
- ・長縄宣「ふらっとアート日和 実験の精神と未来を切り拓く勇気」『まんまる』通巻106号(2013年3月号)、2013年2月14日、p.33
- ・川崎弘二「「実験工房」果敢な音づくり 戦後の前衛芸術 先駆的な功績」『読売新聞』2013年2月28日、23面
- ・沢山遼「記譜と写像の工房 「現代への扉 実験工房展 戦後芸術を切り拓く」」『美術手帖』Vol.65 No.980、2013年3月1日、p.207
- ・下野綾「戦後の新しい芸術模索 1915年結成「実験工房」 県立近代美術館鎌倉 全体像振り返る展覧会」『神奈川新聞』2013年3月8日、24面
- ・湯浅譲二[聞き手・松本良一]「湯浅譲二を変えた実験工房 前衛で結ばれた仲間」『読売新聞』2013年3月8日夕刊、24面
- ・Midori Matsui, Jikken kōbō – Experimental Workshop, *Artforum*, May 2013

▼展覧会紹介：6誌(6回)

▼情報掲載：5紙(38回)/23誌(47回)

685

村山亜土作『夜の絵』とともに 柚木沙弥郎展
YUNOKI Samiro

90歳を迎えた染色作家、柚木沙弥郎(1922-)の新作を含む展覧会。「民藝」を基点としながらも型にとらわれない、自由な精神の飛翔ともいうべきユーモラスな軽みが感じられる作風を特徴としている。本展では型染布と、作家が精力的に取り組んできた本の仕事も紹介する。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：2012年4月7日(土)～6月10日(日)
休館日：月曜日(ただし4月30日は開館)
開催日数：57日
出品総点数：43点
総観覧者数：6,578人
担当学芸員：朝木由香

関連企画

- 1) 柚木沙弥郎氏によるアーティスト・トーク 5月12日(土)
- 2) 担当学芸員によるギャラリートーク 5月19日(土)、6月9日(土)
- 3) 先生のための特別鑑賞の時間 5月19日(土)

関連記事

- ・中村さやか「美博ピックアップ 柚木沙弥郎展」『朝日新聞』2012年5月16日夕刊、5面
- ・下野綾「大御所の情熱堪能 来月10日まで 近美鎌倉と別館で 写真石元泰博 染色柚木沙弥郎」『神奈川新聞』2012年5月28日、22面
- ・岸桂子「美術 ますます盛んな探求心 柚木沙弥郎展」『毎日新聞』2012年5月29日夕刊、4面
- ・無記名「柚木沙弥郎 端切れのささやき」『芸術新潮』Vol.63.6 No.750、2012年6月25日、p.172
- ・新城順子「『夜の絵』画家の顔 柚木沙弥郎展」『HAMArt !』Vol.6、2012年10月1日、p.19
- ・無記名「Interview 柚木沙弥郎 生きている布をつくりたい」『コンフォルト』No.129(2012年12月号)、2012年12月1日

▼展覧会紹介：1誌(1回)

▼情報掲載：4紙(12回)/14誌(17回)

カタログ

21.0×15.0cm、48ページ、販売価格900円
多色50図
編集・発行：神奈川県立近代美術館
撮影：上野則宏
写真提供：ギャラリーTOM
デザイン：鹿目デザイン事務所 鹿目尚志、大上一重
制作：アート印刷株式会社

あいさつ

作者のことば(柚木沙弥郎)
夜をうべなう 柚木沙弥郎の、思索する布(水沢勉)
『夜の絵』をめぐる断想(岩崎清)

図版

亜土さんに……(村山治江)
柚木沙弥郎・村山亜土 年譜
柚木沙弥郎 主要文献
出品リスト
謝辞



ポスター



カタログ表紙

686

古都鎌倉と近代美術 併陳・新収蔵作品展 —藤田嗣治《キキ・ド・モンパルナス》^(※註)初公開
Ancient City of Kamakura and Modern Art/New Acquisitions 2011

所蔵作品から朝井閑右衛門や斎藤清、伊東深水など鎌倉にゆかりの作家や作品を紹介することで、古都鎌倉と近代美術の関係を再考する。2011年度に収蔵されたジョルジュ・ルオー、上村松篁、砂澤ビッキなどの作品とあわせて、藤田嗣治の油彩画を初公開する。

※作品名はその後、《横たわる裸婦》に修正された。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2012年6月23日(土)～9月9日(日)

休館日：月曜日(ただし7月16日は開館)

開催日数：69日

出品総点数：94点

総観覧者数：4,477人

担当学芸員：橋秀文

関連企画

- 1) 担当学芸員によるギャラリー・トーク 7月21日(土)、8月18日(土)
- 2) 先生のための特別鑑賞時間 8月4日(土)

リーフレット

29.7×21.0cm、A3二つ折1枚、無料配布、多色8図

関連記事

▼情報掲載：4紙(15回)/10誌(13回)



ポスター



リーフレット表紙

687
夭折の画家 小野元衛 1919-1947展
ONO Motoe 1919-1947

滋賀県近江八幡に生まれた小野元衛(1919-1947)は、染織家で人間国宝の志村ふくみ(1924-)の実兄である。画家を志して上京し文化学院で学び、同時代の画家に影響を受けながら戦争の影が忍び寄る東京で独自の手法により作品を制作した。病により28歳の若さで亡くなったため、これまで美術史のなかで語られることのなかった小野元衛の作品約130点を展示紹介する。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：2012年9月22日(土・祝)～12月24日(月)
休館日：月曜日(ただし10月8日、12月24日は開館)
開催日数：82日
出品総点数：132点
総観覧者数：5,342人
担当学芸員：長門佐季、松尾子水樹

関連企画

- 1) ゲスト・トーク 10月7日(日)「志村ふくみが語る 兄・小野元衛のこと」ゲスト：志村ふくみ氏(染織作家、人間国宝)
- 2) 担当学芸員によるギャラリートーク 10月14日(日)、12月8日(土)
- 3) 先生のための特別鑑賞の時間 10月13日(土)

カタログ

21.0×14.8cm、56ページ、販売価格900円
多色17図、単色17図
編集・発行：神奈川県立近代美術館
写真：田中俊司、アインズ株式会社
翻訳：小川紀久子
制作：印象社

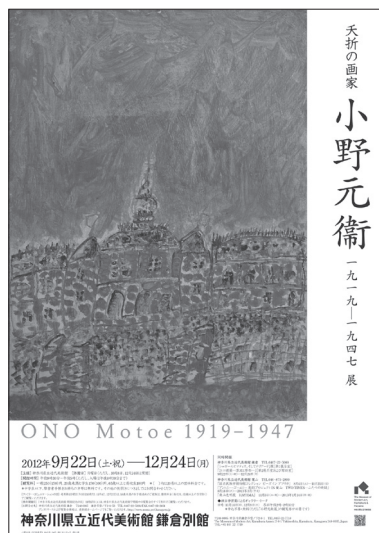
あいさつ

目次
貝の火 小野元衛という画家について(水沢勉)
図版
小野元衛のこと(志村ふくみ)
小野元衛 年譜/参考文献
出品リスト
ONO Motoe

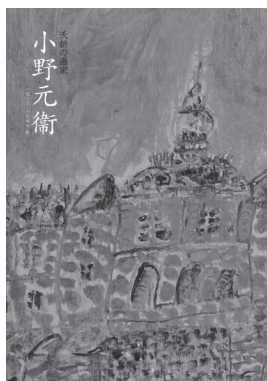
関連記事

- ・岸桂子「アート小路「夭折の画家 小野元衛」展 合わせた手 祈りあふれ」『毎日新聞』2012年10月1日夕刊、3面
- ・渋谷和彦「美の扉「夭折の画家 小野元衛 1919-1947」心にしみる燃えるような朱」『産経新聞』2012年10月7日、10-11面
- ・高野清見「記者ノート 小野元衛展 自由主義的な戦前映す」『読売新聞』2012年11月8日、24面
- ・渋谷和彦「Art「夭折の画家 小野元衛1919-1947」展 激しい色彩を大胆に使い、結核を患いながら創作を続ける」『MOSTLY CLASSIC』2013 January Vol.188、2012年11月20日、p.137
- ・渋谷和彦「アートクルーズ 心に染みる色彩 すさまじい執念「夭折の画家 小野元衛 1919-1947」」『EX SANKEI EXPRESS』2012年12月10日、pp.10-11
- ・古沢由紀子「時代の証言者 染めと織り 志村ふくみ⑤ 病床でも描き続けた兄」『読売新聞』2013年2月14日

- ▼展覧会紹介：3誌(3回)
- ▼情報掲載：4紙(30回)/15誌(21回)



ポスター



カタログ表紙

特別プロジェクト

アントニー・ゴームリー 彫刻プロジェクト IN 葉山 TWO TIMES—ふたつの時間 TWO TIMES: ANTONY GORMLEY PROJECT IN HAYAMA

アントニー・ゴームリー(1950-)が世界各地で展開する、広大な風景のなかに彫刻を複数設置するアートプロジェクトのひとつ。葉山館屋上と一色海岸を望む庭に一体ずつ彫刻を設置するとともに、地域と連携した様々な関連プログラムを実施した。タイトルの「TWO TIMES」には海と山、自然と人、過去と未来など、二体の人体像に仮託されている別々の時間という意味と、美術館の内と外というふたつの時間を繋ぐという意味が込められている。このプロジェクト終了後、ゴームリー氏は2013年の第25回高松宮殿下記念世界文化賞を彫刻部門で受賞した。

主催：神奈川県立近代美術館

協力：プリティッシュ・カウンシル

後援：葉山町、葉山町教育委員会、葉山町商工会、葉山ロータリークラブ、株式会社佐藤総合計画、株式会社モマ神奈川パートナーズ(構成企業：伊藤忠商事株式会社、戸田建設株式会社、株式会社ハリマビシステム、東京センチュリーリース株式会社)

協賛：公益財団法人大林財団

企画協力：株式会社アールアンテル

会期：2012年8月18日(土)～2013年3月3日(土)

休館日：月曜日(ただし9月17日、10月8日、12月24日、1月14日、2月11日は開館)

開催日数：展示日数201日(館敷地外から観覧可能なため、設置作業終了翌日の8月14日の公開開始から撤去前日までの日数を通算)

出品総点数：2点

総観覧者数：42,725人(推定)

担当学芸員：李美那、彦根延代

関連企画

- 1) 記念講演会 2012年8月18日(土)「彫刻とトポス 一色海岸の風景とともに」講師：高橋睦郎(詩人)
- 2) 報道関係者向け作家ツアー 2012年11月4日(日) 講師：アントニー・ゴームリー(彫刻家)
- 3) 開催記念 特別講演会 11月4日(日)「アントニー・ゴームリー On Time」講師：アントニー・ゴームリー
- 4) 開催記念 作家交流会 11月4日(日)「ゴームリー氏を囲んで—開催記念 作家交流会」
- 5) 先生のための特別鑑賞の時間 11月10日(土)「番外編!アントニー・ゴームリー 彫刻プロジェクト IN 葉山 TWO TIMES—ふたつの時間」
- 6) 協力イベント「神奈川県立近代美術館とまちあるきよくばりガイドツアー」11月16日(金)、12月15日(土)、2013年2月3日(日)、3月2日(土) 主催：エコツーリズム葉山 協力：神奈川県立近代美術館
- 7) 館長トーク ①12月9日(日)「現代美術って楽しく深い」案内人：水沢勉
②2月10日(日)「二枚の西周像、そしてふたつの時間」案内人：水沢勉
- 8) ワークショップ ①12月16日(日)「ゴームリーと佇む『点音(おとだて)』」講師：鈴木昭男(サウンド・アーティスト)
②1月20日(日)「形の内と外—型をとる」講師：西雅秋(彫刻家)
③2月2日(土)「能を体験しよう」講師：辰巳満次郎(シテ方宝生流能楽師)

9) ツアー ①2013年1月13日(日)「館長が案内する神奈川県立近代美術館 3館ツアー」案内人：水沢勉

②2月16日(土)「美術館バックヤードツアー」

10) パフォーマンス ①2月2日(土)「動く彫刻 能—TWO TIMES of Noh」出演：辰巳満次郎(シテ方宝生流能楽師)、山内崇生(地謡)、辰巳大二郎(地謡)、辰巳和磨(地謡)、清水皓祐(小鼓)、小野寺竜一(笛)

②2月24日(日)「田中泯『場踊り』—カラダトアタシー」出演：田中泯(ダンサー)

③3月3日(日)「ジャズピアニスト山下洋輔氏によるパフォーマンス」出演：山下洋輔(ピアニスト)

11)「プロジェクト報告会・DVD上映会」2013年3月24日(日)

刊行物

[プロジェクト記録 ブックレット+DVD]

制作：株式会社アールアンテル

発行：神奈川県立近代美術館

・ブックレット

18.2×12.8cm、24ページ、無料

執筆：アントニー・ゴームリー、水沢勉、李美那、彦根延代 英訳：ポリー・バートン

編集：神奈川県立近代美術館、株式会社アールアンテル

写真：山本糾、藤島亮、神奈川県立近代美術館、株式会社アールアンテル

デザイン：服部一成、田部井美奈 印刷：株式会社サンエムカラー

アントニー・ゴームリー：TWO TIMES—ふたつの時間(アントニー・ゴームリー) | Antony Gormley: TWO TIMES (Antony Gormley)

複数の時間 プロジェクトを振り返って(水沢勉) | Multiple Times: Looking Back at the Gormley Project (Tsumotomu Mizusawa)

本プロジェクトの性格と地域連携(李美那) | The Character of the Project and Collaboration with the Local Community (Mina Lee)

プロジェクトの軌跡 | Project Overview

ワークショップ | Workshop

パフォーマンス | Performance

・DVD

撮影：株式会社らくだスタジオ、神奈川県立近代美術館、株式会社アールアンテル

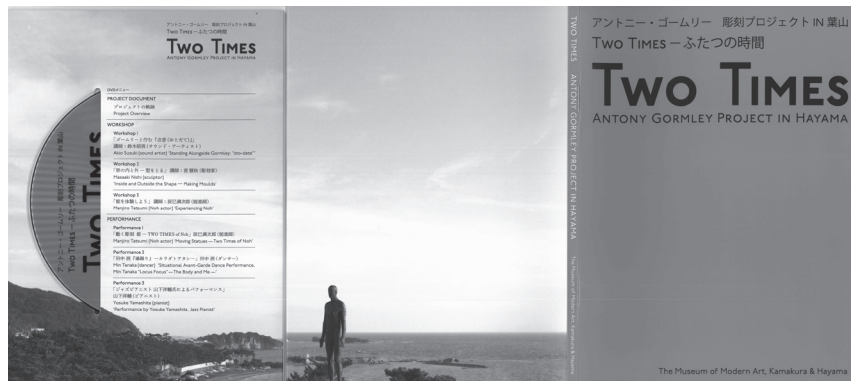
編集・映像作品制作：株式会社らくだスタジオ

日本語字幕監修：神奈川県立近代美術館、株式会社アールアンテル

英語字幕翻訳：ポリー・バートン 英語字幕監修：神奈川県立近代美術館



ワークショップ・レポート表紙



プロジェクト記録(ブックレット+DVD)

〔ワークショップ・レポート〕

25.7×18.2cm、18ページ、無料

編集・発行：神奈川県立近代美術館

デザイン：岡本洋平+島田美雪(岡本デザイン室) 写真：株式会社らくだスタジオ

概要 ゴームリー・プロジェクトとワークショップ(李美那)

講師紹介

関連記事

▼展評

- ・松永東久「山 海 二つの人体彫像が遠望 県立近代美術館葉山 英のゴームリー氏作」『毎日新聞』2012年8月28日、25面
- ・「ゴームリーの彫刻が葉山に」『朝日新聞』2012年9月5日(夕刊)、3面
- ・「ゴームリーの彫刻 2体展示 県立近代美術館葉山館、来年3月まで期間限定で」『産経新聞』2012年9月18日、19面
- ・中村英樹「無限の時空と意識の関わり ゴームリー彫刻プロジェクト」『東京新聞』2012年9月28日(夕刊)、7面
- ・「アントニー・ゴームリー来日」『広報はやま』2012年10月号、p.14、表紙
- ・岸桂子「自然へと導く彫刻 葉山でゴームリー展」『毎日新聞』2012年11月14日(夕刊)、4面
- ・「人体と空間 彫刻で模索 A・ゴームリーさん来日」『読売新聞』2012年11月24日(夕刊)、11面
- ・西岡一正「人々を映し支える天使 彫刻家ゴームリー」『朝日新聞』2012年11月28日(夕刊)、3面
- ・「自然と対話する2体の彫刻」『産経新聞』2012年12月19日、14面
- ・高橋睦郎「彫刻と詩のあいだ トポスをめぐる考察 アントニー・ゴームリー作品の神奈川県立近代美術館葉山館設置にあたって」『芸術新潮』756号、2012年12月25日、pp.84-91
- ・松島牧世「アントニー・ゴームリー 彫刻プロジェクト IN 葉山 TWO TIMES—ふたつの時間」『龍生 いけ花』633号、2013年1月1日、p.20
- ・浅田彰「実験工房・ゴームリー・瑞泉寺—冬の鎌倉から」『REALKYOTO Cultural Search Engine』2013年1月31日、<http://realkyoto.jp/blog/>
- ・水沢勉「アントニー・ゴームリー 触媒としての彫刻」『美連協ニュース』117号、2013年2月、p.15
- ・「アントニー・ゴームリー《TWO TIMESふたつの時間 2012-13年 葉山》展示風景」『BIOCITY』No.55、2013年6月27日、pp.2-5、表紙、裏表紙
- ・倉林靖「ゴームリーとジャコモメリ「開かれた人間性」のかたち」『BIOCITY』No.55、2013年6月27日、pp.114-121

▼展覧会紹介：5誌(7回)

▼情報掲載：1紙(3回)/5誌(10回)

地域連携としての

「アントニー・ゴームリー 彫刻プロジェクト IN 葉山」

李美那

このプロジェクトは、2010年10月に国が創設した「地域活性化交付金(住民生活に光をそそぐ交付金)」を受けて、「知の地域づくり」の枠組みで起こした県の事業の1つで、美術館の通常予算とは異なる仕組みで動いていました。普段は展覧会を中心に講座やワークショップが展開されるのですが、今回の枠組みでは館内で行う教育普及活動を超えた地域連携に重点が置かれており、屋外展示だったこともあって、展覧会と地域連携の両プログラムがメビウスの輪のように相互に関連しながらダイナミックに展開しました。

葉山は別荘地として知られ、今も葉山御用邸や往時の名残のある土地で、歴史の掘り起こしなど文化的活動も盛んです。葉山の文化を背景に、地域連携の第一歩として町歩きの会や町内会行事への参加を通じた近隣の方との直接交流を進め、顔の見える関係作りを心がけました。町や教育委員会など行政機関との連携を図るとともに、地域の方々と美術館との連携や協働は、このプロジェクトの基盤であり、美術館の将来の基盤となるものでもあります。

プロジェクトは、展覧会の実施と、「協働」「対話」「共有」を3つの鍵とした地域連携プログラムの両面とて成り立っています。

「協働」：地域の文化活動をリサーチし、地域の団体に美術館を「協働」の場と捉えてもらって、団体と美術館との調整で意図が合致したものについてそのアイデアを具現化しました。「葉山ロータリークラブ」によるオープニングレセプションと作家交流会の開催後援、「エコツーリズム葉山」による美術館をルートに加えた町歩きツアーが実現しました。

「対話」：作品設置場所の決定に至るプロセスは、展覧会と地域連携が複雑に関連し、「対話」の緊張をはらんだ場面でした。当初、作家であるゴームリー氏は、2体のうちの1体を一色海岸の海中に設置したいと希望していました。実現には地域の方々と直接の対話が必要と考え、2度の懇話会を地域の集会所で行いました。懇話会は、当館が葉山という地域・住民と作品をめぐって直接意見交換する初めての機会となり、緊張もありましたが、賛否を問わず率直な意見が交わされ、多様な立場や考えに対する認識をお互いに深める機会になりました。最終的には、安全性の観点から作品は美術館敷地内での設置になったのですが、懇話会を通じて得た結びつきは、その後もいろいろな面で展開し続けました。この懇話会や町内会行事、展覧会初日のレセプション、作家交流会の他、館長や担当者が作品を前にして来場者と自由に対話する機会をできるかぎり多くとり、「対話」を幅広く進めました。

「共有」：作品が設置された後、作品鑑賞の体験を「共有」する機会を創出しました。ゴームリー彫刻の持つ身体性に着目し、能・場踊り・ピアノ演奏といった身体へのアプローチの異なるパフォーマンス、聴く・型取り・身体表現といった、視覚以外の感覚を刺激するワークショップ、彫刻に文学からアプローチする講演会を行い、多くの方が参加しました。美術館からの働きかけにとどまらず、地域の方や観覧者が作品と周囲の表情を頻りに写真に記録したり、毎日散歩にきて作品の横に佇んだり、屋外展示の利点を活かした作品鑑賞の共有が自主的に多様な形で発生していました。

普段の美術館の枠組みから飛び出た展示が地域連携と絡まることで、地域の方々との関係ができ、総体としてダイナミックな空間と経験の共有が発生したプロジェクトでした。今後は、ここで得た地域との関係を一層深め広げていかれるよう、努力し続けたいと思います。

教育普及活動

受講・参加プログラム(講演会・ギャラリートーク・学校連携プログラム等)

事業名	事業内容				受講人数	
	テーマまたは内容	講師等	実施日	実施場所		
講演会	「須田国太郎展」講演会	「須田国太郎の形と色」	原田平作氏(大阪大学名誉教授)	H24.5.19	葉山館	51人
	「松本竣介展」講演会	「松本竣介と都市風景の発見」	海野弘氏(美術史家)	H24.7.7	葉山館	72人
	「松本竣介展」講演会	「松本竣介とその時代」	長門佐季(当館主任学芸員)	H24.7.14	葉山館	64人
	「ビーズ イン アフリカ展」講演会	「アフリカ、ビーズの世界」	吉田憲司氏(国立民族学博物館教授、総合研究大学院大学教授)	H24.8.4	葉山館	48人
	「TWO TIMES—ふたつの時間」記念講演会	「彫刻とトボス 一色海岸の風景とともに」	高橋睦郎氏(詩人)	H24.8.18	葉山館	70人
	「ビーズ イン アフリカ展」講演会	「民博のビーズコレクション—フィールドワークを通して」	池谷和信氏(国立民族学博物館教授、総合研究大学院大学教授)	H24.9.30	葉山館	34人
	「TWO TIMES—ふたつの時間」特別講演会	「アントニー・ゴムリー On Time」	アントニー・ゴムリー氏(彫刻家)	H24.11.4	葉山館	78人
	「桑山忠明展」講演会	「透過と交感—桑山忠明の空間について」	林道郎氏(上智大学教授、美術史/美術批評)	H24.11.24	葉山館	38人
ゲスト・トーク	「石元泰博写真展」ゲスト・トーク	「石元泰博—写真という思考」	森山明子氏(武蔵野美術大学教授)	H24.4.21	鎌倉館	44人
	「ビーズ イン アフリカ展」ゲスト・トーク	「こんなにも多様なアフリカの音楽」	ピーター・バラカン氏(ブロードキャスター)	H24.9.1	葉山館	74人
	「小野元衛展」ゲスト・トーク	「志村ふくみ語る 兄・小野元衛のこと」	志村ふくみ氏(染織作家、人間国宝)	H24.10.7	鎌倉館	73人
	「実験工房展」ゲスト・トーク	「実験工房の写真と映像」	大日方欣一氏(フォトアーキビスト、武蔵野美術大学造形研究センター客員研究員)	H25.1.19	鎌倉館	42人
アーティスト・トーク	「柚木沙弥郎展」アーティスト・トーク	アーティストによる作品解説	柚木沙弥郎氏(染色作家)	H24.5.12	鎌倉別館	146人
	「江口週展」アーティスト・トーク	アーティストによる作品解説	江口週氏(彫刻家)	H24.10.13	鎌倉館	25人
	「桑山忠明展」アーティスト・トーク	アーティストによる作品解説	桑山忠明氏(アーティスト)	H24.11.3	葉山館	58人
	「TWO TIMES—ふたつの時間」報道関係者向け作家ツアー	アーティストによる作品解説	アントニー・ゴムリー氏(彫刻家)	H24.11.4	葉山館	20人
ワークショップ	「ビーズ イン アフリカ展」ワークショップ	「ナンデモ・ビーズ・アクセサリ」	seto[瀬戸けいた氏](グラフィックデザイナー)	H24.8.26	葉山館	39人 (午前20人、午後19人)
	「ビーズ イン アフリカ展」ワークショップ	「マイオリジナル・つぶつぶ飯面」	普及課学芸員	H24.8.5	葉山館	125人
	「ビーズ イン アフリカ展」ワークショップ	「マイオリジナル・つぶつぶ飯面」	普及課学芸員	H24.9.2	葉山館	112人
	「ビーズ イン アフリカ展」ワークショップ	「マイオリジナル・つぶつぶ飯面」	普及課学芸員	H24.10.7	葉山館	65人
	「TWO TIMES—ふたつの時間」ワークショップ	「ゴムリーと佇む『点音(おとだて)』」	鈴木昭男氏(サウンド・アーティスト)	H24.12.16	葉山館	24人 (午前9人、午後15人)
	「TWO TIMES—ふたつの時間」ワークショップ	「形の内と外—型をとる」	西雅秋氏(彫刻家)	H25.1.20	葉山館	22人
	「TWO TIMES—ふたつの時間」ワークショップ	「能を体験しよう」	辰巳満次郎氏(シテ方宝生流能楽師)	H25.2.2	葉山館	22人
	「実験工房展」ワークショップ	「ガラスの球体 モビールワークショップ」	鶴飼美紀氏(美術作家)	H25.2.3	鎌倉館	11人
パフォーマンス/コンサート	「TWO TIMES—ふたつの時間」パフォーマンス	「動く彫刻 能—TWO TIMES of Noh」	辰巳満次郎氏(シテ方宝生流能楽師)、山内崇生氏(地謡)、辰巳大二郎氏(地謡)、辰巳和磨氏(地謡)、清水皓祐氏(小鼓)、小野寺竜一氏(笛)	H25.2.2	葉山館	180人
	「TWO TIMES—ふたつの時間」パフォーマンス	「田中派『場踊り』—カラダアタシ」	田中派氏(ダンサー)	H25.2.24	葉山館	220人
	「TWO TIMES—ふたつの時間」パフォーマンス	「ジャズピアニスト 山下洋輔氏によるパフォーマンス」	山下洋輔氏(ピアニスト)	H25.3.3	葉山館	300人
	「実験工房展」コンサート	「ミュージック・コンクレート/電子音楽オーデイション」再現コンサート(レクチャー付き)	川崎弘二氏(電子音楽研究)、有馬純寿氏(音響)	H25.3.10	鎌倉別館	184人
	「TWO TIMES—ふたつの時間」プロジェクト報告・DVD上映会	記録映像の上映会		H25.3.24	葉山館	33人
ギャラリートーク/ツアー	ギャラリートーク/須田国太郎展	学芸員による作品解説	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)	H24.4.14	葉山館	9人
	ギャラリートーク/須田国太郎展	学芸員による作品解説	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)	H24.5.12	葉山館	14人
	ギャラリートーク/石元泰博展	学芸員による作品解説	是枝開(当館主任学芸員)	H24.5.12	鎌倉館	35人
	ギャラリートーク/柚木沙弥郎展	学芸員による作品解説	朝木由香(当館学芸員)	H24.5.19	鎌倉別館	13人
	ギャラリートーク/石元泰博展	学芸員による作品解説	是枝開(当館主任学芸員)	H24.5.26	鎌倉館	28人
	ギャラリートーク/柚木沙弥郎展	学芸員による作品解説	朝木由香(当館学芸員)	H24.6.9	鎌倉別館	15人
	ギャラリートーク/松本竣介展	学芸員による作品解説	水沢勉(当館館長)	H24.6.16	葉山館	38人
	ギャラリートーク/鯨絵とボードレール展	学芸員による作品解説	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)	H24.6.23	鎌倉館	15人
	ギャラリートーク/松本竣介展	学芸員による作品解説	長門佐季(当館主任学芸員)	H24.6.30	葉山館	46人
	ギャラリートーク/古都鎌倉と近代美術展	学芸員による作品解説	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)	H24.7.21	鎌倉別館	19人
	ギャラリートーク/古都鎌倉と近代美術展	学芸員による作品解説	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)	H24.8.18	鎌倉別館	6人
	ギャラリートーク/ビーズ イン アフリカ展	学芸員による作品解説	朝木由香(当館学芸員)	H24.8.25	葉山館	16人
	ギャラリートーク/鯨絵とボードレール展	学芸員による作品解説	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)	H24.9.1	鎌倉館	28人
	ギャラリートーク/ビーズ イン アフリカ展	学芸員による作品解説	朝木由香(当館学芸員)	H24.9.17	葉山館	45人
	ギャラリートーク/シャガールとマチス、そしてテリアード展	学芸員による作品解説	李美那(当館主任学芸員)	H24.9.29	鎌倉館	61人
	ギャラリートーク/ビーズ イン アフリカ展	学芸員による作品解説	朝木由香(当館学芸員)	H24.10.13	葉山館	21人
	ギャラリートーク/小野元衛展	学芸員による作品解説	長門佐季(当館主任学芸員)	H24.10.14	鎌倉別館	15人
	ギャラリートーク/江口週展	学芸員による作品解説	是枝開(当館主任学芸員)	H24.10.27	鎌倉館	16人
	ギャラリートーク/江口週展	学芸員による作品解説	是枝開(当館主任学芸員)	H24.11.10	鎌倉館	10人
	ギャラリートーク/桑山忠明展	学芸員による作品解説	三本松倫代(当館学芸員)	H24.11.23	葉山館	15人
ギャラリートーク/小野元衛展	学芸員による作品解説	長門佐季(当館主任学芸員)	H24.12.8	鎌倉別館	13人	

事業名	事業内容				受講人数	
	テーマまたは内容	講師等	実施日	実施場所		
ギャラリー・トーク／シャガールとマティス、そしてテリアード展	ギャラリー・トーク／シャガールとマティス、そしてテリアード展	学芸員による作品解説	李美那(当館主任学芸員)	H24.12.22	鎌倉館	16人
	ギャラリー・トーク／桑山忠明展	学芸員による作品解説	三本松倫代(当館学芸員)	H25.1.13	葉山館	30人
	ギャラリー・トーク／実験工房展	学芸員による作品解説	西澤晴美(当館学芸員)	H25.1.27	鎌倉館	10人
	ギャラリー・トーク／戦後の出発展	学芸員による作品解説	酒井一有(当館学芸員)	H25.1.27	鎌倉別館	2人
	ギャラリー・トーク／検証・二枚の西周像展	学芸員による作品解説	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)	H25.2.3	葉山館	16人
	ギャラリー・トーク／実験工房展	学芸員による作品解説	西澤晴美(当館学芸員)	H25.2.16	鎌倉館	14人
	ギャラリー・トーク／戦後の出発展	学芸員による作品解説	榎山昌夫(当館主任学芸員)	H25.2.16	鎌倉別館	11人
	ギャラリー・トーク／検証・二枚の西周像展	学芸員による作品解説	伊藤由美(当館専門研究員)	H25.3.10	葉山館	12人
	ギャラリー・トーク／検証・二枚の西周像展	学芸員による作品解説	長門佐季(当館主任学芸員)	H25.3.17	葉山館	18人
	館長トーク／TWO TIMES-ふたつの時間・桑山忠明展	館長による作品解説	水沢勉(当館館長)	H24.12.9	葉山館	28人
	館長トーク／TWO TIMES-ふたつの時間・西周展	館長による作品解説	水沢勉(当館館長)	H25.2.10	葉山館	14人
	3館ツアー／実験工房展・戦後の出発展・桑山忠明展・TWO TIMES-ふたつの時間	館長による作品解説	水沢勉(当館館長)	H25.1.13	鎌倉館	18人
	3館ツアー／実験工房展・戦後の出発展・桑山忠明展・TWO TIMES-ふたつの時間	館長による作品解説	水沢勉(当館館長)	H25.1.13	鎌倉別館	12人
	3館ツアー／実験工房展・戦後の出発展・桑山忠明展・TWO TIMES-ふたつの時間	館長による作品解説	水沢勉(当館館長)	H25.1.13	葉山館	52人
	鎌倉ミュージアムめぐり 解説付きツアー	鎌倉市鎌木清方記念美術館、神奈川県立近代美術館、学芸員による作品解説	是枝開(当館主任学芸員)	H24.6.2	鎌倉館	7人
	鎌倉ミュージアムめぐり 解説付きツアー	鎌倉市鎌木清方記念美術館、神奈川県立近代美術館、学芸員による作品解説	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)	H24.7.7	鎌倉館	20人
	鎌倉ミュージアムめぐり 解説付きツアー	鎌倉国宝館、神奈川県立近代美術館、学芸員による作品解説	橋秀文(当館企画課長兼普及課長)	H24.8.11	鎌倉館	19人
	鎌倉ミュージアム ギャラリートーク・デー	学芸員による作品解説	李美那(当館主任学芸員)	H24.11.23	鎌倉館	24人
	鎌倉ミュージアム ギャラリートーク・デー	学芸員による作品解説	西澤晴美(当館学芸員)	H25.1.20	鎌倉館	5人
	鎌倉ミュージアム ギャラリートーク・デー	学芸員による作品解説	松尾子水樹(当館学芸員)	H25.3.17	鎌倉館	3人
美術館バックヤードツアー	学芸員による館内バックヤードの案内と解説	李美那(当館主任学芸員)	H25.2.16	葉山館	15人	
県立機関活用講座	「美は甦る―修復の現在」	「近代洋画の父・高橋由一について」	青木茂氏(明治美術学会会長)	H25.1.26	葉山館	26人
		「修復から見た明治前期の油絵―高橋由一を中心に―」	歌田眞介氏(東京藝術大学名誉教授)	H25.2.9	葉山館	38人
		「版画・素描の保存修復」	山領まり氏(山領絵画修復工房)	H25.2.23	葉山館	39人
		「彫刻の修復」	藤原徹氏(東北芸術工科大学教授)	H25.3.2	葉山館	25人
		「文化財建造物彩色の保存―剥落止めによる現状保存と剥ぎ取り及び痕跡調査による資料化―」	山内章氏(一般社団法人 天野山文化遺産研究所 代表理事)	H25.3.16	葉山館	17人
美術講座	先生のための特別鑑賞の時間／須田国太郎展	学芸員による美術館利用のガイダンス	山内舞子(当館学芸員)、橋秀文(当館企画課長兼普及課長)	H24.5.12	葉山館	4人
	先生のための特別鑑賞の時間／石元泰博展・柚木沙弥郎展	学芸員による美術館利用のガイダンス	松尾子水樹(当館学芸員)、是枝開(当館主任学芸員)	H24.5.19	鎌倉館・鎌倉別館	6人
	先生のための特別鑑賞の時間／松本竣介展	学芸員による美術館利用のガイダンス	山内舞子(当館学芸員)、長島彩音(当館学芸員)、長門佐季(当館主任学芸員)	H24.6.30	葉山館	16人
	先生のための特別鑑賞の時間／鯨絵とボードレール展・古都鎌倉と近代美術展	学芸員による美術館利用のガイダンス	松尾子水樹(当館学芸員)、橋秀文(当館企画課長兼普及課長)	H24.8.4	鎌倉館・鎌倉別館	13人
	先生のための特別鑑賞の時間／ビーズ イン アフリカ展	学芸員による美術館利用のガイダンス	鈴木智香子(当館学芸員)、朝木由香(当館学芸員)	H24.8.18	葉山館	16人
	先生のための特別鑑賞の時間／シャガールとマティス、そしてテリアード展・江口週展	学芸員による美術館利用のガイダンス	松尾子水樹(当館学芸員)、是枝開(当館主任学芸員)	H24.9.29	鎌倉館	13人
	先生のための特別鑑賞の時間／小野元衛展	学芸員による美術館利用のガイダンス	松尾子水樹(当館学芸員)、長門佐季(当館主任学芸員)	H24.10.13	鎌倉別館	8人
	先生のための特別鑑賞の時間／TWO TIMES-ふたつの時間	学芸員による美術館利用のガイダンス	山内舞子(当館学芸員)、李美那(当館主任学芸員)	H24.11.10	葉山館	15人
	先生のための特別鑑賞の時間／桑山忠明展	学芸員による美術館利用のガイダンス	長島彩音(当館学芸員)、三本松倫代(当館学芸員)	H24.10.24	葉山館	3人
	先生のための特別鑑賞の時間／二枚の西周像展	学芸員による美術館利用のガイダンス、宝箱実習	山内舞子(当館学芸員)、松尾子水樹(当館学芸員)、長門佐季(当館主任学芸員)	H25.2.2	葉山館	11人
	先生のための特別鑑賞の時間／実験工房展・戦後の出発展	学芸員による美術館利用のガイダンス	松尾子水樹(当館学芸員)、鈴木智香子(当館学芸員)、西澤晴美(当館主任学芸員)	H25.2.16	鎌倉館・鎌倉別館	9人
	ミュージアム・トリップ(鎌倉市立第一中学校連携授業)／石元泰博展	展覧会鑑賞及びワークショップ	松尾子水樹(当館学芸員)、鈴木智香子(当館学芸員)	H24.5.31	鎌倉館	7人
	ミュージアム・トリップ(鎌倉市立第一中学校連携授業)／松本竣介展	展覧会鑑賞及びワークショップ	山内舞子(当館学芸員)、鈴木智香子(当館学芸員)	H24.6.14	葉山館	9人
	ミュージアム・トリップ(鎌倉市立第一中学校連携授業)／石元泰博展	展覧会鑑賞及びワークショップ	松尾子水樹(当館学芸員)、鈴木智香子(当館学芸員)	H24.7.5	鎌倉館	8人
	ミュージアム・トリップ(鎌倉市立第一中学校連携授業)／鯨絵とボードレール展	展覧会鑑賞及びワークショップ	松尾子水樹(当館学芸員)、鈴木智香子(当館学芸員)	H24.9.6	鎌倉市立第一中学校	8人
	美術館学入門(県立藤沢清流高校連携授業)／松本竣介展	展覧会鑑賞及びワークショップ	土居由美(当館学芸員)、鈴木智香子(当館学芸員)	H24.6.28	葉山館	4人
	美術館学入門(県立藤沢清流高校連携授業)／鯨絵とボードレール展・古都鎌倉と近代美術展	展覧会鑑賞及びワークショップ	松尾子水樹(当館学芸員)	H24.9.6	鎌倉館	6人
	美術館学入門(県立藤沢清流高校連携授業)／ビーズ イン アフリカ展	展覧会鑑賞及びワークショップ	鈴木智香子(当館学芸員)	H24.10.4	葉山館	7人
	美術館学入門(県立藤沢清流高校連携授業)／桑山忠明展	展覧会鑑賞及びワークショップ	長島彩音(当館学芸員)	H24.11.8	葉山館	5人
	美術館学入門(県立藤沢清流高校連携授業)／桑山忠明展	展覧会鑑賞及びワークショップ	三本松倫代(当館学芸員)、長島彩音(当館学芸員)	H25.1.10	葉山館	31人
美術館学入門(県立藤沢清流高校連携授業)／実験工房展	展覧会鑑賞及びワークショップ	松尾子水樹(当館学芸員)	H25.1.31	鎌倉館	6人	

研修等受入プログラム(実習・研修・団体来館等)

プログラム	受入内容・件数等
博物館学芸員実習	8大学から10名
インターン研修	学芸部門：1名採用、1名に修了証を発行 保存修復部門：2名採用、2名に修了証を発行
地域連携・文化振興インターン研修 [註1]	4名採用。3名が研修を行い、うち2名に修了証を発行
高校生インターンシップ	8校／延べ9回21名
職業体験	中学校：7校／延べ13回31人
教員研修	館内での実施：3校2団体／延べ5回22名 出張教員研修：1団体／延べ1回32人
出張授業	中学校：5校／延べ7回673名 小学校：1校／延べ2回301名
「Museum Box 宝箱」貸出	貸出総回数：142個
	貸出先：17校と3団体
	貸出回数：20回
	利用総人数：1742名
	内訳概要：小学校11校／延べ11回
	中学校3校／延べ3回
	高校1校／延べ1回
	大学2校／延べ2回
	その他3団体／延べ3回
	地域：横浜市8ヶ所 藤沢市、逗子市、相模原市、東京都各2カ所 川崎市、鎌倉市、横須賀市、葉山町各1カ所
小学校：6校／延べ8回125名	
中学校：13校／延べ16回591名	
高校：5校／延べ5回595名	
大学：8校／延べ11回504名	
学校教育機関等の団体来館 [註2]	特別支援学校等：3校／延べ3回52名
	専門学校等：5校／延べ6回187名
	子ども会：1団体／延べ1回32名
	病院・福祉団体：3団体／延べ3回58名
	他美術館からの団体：6団体／延べ8回327名

[註1]
・「アントニー・ゴームリー 彫刻プロジェクト IN 葉山 TWO TIMES－ふたつの時間」を例とする地域連携・文化振興を含む当館プロジェクトに伴い、2012年度に募集。

[註2]
・団体の受入については、観覧前に美術館の紹介や、観覧マナーの説明などを行うようにし、事前に美術館ルールブックを送るなどして美術館に親しめるようつとめている。
・このデータは事前申込により把握している受入数である。事前申込のない団体もあるため、実数はこのデータを上回る。また、この他に学校教育機関以外の一般の団体来館申込がある。

2012年度(平成24年度)視察状況

年	月日	来館者	人数(左記来館者を含む)	来館場所
2012年(平成24年)	4月21日(土)	神奈川県知事 黒岩祐治	11人	葉山館
	5月17日(木)	山形県東根市総務部プロジェクト推進課 推進主査 本間和史	2人	葉山館
	11月13日(火)	福岡市美術館運営課長 合屋四郎、 福岡市財政局アセットマネジメント推進部大規模事業調整課 丸田利之	3人	葉山館
	11月18日(日)	葉山町・大磯町・真鶴町商工会	28人	葉山館
	11月22日(木)	三浦半島観光連絡協議会現地見学ミニツアー	19人	葉山館

美術図書室

1) 資料の収集・整理

- ・蔵書数(システム登録点数 2013年3月末現在) 71,103点
- ・2012年度新規図書・図録・AV資料等登録点数 1,890点
- ・2012年度雑誌新規登録件数 283点

2) 特別コレクション

- ・田淵安一氏旧蔵資料の点検終了
- ・宮田重雄氏旧蔵資料の受入
- ・青木茂氏旧蔵資料の受入

3) 閲覧サービス

- ・年間入室者数 4,849名(開館日1日平均19名)
- ・年間複写枚数 1,564枚(開館日1日平均6枚)
- ・年間レファレンス受付件数 340件

・入室者状況

美術図書室の利用では、展覧会別で「ビーズ イン アフリカ展」須田国太郎展 没後50年に顧みる」の順に入室者が多く、「ビーズ イン アフリカ展」では1日平均27名が美術図書室を利用した。なお、展覧会観覧者数に対する美術図書室入室者数の比率は、「美は甦る 検証・二枚の西周像」が14%、「ビーズ イン アフリカ展」が13%と高かった。

・レファレンス状況

レファレンス受付件数では、「ビーズ イン アフリカ展」開催期間中が最も多く、95件であった。

当年度のレファレンスとして、「1953年に鎌倉で開催された安井曾太郎・安田鞞彦・三宅克己自薦展カタログに、《湯河原風景》という作品が載っているか」「美術館ホームページに載っている『美術館に関する参考文献』を読みたい」「フォンタナの関連資料」「松本竣介《お濠端》に描かれている建物は何か」「カンディンスキーが1910年頃に刊行した版画集のタイトルは何か」「日本の水彩画がいろいろ載っている資料」などの事例があった。

4) 展覧会関連資料の展示

美術図書室では、展覧会関連資料を「特集コーナー」としてわかりやすくまとめ、来室者が手にとって閲覧できるようにしている。展覧会を見る前や後に、作家や作品の情報を得たり、更に知りたい内容を深めたりできると、来室者に好評を博している。

更に、閲覧するのが難しい稀少本や、展示室では公開されなかった資料などを展示ケースに入れ、「特別展示」としている。今年度は葉山館での5つの展覧会について「特別展示」を行った。また、「アントニー・ゴームリー 彫刻プロジェクト IN 葉山 TWO TIMES—ふたつの時間」にともない、期間中にゴームリー関連資料コーナーを設置した。

なお、展覧会関連資料の展示は鎌倉館・鎌倉別館での展覧会についても行っているが、スペースの関係上、葉山館での展覧会を主としているため、ここでは葉山館の展覧会のみを記す。

・光と影の生命 須田国太郎展 没後50年に顧みる

特別展示

須田国太郎は留学の際、エル・グレコなどの作品を模写していた。山口蓬春文庫にある『グレコ 西洋美術文庫3』(アトリエ社、1939)には、画家であり研究者でもあった須田の学識が生かされている。また、須田の晩年に当館で開催された『須田国太郎・北川民次展』(神奈川県立近代美術館、1957)、没後初の回顧展『須田国太郎遺作展』(京都市美術館、1963)を展示した。

特集コーナー

著書『近代絵画とレアリスム』(中央公論美術出版、1963)をはじめ、岡部三郎『須田国太郎資料研究 京都の美術 1』(京都市美術館、1979)、没後30年を記念して刊行された『須田国太郎画集』(京都新聞社、1992)のほか、『須田国太郎展』(京都国立近代美術館、2005)、『梅原・安井・須田展

京都が生んだ三巨匠』(上原近代美術館、2008)など、近年開催された展覧会の図録を展示した。

・生誕100年 松本竣介展

特別展示

松本竣介が亡くなった翌年に刊行された『松本竣介画集』(美術出版社、1949)や、当館で開催された『松本竣介・島崎鶏二展目録』(神奈川県立近代美術館、1958)、日本橋と盛岡で開催された『松本竣介回顧展』(白木屋、1963)、1958年当館展覧会開催後の寄贈をうけて展示した『松本竣介記念室』(神奈川県立近代美術館、1968)といった、松本竣介の作品や活動を広め、近代日本美術史に位置づける没後の動きを資料で紹介した。

特集コーナー

著書『人間風景』(中央公論美術出版、1982)、『雑記帳[復刻]』(松本竣介編集『雑記帳』復刻刊行委員会、1977)、『松本竣介手帖』(綜合工房、1985)をはじめ、『松本竣介と『雑記帳』の画家たち』(神奈川県立近代美術館、1986)、『鬚光・松本竣介そして戦後美術の出発』(東京都美術館、1977)、『新人画会展 戦時下の画家たち』(板橋区立美術館、2008)といった、同時代の画家たちのなかで松本竣介が挙げられている資料を展示した。

・国立民族学博物館コレクション ビーズ イン アフリカ

特別展示

矢代幸雄文庫より、矢代自身もその編纂にかかわった『世界美術大系別巻4 アフリカ美術』(講談社、1964)や、展覧会カタログ『アジアアフリカの美術』([高島屋]、1958)を展示した。また、斎藤義重文庫より、矢代幸雄ほか監修『黒人アフリカの美術 人類の美術』(新潮社、1968)など、ビーズで作られた仮面・人形・装飾品の図版ページを開き、展示した。

特集コーナー

キャロライン・クラブトゥリー『世界のビーズ文化図鑑』(東洋書林、2003)、『世界を集める 研究者の選んだみんぱくコレクション』(国立民族学博物館、2007)、川口幸也『アフリカの同時代美術 複数の「かたり」の共存は可能か』(赤石書店、2011)といった、収集物とその視線がもつ問題点について民族学的知見から語られている資料をはじめ、Richard B. Woodward, *African art* (Virginia Museum of Fine Arts, 1994)など、国外でもどのようにビーズやアフリカ美術が紹介され、展覧会として取り上げられているか、参考資料を展示した。特集コーナーのなかでも、池谷和信『世界のビーズ みんぱく発見5』(千里文化財団、2001)は展覧会が依拠する資料とあって、連日複写や問い合わせが多かった。

・アントニー・ゴームリー 彫刻プロジェクト IN 葉山 TWO TIMES—ふたつの時間

葉山館敷地内での彫刻プロジェクトにともない、期間中にコーナーを設置した。多くの作品集—土地 *Asian Field* (British Council, 2003)、*Broken Column* (Wigestrang, 2004)、*Antony Gormley Total Strangers* (Cantz, c1999)、*Antony Gormley Between You and Me* (Kunsthal Rotterdam, 2008)、*Antony Gormley Horizon Field Hamburg* (Deichtorhallen Hamburg, c2012)—をはじめ、当館のアントニー・ゴームリー展図録(読売新聞社・美術館連絡協議会、1996)など、国内外での活動を紹介した。

また、さまざまなワークショップ等イベント開催時には、講師に関連する資料を追加した。

・桑山忠明展 HAYAMA

特別展示

1/Triennale India Japan 1968 (Kokusai Bunka Shinkokai, 1968)、*KUWAYAMA Paintings 1980: Basel 11th international art fair 1980* (Galerie Reckermann/Galerie Valeur, 1980)、『KUWAYAMA WALLS 桑山忠明展』(アキライケダギャラリー、1981)といった図録、また2003年にタマダプロジェクトコーポレーションで開催された個展などの葉書3枚を展示した。

特集コーナー

最近の個展図録『桑山忠明ワンルームプロジェクト2006』(愛知県美術

館/名古屋市美術館、2006)、『White: Tadaaki Kuwayama Osaka project』(国立国際美術館、2011)や、作品集『桑山忠明の絵画』(光琳社、1991)、『構成主義と幾何学的抽象』(東京新聞、1984)などのほか、1960年代のミニマリズム台頭を知る参考資料として『1960年代 現代美術の転換期』(東京国立近代美術館、1981)、『ミニマルマキシマル』(千葉市美術館/京都国立近代美術館/福岡市美術館、2001)なども展示した。

・美は甦る 検証・二枚の西周像 高橋由一から松本竣介まで
特別展示

油絵技法の受容に関する資料を、青木茂文庫より展示した。最初の西洋画指導書である『西畫指南』(文部省、明治4・明治8)、その2年後の『泰西畫式』(玉山堂、明治6)、また『畫學類纂』[本多錦吉郎訳、明治22・明治23]のように、受容初期には海外の資料を翻訳して手本としていた。こうした新しい技法を学んだ成果は、たとえば『東京近傍寫景法範 第一篇・第二篇・第四篇』(陸軍文庫、明治7・明治9)にみられるように、図画教本として生かされ、地図作成や地誌調査に使われる図画教育が陸軍内で行われた。この第一篇は小山正太郎、第二篇は五姓田義松、第四篇は川上冬崖が挿画を手がけている。

特集コーナー

二枚の西周像が描かれるきっかけとなった亀井茲明についての資料『伯爵カメラマン亀井茲明展 報告書』(島根県立美術館、2004)、『亀井茲明コレクションに関する総合的研究』(木下直之研究代表、2005)をはじめ、石巻文化センターの展覧会図録を所蔵しているすべて展示し、文化財修復についての資料もあわせて展示した。

5) その他

・業務委託

2012年度は、近代美術館地域活性化映像作成等事業費により図書整備にむけた予算が生まれ、業務委託を行った。

委託した業務内容は次の3点であった。まず、新規受入図書の書誌データ作成入力作業。新規に受入する図書現物により、その書誌データ(書名、著者名、出版者、出版年、対照事項)を、指定する仕様に入力、作成する。次に、図書データの訂正確認作業および資料コードラベル貼付作業。所定の図書書誌・所蔵データを現物と照合、同定したものについて、データ確認、訂正し、資料IDラベル(バーコードラベル)を所定の場所に貼付する。もうひとつは、所蔵資料(逐次刊行物)書誌・所蔵データ入力整備作業である。当館所蔵資料のうち逐次刊行物データと資料現物を照合し、データの入力・訂正、追加作業及び書架調整を行う。これらの業務を計32日間で行った。その結果、新規受入図書書誌データ作成入力は200冊、ラベル貼付作業は3,366件、逐次刊行物書誌・所蔵データ入力整備作業は11タイトルが完了した。

(報告: 藤代知子)

美術館紹介・広報 掲載実績

1) 美術館紹介記事

・林洋子「美術館のゆくえ “近代後”の岐路で ①従来型は通用しない「近美」誕生から60年」『神奈川新聞』2012年4月16日、22面(*同内容の記事が次の紙面に掲載:『四国新聞』2012年4月9日、12面/『神戸新聞』2012年4月20日、21面)
・無記名「何でもランキング カフェも楽しめる美術館 東日本 5位 神奈川県立近代美術館葉山」『NIKKEIプラス1』2013年4月27日、1面
・宮田徹也「魅せる神奈川 館長訪問 水沢勉さん(神奈川県立近代美術館長)雑種である文化を繁栄させるべき」『新かながわ』2012年8月19日、4面
ほか計35誌(37回)

2) 普及活動関連の紹介記事

・無記名「県立近代美術館葉山「キャッチフレーズ&フォトコンテスト」結果発表」『神奈川新聞』2012年5月2日、7面
・小形秀行「かながわのおと アートで磨く感性 逗子小 手携えユニーク授業 美術館 所蔵品カードポスター教材 学芸員が“目”養う」『神奈川新聞』2012年7月30日、18面
・下野綾「もつと身近に美術館 園児に鑑賞教育の試み 教職員向け講座も」『神奈川新聞』2013年3月16日、5面

3) 収蔵作品・作家紹介記事

・岸桂子「「身ぶりの絵画」日本にも影響 ジョルジュ・マチウを悼む」『毎日新聞』2012年7月12日夕刊、4面
・無記名「破壊 留まること、収まることを拒み続けた画家・中村正義 ピエロ」『MOKU』第244号、2012年7月、p.38
・入江観「遺された言葉43 生きてみることの、この喜びや、悲しさや苦しみが唯心論か唯物論で解けると思うならば、芸術家であることを止めるかいいー松本竣介」『一枚の繪』第494号、2012年10月、p.4
・無記名「中島千波『衆生・女・阿吽』神奈川県立近代美術館蔵」/「中島千波『形態*’85-3-F・1~4』神奈川県立近代美術館蔵」『月刊美術』第446号、2012年10月、p.26/p.28
・岡部あおみ「美術評 内藤礼個展 日常の中にある聖」『東京新聞』2012年11月2日夕刊、7面
・無記名「遊ナビ 朝井閑右衛門展 彼は絵の具を耕した 他」『毎日新聞』2012年11月23日、21面
・渋沢和彦「美の扉 横須賀美術館「朝井閑右衛門展」 絵の具重ねキャンバス耕す」『産経新聞』2012年12月9日、12-13面
・吉田暁子「所蔵品紹介 No.233《彫刻と女》【参考図版】松本竣介《立てる像》」『Esplanade 福岡市美術館ニュース』第170号、2013年1月、p.7
・無記名「2013年の傾向を考える【参考図版】片岡球子「面構 葛飾北斎」神奈川県立近代美術館蔵」『アートコレクターズ』第46号、2013年1月、p.46
・文:三沢典丈、紙面構成:折尾裕子「カジュアル美術館 時代に流されない自己 ココを見て!ちりばめられた抽象表現 立てる像 松本竣介」『東京新聞』2013年2月17日、32面
・角田拓朗「観光と名品の歩み〜古都・鎌倉東京鎌倉彫2 鎌倉と近代美術 奥深い芸術家の交流」『神奈川新聞』2013年2月20日、5面

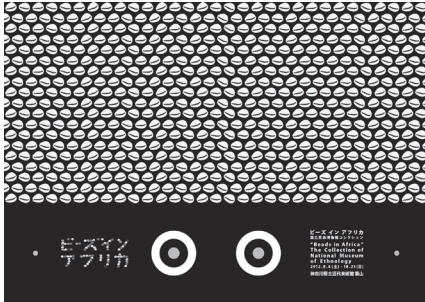
4) ホームページ(2012年4月~2012年10月)

総ページ閲覧数 1,797,532
訪問者数 315,597

刊行物

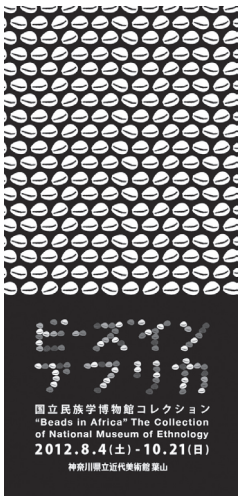
1. アート・ツール「つぶつぶ仮面」

編集・発行：神奈川県立近代美術館
 アートワーク・デザイン：seto
 18.2×25.7cm、無料配布
 2012年7月発行



2. 「ビーズ イン アフリカ展」鑑賞リーフレット

編集・発行：神奈川県立近代美術館
 アートワーク・デザイン：seto
 21.0×10.0cm、三つ折1枚、無料配布、
 多色12図
 2012年7月発行



3. 「海に恋した美術館」リーフレット

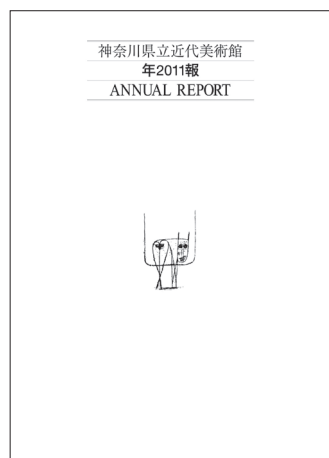
編集・発行：神奈川県立近代美術館
 29.7×21.0cm、A3二つ折1枚、無料配布、
 多色10図
 葉山館の利用案内、地図
 *2012年2月に開催した「神奈川県立近代美術館 葉山 キャッチフレーズ&フォトコンテスト」の
 受賞作品を掲載。
 2012年7月発行



4. 2011年度年報

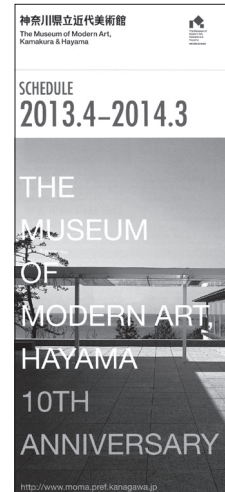
編集・発行：神奈川県立近代美術館
 制作：印象社
 29.7×21.0cm、64ページ、無料配布、多色1図、
 単色118図
 2013年3月22日発行

あいさつ／展覧会活動／教育普及活動／作品蒐集
 集管理活動／調査研究活動／運営・管理報告



5. 2012年度年間スケジュール

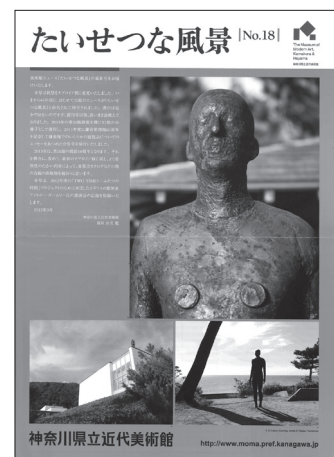
編集・発行：神奈川県立近代美術館
 制作：リーヴル
 22.5×10cm、三つ折1回二つ折1回1枚、無料配
 布、多色18図
 2012年3月発行



6. 美術館たより『たいせつな風景』 第18号
 特集：特別講演会
 「アントニー・ゴームリー On Time」

編集・発行：神奈川県立近代美術館
 制作：リーヴル
 撮影：山本紉、藤島亮
 デザイン：馬面俊之
 42.0×29.6cm、二つ折、6ページ(表紙含む)、無
 料配布、多色22図
 2013年3月15日発行

あいさつ／「アントニー・ゴームリー On Time」講
 演再録／鎌倉とゴームリー



2012年度の教育普及活動

是枝開

2012年度も前年までと同様に、子どもから年配の方々まで幅広い年齢層の人々に美術鑑賞を身近なものとし、美術がもたらす精神的な豊かさを日常生活に結びつけることを目標に、(1)啓発普及事業、(2)地域・学校との連携事業、(3)美術館情報誌等の発行による情報発信事業、を三つの柱として教育普及活動を展開してきた。

(1)の啓発普及事業では、展覧会ごとの学芸員による「ギャラリートーク」が活発に行われており、2012年度の実数は31回を数えている。さらに出品作家自身に会場で語っていただく「アーティストトーク」を4回、それぞれの展覧会に詳しい専門家や関係者による「ゲストトーク」を4回、「館長による3館ツアー」を3回、「館長トーク」を2回開催した。また各展覧会の関連企画として講演会やシンポジウム、コンサートやパフォーマンス、ワークショップを20回開催した。たとえば葉山館で開催された「ビーズ イン アフリカ展」では、展覧会に合わせて、身の回りにあるものを使ってオリジナルのアクセサリをデザインするワークショップを、講師にデザイナーの瀬戸けいた氏を招いて開催した。あるいは「実験工房展」では、電子音楽研究家の川崎弘二氏と音響の有馬純寿氏による「ミュージック・コンクレート/電子音楽オーディション」再現コンサートがレクチャー付きで開かれ、フォトアーティストの大日方欣一氏によるゲストトークが開催された。また美術家の鶴飼美紀氏を講師に、「ガラスの球体 モビールワークショップ」が開催されて、「実験工房展」で展示されているモビール作品と協働する企画として参加者にも好評であった。その他のゲストトークでは、「石元泰博写真展」で武蔵野美術大学教授の森山明子氏、「ビーズ イン アフリカ展」でブロードキャスターのピーター・バラカン氏、そして「小野元衛展」では染織作家の志村ふくみ氏にそれぞれお話しいただき活況を呈した。またアントニー・ゴームリー彫刻プロジェクトIN葉山「TWO TIMES—ふたつの時間」では、詩人の高橋陸郎氏による講演会や、サウンド・アーティストの鈴木昭男氏や彫刻家の西雅秋氏によるワークショップ、ジャズ・ピアニスト山下洋輔氏によるミニ・コンサート、あるいは舞踏家の田中泯氏や、能楽師の辰巳満次郎氏によるパフォーマンスやワークショップなど、多様な関連プログラムが開催された。

これらの展覧会の関連企画は、教育普及という意義のみならず、作家の制作の過程や背景を彷彿とさせ、その世界をひろげる内容の企画でもあり、展覧会の一部を補完する重要な役割も担っている。

加えて県立機関活用講座では、「検証・二枚の西周像展」の時期に合わせて、「美は甦る—修復の現在」と題し、それぞれの専門分野における美術作品の「修復」の仕事について、学者や修復家の方々に連続5回の講演をお願いした。一般的にはあまり知られていない分野でもあり、修復の現在をわかりやすく知る貴重な機会となった。

(2)の地域・学校との連携事業では、地域や学校による美術館の活用として、団体来館や教員研修、中学生・高校生による職業体験としての美術館の利用など、様々な形で事業を展開している。

2012年度はアート・ツールとして「ビーズ イン アフリカ」展に関連した「つぶつぶ仮面」を制作し、「わくわくゆったりセット」として夏休みの時期に18歳以下の来館者に配付した。また、「Museum Box 宝箱」は小・中学校のみならず、広く子どものための学習支援を目的とする団体などへ、人と美術館を結ぶコミュニケーション・ツールとして大いに活用され続けている。「宝箱」を使った当館学芸員による出張授業なども活発に行われており、美術館を活用した教員対象の研修の際にも鑑賞学習の方法として、これらのアート・ツールの活用を促している。「先生のための特別鑑賞の時間」は、教員や学校関係者の鑑賞学習での美術館利用を支援するプログラムであるが、各展覧会と連動する形で計11回行い、参加者の所属校との新たな連携につながっている。さらには葉山館における葉山芸術祭との連携や、鎌倉館とその近隣3館(鎌倉市鶴木清方記念美術館、鎌倉市川喜多映

画記念館、鎌倉国宝館)で行なっているスタンプラリーなど、地域と連携した事業も継続している。また学校との連携も継続しており、美術館内で授業を行う県立藤沢清流高校や鎌倉市立第一中学校などの授業も10回行われている。当館主催のイベントや学校連携事業以外の、2012年度の出張授業・教員研修・職業体験の受入れ数は29回で延べ1059名。そのほかに対応した学校教育機関の団体来館数は61回で延べ2471名である。博物館学芸員実習生、インターン、地域連携・文化振興インターン、高校生インターンは延べ36名を受入れている。それぞれに美術館への期待や要請の高さを示している。

(3)の美術館情報誌等の発行による情報発信事業では、2003年からA5判の小冊子で発行している『たいせつな風景』を、2012年3月発行の18号では、「TWO TIMES—ふたつの時間」プロジェクトのために来日したアントニー・ゴームリー氏の講演会の記録を収録して、タブロイド判で発行した。



1. アート・ツール「つぶつぶ仮面」を使ったワークショップ



2. 「実験工房展」 ガラスの球体、モビールワークショップ



3. 「小野元衛展」 志村ふくみ氏ゲスト・トーク

作品蒐集管理活動

購入・寄贈状況 2013(平成25)年3月31日現在

2011年度末の総点数	12,103点
2012年度購入点数	6点
2012年度寄贈点数	727点
2012年度取得総点数	733点
2012年度末の収蔵総点数	12,836点

寄託状況 2013(平成25)年3月31日現在

2011年度末の総点数	468点
2012年度中の解除分	223点
2012年度の新規受入分	19点
2012年度合計	264点

2012年度 新収蔵作品一覧

凡例

・寸法について、単位はcmである。版画については、イメージ寸法と支持体寸法を「/」で区切って記載した。
 素描のうち、台紙上に複数添付または描かれている場合、「;」で区切って記載した。
 ・署名年記は、書き込みの位置を示して記した。印、落款は「」で記した。

購入

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
油彩画・アクリル画など								
恩地孝四郎	裸婦(立像)	1924	油彩, カンヴァス	65.5	46.0			
幸徳幸衛	風景	1927	油彩, カンヴァス・ボード	34.3	24.0			
彫刻・インスタレーション								
桑山忠明	無題	2004	色鉛筆(赤), マイラー, ガラス, アルミニウム	37.0	35.0	3.0		22点組の1点
鈴木昭男	「点音(おとだて)」プレート・葉山 (神奈川県立近代美術館 葉山)	2012	コンクリート	直径46.0		5.0		3点組
神奈川県立近代美術館賞								
大籠弘子	一瞬 B	2012	アクリル, カンヴァス	162.0	130.3			第52回神奈川県女流美術家展
箕輪香名子	treasure hunting 2012-1	2012	シルクスクリーン, 紙	103.0	76.0		右下: Kanako Minowa'12 左下:1/5 treasure hunting 2012-1	第48回神奈川県美術展

寄贈

〈安達留美氏寄贈〉

素描・水彩画など

須田尙太	鬼	不詳	水彩, クレヨン, 紙	25.9	22.8			
須田尙太	フランス人形	不詳	水彩, パステル, 紙	40.5	25.5			
須田尙太	抽象図	不詳	水彩, 紙	25.9	22.8			
須田尙太	廓然無聖	1960年代	墨, 岩絵具, 布	27.1	24.1			
須田尙太	文楽おそめ	1963	岩絵具, 色鉛筆, 紙	27.1	24.1			
須田尙太	申歳新春	1986	墨, グワッシュ, 紙	27.1	24.1			
須田尙太	芙蓉の花	1960年代	岩絵具, 鉛筆, 紙	25.9	22.8			
須田尙太	人物	不詳	切り絵, クレヨン, 紙	31.6	23.2			
須田尙太	中国の青銅	1960年代	岩絵具, クレヨン, 紙	25.9	22.8			
須田尙太	仏	1960年代	岩絵具, 紙	25.7	22.7			
須田尙太	ザクロ	1960年代	グワッシュ, クレヨン, パステル, 鉛筆, 紙	25.9	22.8			
須田尙太	無題	1963	グワッシュ, 紙	38.0	26.0			
須田尙太	ハニワ	1960年代	グワッシュ, パステル, 紙	33.3	24.0			
須田尙太	立葵	不詳	フロッタージュ, グワッシュ, 紙	39.5	30.8			

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
須田廻太	婦人像(A)	不詳	パステル, 鉛筆, 紙	41.0	29.5			
須田廻太	婦人像(B)	不詳	パステル, 鉛筆, 紙	41.0	29.5			

彫刻・インスタレーション

須田廻太	彫像	不詳	陶土	24.5	10.0	10.0		
------	----	----	----	------	------	------	--	--

〈磯井利光氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

伊庭靖子	untitled	1996	油彩, カンヴァス	162.0	123.0			
伊庭靖子	untitled	1996	油彩, カンヴァス	73.0	92.0			
伊庭靖子	untitled	1999	油彩, カンヴァス	135.0	183.0			
伊庭靖子	untitled	2000	油彩, カンヴァス	35.0	40.0			
伊庭靖子	untitled	2000	油彩, カンヴァス	65.0	65.0			
伊庭靖子	untitled	2001	油彩, カンヴァス	150.0	150.0			

〈岩崎清氏寄贈〉

素描・水彩画など

柚木沙弥郎	トコとグーグーとキキ(絵本のための素描帖)	2004	オイルパステル, 紙	42.5	52.2	1.8		冊子
-------	-----------------------	------	------------	------	------	-----	--	----

〈岡崎和郎氏寄贈〉

彫刻・インスタレーション

岡崎和郎	キュービー人形	2005	石膏, ガラス	49.5	25.0	13.0		
岡崎和郎	招福猫児	2006	石膏に彩色	29.5	18.0	18.5		

〈香山万里恵氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

末松正樹	曙(Eos)	1983	油彩, カンヴァス	88.0	129.5			
末松正樹	プロヴァンスにて	1955	油彩, カンヴァス	89.7	71.0			
末松正樹	秋から冬へ	1967	油彩, カンヴァス	97.5	130.0			

〈北川原京子氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

香月泰男	運ぶ人	1962	油彩, カンヴァス	44	25.8			右下: YKazuki
------	-----	------	-----------	----	------	--	--	-------------

彫刻・インスタレーション

プールデル, エミール・アントワース	捧げる女	不詳	ブロンズ	50.5	29.0	23.0		
--------------------	------	----	------	------	------	------	--	--

〈気谷陽子氏寄贈〉

素描・水彩画など

永田耕衣	鯨笑図	不詳	水彩, 墨, 色紙	27.1	24.1			
永田耕衣	年とって冷たき土堤に遊びけり	不詳	水彩, 墨, 紙	12.0	16.8			
川口軌外(絵) 鈴木信太郎(書)	蘭国山房主人	不詳	水彩, 墨, 紙	28.4	39.8			
久保卓治	ギュスターヴ・モロー《ヤコブと天使の戦い》の水彩画を銀筆(シルバー・ポイント・ドローイング)で制作	1995	銀筆(シルバー・ポイント・ドローイング), 紙	18.1	9.9			

版画

石田有年	高雄山地蔵院図	明治	銅版, 紙	8.4/9.6	14.5/15.6			
石田有年	嵐山渡月橋春景	明治	銅版, 紙	8.5/10.2	14.5/15.7			
石田有年	大雲山龍安寺景	明治	銅版, 紙	8.6/9.8	14.4/15.6			
石田有年	音羽山清水寺之細図	明治	銅版, 紙	8.5/9.6	14.4/15.0			
石田有年	近江八景	明治	銅版, 紙	8.4/10.0	11.9/13.1			
石田有年	堅田落雁	明治	銅版, 紙	8.4/9.3	11.7/12.8			
石田有年	石山秋月	明治	銅版, 紙	8.5/9.6	11.7/15.1			
石田有年	勢田夕照	明治	銅版, 紙	8.4/9.4	11.5/12.4			
石田有年	矢橋掃帆	明治	銅版, 紙	8.4/9.8	11.3/13.4			
石田有年	唐崎一松景	明治	銅版, 紙	8.4/9.7	11.7/12.6			
胡子修司	胡子修司銅版画集「緑」(1)森の入口	1988	エッチング, 紙	11.6	17.5			62/70
胡子修司	胡子修司銅版画集「緑」(2)かかげろう	1988	エッチング, 紙	16.5	13.7			62/70
胡子修司	胡子修司銅版画集「緑」(3)モザイク	1988	エッチング, 紙	17.9	13.2			62/70
胡子修司	胡子修司銅版画集「緑」(4)プール	1988	エッチング, 紙	13.6	16.6			62/70
胡子修司	胡子修司銅版画集「緑」(5)水場	1988	エッチング, 紙	17.8	12.7			62/70
胡子修司	胡子修司銅版画集「緑」(6)レストハウス	1988	エッチング, 紙	19.3	14.1			62/70
胡子修司	胡子修司銅版画集「眺望」(1)箱舟	1990	エッチング, 紙	21.6/37.9	17.0/29.0			39/100 syuji Ebisu '90

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
胡子修司	胡子修司銅版画集「眺望」(2)滝の音	1990	エッチング, 紙	21.5/37.9	17.2/29.0		39/100	
胡子修司	胡子修司銅版画集「眺望」(3)洪水の夜	1990	エッチング, 紙	19.0/37.9	21.4/29.0		39/100	
胡子修司	胡子修司銅版画集「眺望」(4)岸辺	1990	エッチング, 紙	21.3/37.9	17.0/24.0		39/100	
胡子修司	胡子修司銅版画集「眺望」(5)田園	1990	エッチング, 紙	17.1/37.9	21.6/29.0		39/100	
岡田春燈斎	円山安養寺	幕末	銅版, 紙	8.0/9.1	13.1/13.6			
岡田春燈斎	華頂山知恩院 雪中景	幕末	銅版, 紙	8.1/9.0	12.6/13.6			
岡田春燈斎	四条大芝居顔見世霜曙之景	幕末	銅版, 紙	8.0/9.0	12.6/13.5			
岡田春燈斎	太秦広隆寺	幕末	銅版, 紙	7.5/8.6	12.0/12.8			
岡田春燈斎	四条大芝居顔見世霜曙之景	幕末	銅版, 紙	8.0/9.0	12.6/13.5			
岡田春燈斎	下嵯峨嵐山渡月橋	幕末	銅版, 紙	7.5/8.6	11.9/12.8			
岡田春燈斎	下嵯峨嵐山渡月橋	幕末	銅版, 紙	7.5/8.6	11.9/12.8			
岡田春燈斎	英彦山中嶽略図	幕末	銅版, 紙	8.7/10.2	14.4/15.4			
岡田春燈斎	東福寺通天橋	幕末	銅版, 紙	7.5/8.7	11.9/12.7			
岡田春燈斎	都案内独巡三條大橋ヨリ名所道法附	幕末	銅版, 紙	8.7/9.5	14.4/15.4			
岡田春燈斎	江戸不忍ヶ池弁財天春之景	幕末	銅版, 紙	7.6/9.0	11.8/13.1			
岡田露愁	夜の女王	1981	木版, 紙	62.0	49.1		左下: 32/99 右下: R.O	
岡田露愁	不詳	幕末	木版, 紙	18.0/26.3	24.1/32.8		左下: 33/50 右下: R.O	
岡田露愁	不詳	1977	木版, 紙	24.4/33.1	17.0/23.7		左下: 35/50 右下: R.O	
岡田露愁	裸の男たち	幕末	木版, 紙	24.0/32.7	18.2/32.7		左下: 9/50 右下: R.O	
岡田露愁	シルクハット	幕末	木版, 紙	24.0/32.9	18.1/23.8		左下: 10/50 右下: R.O	
落合芳幾	ばんずい長兵衛	幕末	木版, 紙	37.2	50.0			
落合芳幾	吉原十二ヶ月 (12点組)	1869	木版, 紙	(各)35.8	(各)24.2			
狩野友信	僧と小がらす	1895	木版, 紙	21.8/24.5	31.0/34.3			
柄澤齊	メリヨンへの手紙 挿画 I メリヨンの肖像	1979	木口木版, 紙	6.4/25.5	4.5/18.3			
柄澤齊	メリヨンへの手紙 挿画 II シヤントル街	1979	木口木版, 紙	16.8/25.5	7.1/18.3			
柄澤齊	メリヨンへの手紙 挿画 III 気球	1979	木口木版, 紙	6.4/25.5	4.4/18.3			
柄澤齊	Baudelaire(白)	1993	木口木版, 紙	9.8/22.3	7.4/16.0			
柄澤齊	Baudelaire(グレイ)	1993	木口木版, 紙	9.9/22.3	7.4/16.0			
柄澤齊	Baudelaire(茶)	1993	木口木版, 紙	9.9/23.0	7.4/16.9			
柄澤齊	Baudelaire(青グレイ)1	1993	木口木版, 紙	9.9/22.3	7.4/17.0			
柄澤齊	Baudelaire(金)1	1993	木口木版, 紙	10.0/24.5	7.4/18.0			
柄澤齊	Baudelaire(青グレイ)2	1993	木口木版, 紙	9.9/22.3	7.4/17.0			
柄澤齊	Baudelaire(金)2	1993	木口木版, 紙	10.0/24.5	7.4/18.0			
柄澤齊	エクス・リプリス	1993	木口木版, 紙	7.1	12.3			
柄澤齊	年賀状 龍	1988	木版, 紙	15.1	10.4			
柄澤齊	年賀状 羊	1991	木版, 紙	9.7	14.8			
柄澤齊	年賀状 猿	1992	木版, 紙	9.8	14.7			
柄澤齊	年賀状 犬	1994	木版, 紙	9.8	14.9			
柄澤齊	ふくろうハガキ	1998	木版, 紙	14.7	9.8			
柄澤齊	1989年賀状	1989	木版, 紙	16.3	11.4			
柄澤齊	年賀状 馬	1990	木版, 紙					
柄澤齊	大なる山の如きものに海に投げ入れられ (黙示録第8章8-9節)	1978	カラー・ジュ, 墨, 紙	43.0/41.6	29.6/27.8		中央: '78 右下: Hitoshi Karasawa	
柄澤齊	スフィンクスの影	1987	木口木版, 紙	9.5/20.8	6.0/9.3		中央下: ép d'artiste Hkarasawa 下中央: 1987.2.28 気谷誠氏に	
柄澤齊	スフィンクスの影	1987	木口木版, 紙	9.7/25.4	6.0/19.0			
柄澤齊	肖像 XV シャルル・メリヨン	1983	木口木版, 紙	18.6/20.3	13.0/15.0		左下: ép d'artiste 右下: Hitoshi Karasawa	
柄澤齊	『Al-Chimija』蝸牛の棲む塔或は生誕前夜	1972	木口木版, 紙	15.8/30.3	10.0/21.7		下: XXXII/XXX 蝸牛 の棲む塔 Hitoshi Karasawa	
柄澤齊	モーツァルト像	1993	木口木版, 紙	11.4/25.4	12.0/19.0		左中央: E.A. 左下: Mozart 右下: H. Karasawa 1993	
柄澤齊	モーツァルト像(試刷り)	1993	木口木版, 紙	15.1	12.0			
柄澤齊	モーツァルト像(試刷り)	1993	木口木版, 紙	17.0	16.0			
柄澤齊	『死と変容』1-20 ポート	1988	木口木版, 紙	11.2	16.4		左下: 30/70 右下: Hitoshi Kawasawa	
久保卓治	エドガー・アラン・ポー 蔵書票	1986	エッチング, エング レーヴィング, 紙	16.2/22.5	10.4/15.8		左下: Epreuve d' artiste 右下: Takuji Kubo	
久保卓治	エドガー・アラン・ポー ポートレート	1989	エッチング, 紙	12.8/22.7	9.8/15.6			
久保卓治	ナタニエル・ホーソーン ポートレート	1991	エッチング, 紙	12.7/19.5	9.5/13.3		左下: epreuve d' artiste 右下: Takuji Kubo	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
久保卓治	吸血鬼	1999	エッチング, 紙	23.5/40.0	18.7/32.0		左下: 48/100 Le Stygge 右下: Takuji Kubo	
久保卓治	ノートルダム寺院尖塔	1997	エッチング, 紙	31.6/48.9	24.4/40.6		左下: 17/100 Notre Dame, The spire 右下: Takuji Kubo	
久保卓治	シャントル街	1998	エッチング, 紙	27.6/41.5	13.6/28.0		左下: epreuve d'artiste La Rue des Chantre 右下: Takuji Kubo	
久保卓治	ギュスターヴ・モロー《ヤコブと天使の戦い》の水彩画をエングレーヴィングで制作	1995	エングレーヴィング, 紙	17.7	9.5			
芹沢銈介	ゴッホ滄歴図	不詳	木版, 紙	31.5/34.7	23.2/26.5			
竹内栄久	流行コロリタヅ	1877	木版, 紙	36.7	25.6			
橋本澄月	皇都嵐山景	幕末	銅版, 紙	8.5/9.5	14.2/15.4			
不詳	住蓮山安楽寺	幕末	銅版, 紙	8.1/9.3	14.1/15.4			
不詳	黄檗山	幕末	銅版, 紙	8.5/10.5	14.8/16.5			
不詳	黄檗山	幕末	銅版, 紙	8.5/10.2	14.7/16.1			
玄々堂	下加茂細図 糾川風景	幕末	銅版, 紙	7.4/8.4	12.0/12.9			
不詳	東山銀閣寺	幕末	銅版, 紙	7.2/8.1	12.0/13.1			
玄々堂緑山	祇園二軒茶屋下川原眺望	幕末	銅版, 紙	7.1/8.1	11.4/12.1			
玄々堂緑山	華頂山桜馬場風景	幕末	銅版, 紙	7.1/8.1	11.4/12.0			
不詳	大谷新造目鏡橋	幕末	銅版, 紙	7.1/8.1	11.4/12.0			
玄々堂	神楽岡吉田社	幕末	銅版, 紙	7.4/8.2	12.1/13.0			
緑山	内裏舞御覽出図	幕末	銅版, 紙	7.6/8.4	12.2/12.9			
玄々堂緑山	清水寺随求堂	幕末	銅版, 紙	7.1/8.1	11.4/12.0			
玄々堂緑山	加茂葵祭葵橋風景	幕末	銅版, 紙	7.6/8.2	12.1/12.9			
玄々堂緑山	洛西御室仁和寺御境内風景并御山八十八ヶ所	幕末	銅版, 紙	8.4/9.4	14.2/15.1			
玄々堂緑山	東海道五十三駅並伊勢参宮道中図	幕末	銅版, 紙	8.8/9.6	14.5/15.4			
不詳	皇都嵐山風景	幕末	銅版, 紙	8.5/9.5	14.2/15.4			
不詳	洛東華頂山知恩院細図	幕末	銅版, 紙	8.2/9.7	14.0/16.8			
不詳	東山泉涌寺	幕末	銅版, 紙	8.3/9.4	14.4/15.6			
不詳	ぢしんの辨	1855	木版, 紙	49.4	36.3			
不詳	鹿島要石真図	1855	木版, 紙	35.0	23.8			
不詳	鯨を押える鹿島大明神	1855	木版, 紙	33.7	23.8			
不詳	鹿島大神宮託白	1855	木版, 紙	36.4	24.2			
不詳	地震のまもり	1855	木版, 紙	35.5	24.4			
不詳	江戸鯨と信州鯨	1855	木版, 紙	36.4	49.7			
不詳	しんよし原大なまづゆらひ(新吉原大鯨由来)	1855	木版, 紙	34.9	50.0			
不詳	しばらくのそとね(暫くの外寝)	1855	木版, 紙	23.1	34.3			
不詳	緑の江戸楼	不詳	木版, 紙	37.9	25.6			立版古
不詳	菅原天神記車引	不詳	木版, 紙	(各)39.6	(各)26.5			立版古、5枚組。明治□年五月印刷
不詳	歌舞伎座新狂言侠客春雨傘中之町場	1897	木版, 紙	(各)37.4	(各)25.0			立版古。明治三十年六月一日印刷
不詳	明がらす庭の場	不詳	木版, 紙	(各)37.5	(各)25.5			立版古、3枚組
不詳	忠臣蔵三段目殿中刃傷の場	明治	木版, 紙	(各)34.5/39.5	(各)22.9/26.9			立版古、4枚組
不詳	義士兩國橋引上	不詳	木版, 紙	(各)34.4/36.5	(各)22.9/26.4			立版古、5枚組
不詳	源為朝大船射中図	不詳	木版, 紙	36.1	23.9			立版古
不詳	志ん志んくみあげふぞく絵	不詳	木版, 紙	37.7	24.9			立版古
不詳	大阪浪花座新狂言佐野治郎左衛門吉原仲之町の場	不詳	木版, 紙	(各)36.2/39.6	(各)23.7/26.1			立版古、3枚組
不詳	名勝会	不詳	木版, 紙	36.6	23.8			
不詳	豊国 仮名手本忠臣蔵	不詳	木版, 紙	34.5/37.2	22.8/25.5			
不詳	中村芝翫のひょうたん鯨	不詳	木版, 紙	37.2	25.0			
不詳	幻燈写心鏡 隅田川	1890	木版, 紙	37.4	25.1			
不詳	当時盛表鏡	不詳	木版, 紙	36.6	24.3			
不詳	世界転覆予防画解	1881	木版, 紙	34.7	49.2			
二代広重	諸国六十八景 加賀 白屋満	不詳	木版, 紙	22.7/24.8	16.6/18.6			
二代広重	諸国六十八景 能登 福浦湊	不詳	木版, 紙	22.2/24.8	16.7/18.2			
不詳	けんのうた はやしことば	1855	木版, 紙	24.4	36.5			
不詳	鯨を押える恵比寿神	1855	木版, 紙	24.2	36.7			
不詳	恵比寿天申訊之記	1855	木版, 紙	23.5	35.8			
不詳	面白くあつまる人が寄たかり	1855	木版, 紙	36.4	24.2			
不詳	鯨筆を震	1855	木版, 紙	23.2	34.8			
不詳	持丸屋	1855	木版, 紙	23.7	35.1			
不詳	持丸たからの出船	1855	木版, 紙	35.2	23.8			
不詳	振出し鯨薬	1855	木版, 紙	34.5	22.9			
不詳	大鯨江戸の賑ひ	1855	木版, 紙	35.9	24.3			

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
不詳	繁昌たから船	1855	木版, 紙	24.2	35.7			
不詳	鹿島恋	1855	木版, 紙	35.4	23.7			
不詳	太平の御恩沢に	1855	木版, 紙	23.8	35.6			
不詳	難義島	1855	木版, 紙	36.7	25.3			
不詳	ぢしんほうぼう ゆり状の事	1855	木版, 紙	23.0	27.4			
不詳	ひやかし鯨	1855	木版, 紙	35.5	23.9			
不詳	鯨と職人たち	1855	木版, 紙	25.0	36.4			
不詳	地震鞠うた	1855	木版, 紙	35.4	24.0			
不詳	明島花焼衣	1855	木版, 紙	35.5	24.0			
不詳	[鹿島大明神と切腹する鯨]	1855	木版, 紙	35.5	24.0			
不詳	鯨を蹴散らす伊勢神宮神馬	1855	木版, 紙	25.5	36.9			
不詳	鯨の掛軸	1855	木版, 紙	35.5	24.0			
不詳	鯨と鹿島大明神の首引	1855	木版, 紙	25.3	37.1			
不詳	二日はなし 地震亭念魚・町々庵炎上	1855	木版, 紙	25.0	36.0			
不詳	野暮台詩	1855	木版, 紙	36.0	24.8			
不詳	鯨之仇討	1855	木版, 紙	36.2	24.6			
不詳	震地口吉原船当	1855	木版, 紙	36.4	25.3			
不詳	瓢箪	1855	木版, 紙	24.1	35.4			
不詳	ちよぼくれちよんがれ	1855	木版, 紙	34.7	23.8			
不詳	さてはしんしう ぜん光寺	1855	木版, 紙	36.6	24.8			
不詳	持丸長者	1855	木版, 紙	35.5	23.1			
不詳	持丸職人長者	1855	木版, 紙	36.4	25.0			
不詳	鯨の流しもの	1855	木版, 紙	24.0	35.4			
不詳	あんしん要石	1855	木版, 紙	25.6	37.1			
不詳	諸職吾澤銭	1855	木版, 紙	37.2	49.8			
不詳	鯨へのこらしめ	1855	木版, 紙	24.0	35.5			
不詳	出現苦勳明王	1855	木版, 紙	35.5	24.0			
不詳	持丸長者腹くらべ	1855	木版, 紙	36.6	24.4			
不詳	安政二年十月二日 地震出火後日角力	1855	木版, 紙	35.4	24.0			
不詳	浮世栄 しんよしはらかりたく	1855	木版, 紙	37.9	51.2			
不詳	老なまず	1855	木版, 紙	34.2	22.4			
ドラクロワ, ウジェーヌ	メフィストフェレスとファウスト博士	1828	リトグラフ, 紙	25.9/46.3	21.0/30.9			
不詳	『百科全書』の図と解説	不詳	銅版, 紙	39.4	26.0			
サンテルヌ, ロベール	ローザン 館室内	1950年代	リトグラフ, 紙	18.4/27.0	13.9/21.2		右下: R. Santerne	
サンテルヌ, ロベール	ローザン 館外観	1950年代	リトグラフ, 紙	18.4/27.2	13.9/21.1		右下: R. Santerne	
ジョアノ, シャルル	当世風母の教え	19世紀	エングレーヴィング, 紙	20.8/21.2	14.8/15.3			
ジョアノ, トニー	湖上のキリスト	19世紀	木口木版, 紙	20.4	12.9			
テオドール, シヤセリオー	デズデモーナの死	1844	エッチング, 紙	31.6/38.2	24.7/29.1			
ドゥボワネス, A・プリユネ	湖畔の風景: 山の風景	不詳	エッチング, ルーレット, 紙	9.4;9.6/34.6	12.3;13.2/34.5			
ドラートル, オーギュスト	風車	1857	エッチング, 紙	4.7/7.6	11.7/14.7		右上: aug. Delâtre (刻字)	
ナントウイス, セレストン	アレクサンドル・デュマ著『旅の印象』の口絵	1833-34頃	エッチング, 紙	20.3/30.2	11.7/20.1			5巻のうち第1巻口絵
ナントウイス, セレストン	『天使』の口絵	1836	エッチング, 紙	19.0	13.6			
ナントウイス, セレストン	アルフォンス・ロワイエ著『ヴェネツィア ラ・ベッラ』の口絵	1833	エッチング, 紙	20.5/24.0	12.3/16.5			
バイロス	婦人像	不詳	エングレーヴィング, 紙	11.2/14.7	12.3/15.9		右下: 版刻: B. Bayros	
ヒュオ, フェリックス	アンリ・ベラルディ著『19世紀の版画家』第4巻のための口絵	1886	エッチング, ドライポイント, 紙	22.0/31.6	14.7/22.9			
ブラックモン, フェリックス	エドモン・ド・ゴンクール	1882	エッチング, 紙	11.6/14.8	8.1/11.6			
フランマン, レオポール	ヴィエイユ・ランテルヌ街	1860	エッチング, 紙	19.7/32.0	12.7/22.8			
ベーハム, ハンス・ゼーバルト	地獄のケルベロスを抑え込むヘラクレス	1545	エングレーヴィング, 紙	5.4	7.7			
ベーハム, ハンス・ゼーバルト	アダムとイヴ	1543	エングレーヴィング, 紙	8.2	5.6			
ヘルツ, ヨハン・ダニエル	『拷問集』のうちの1点	18世紀	エッチング, 紙	12.4	12.3		左下: Ioh. Dar. Hertz fec. Et exc. A. V. 右下: 22	
ベルメール, ハンス	新郎新婦	1968	エッチング, 紙	30.8/49.9	23.9/32.9		左下: 198/200 右下: Bellmer	1941年のグアッシュを版画にしたもの
マルレ, ジャン・アンリ	兵士と娘	不詳	リトグラフ, 紙	23.2/35.6	18.2/20.3			
ロベール, レオポール	占い	1831	リトグラフ, 紙	26.5	35.1			
不詳	ハーレクイン	不詳	リトグラフ, 紙	25.5	19.2			
不詳	ヴィクトル・ユゴーの首像	1902	リトグラフ, 紙	7.3/24.6	7.2/12.8			
不詳	太陽を持つ天使	不詳	リトグラフ, 紙	24.5	18.0			
不詳	12年間のエッチング	1874	エッチング, 紙	53.0	36.0	4.0		
不詳	ベテルスブルク近郊の皇帝の夏の宮殿	18世紀	エングレーヴィング, 紙	32.7/42.0	42.0/51.0			眼鏡絵
不詳	ブラハの古街の家	18世紀	エングレーヴィング, 紙	31.0/41.5	41.5/50.7			眼鏡絵

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
不詳	サン・ジェルマン教会	18世紀	エングレーヴィング, 紙	31.5/41.7	42.0/51.5			眼鏡絵
不詳	サン・トノレ通りとラソンプシオン教会の眺め	18世紀	エングレーヴィング, 紙	31.5/42.0	42.5/51.0			眼鏡絵
不詳	キャトル・ナシオン宮殿の眺め	18世紀	エングレーヴィング, 紙	31.0/41.8	41.0/51.0			眼鏡絵
不詳	マネのエッチングのカルコグラフィー「ボードレール」	不詳	カルコグラフィー, 紙	9.4/26.6	7.5/22.1			
不詳	マネのエッチングのカルコグラフィー「シルクハットのボードレール」	不詳	カルコグラフィー, 紙	10.2/24.9	8.2/22.0			
不詳	サン・ジャック・ド・ラ・ブシュリーの塔	不詳	エッチング, 手彩色, 紙	21.1/30.3	16.8/23.2			
不詳	西洋の着せ替え	不詳	木版, 紙	36.2	24.7			
不詳	無数の仏像のある寺院	不詳	カルコグラフィー, 手彩色, 紙	25.1/40.8	32.0/49.6			
不詳	“1637年のレンブラント自画像”の複製	不詳	カルコグラフィー, 紙	20.4/44.8	16.2/32.3			
不詳	アントワヌ・ワトーの複製画 人物の横顔	不詳	エッチング, 紙	16.3/27.1	11.3/18.3			
不詳	アントワヌ・ワトーの複製画 婦人	不詳	エッチング, 紙	31.5	20.5			
不詳	シャルル・ノディエ	不詳	リトグラフ, 紙	49.4	31.6			
不詳	ハリオグラヴェール	不詳	ハリオグラヴェール, 紙	34.6	24.5			図版5点
不詳	ノートルダム教会	不詳	カルコグラフィー, 紙	17.6/30.8	27.8/35.1			
不詳	ポルトガルリスボン王宮の眺め	18世紀	エングレーヴィング, 紙	27.7/32.2	41.2/45.5			眼鏡絵
不詳	パリの両替橋	18世紀	エングレーヴィング, 紙	25.2/32.2	40.0/47.6			眼鏡絵
不詳	パリのサマリテヌの眺望	18世紀	エングレーヴィング, 紙	29.6/30.8	42.6/45.0			眼鏡絵
不詳	パリのメリアン横の両替橋の眺望	18世紀	エングレーヴィング, 紙	28.9/43.4	30.8/44.2			眼鏡絵
不詳	パリのマリー橋と赤橋	18世紀	エングレーヴィング, 紙	29.5/36.0	34.0/48.6			眼鏡絵
不詳	サルベリエール王立病院	18世紀	エングレーヴィング, 紙	25.2/39.5	48.4/57.9			眼鏡絵
不詳	ボンロワイヤルの方を眺めたボン・ヌフ中央付近からのパリの眺め	18世紀	エングレーヴィング, 紙	24.2/35.8	48.3/57.6			眼鏡絵
不詳	ボンロワイヤルの方を眺めたボン・ヌフ中央付近からのパリの眺め	18世紀	エングレーヴィング, 手彩色, 紙	24.0/38.2	48.4/55.9			眼鏡絵
不詳	ブラス・ロワイヤルの眺め	18世紀	エングレーヴィング, 紙	23.8/39.5	47.5/57.1			眼鏡絵

写真・印刷物

竹久夢二	『歌劇マダムバターフライ 晴れた日の』表紙	1924	印刷, 紙	30.8	22.8			セノオ音楽出版社。大正13年8月12日再版。セノオ楽譜180番
不詳	パリ、ボン・ヌフ	19世紀	写真, 鶏卵紙	7.2	6.9		右上: 81	台紙に貼付
不詳	国立歴史民族博物館 躍動する民衆	1984	印刷, 紙	72.8	51.2			1984/11/1、B2判ポスター
不詳	バースバクティヴ	不詳	エッチング, 紙	(二折片面) 18.0/32.5	(二折片面) 12.5/25.2			
不詳	アルレッキーヌ	不詳	印刷, 紙	25.7	18.2		右下: Printed in Italy by Capitol. C. E. B. Bologna	モーリス・サンド作
不詳	アルレッキーノ	不詳	印刷, 紙	25.7	18.2		右下: Printed in Italy by Capitol. C. E. B. Bologna	モーリス・サンド作
不詳	三陸東海岸大海嘯被害図	不詳	印刷, 紙	54.1	78.9			小川一写真彫刻銅板乃印刷
不詳	ノートルダム大聖堂	不詳	印刷, 紙	29.0	20.4			メリヨン版画複製(ファクシミリ)
不詳	ノートルダム大聖堂	不詳	印刷, 紙	40.1	30.0			メリヨン版画複製(ファクシミリ)
不詳	ノートルダム大聖堂	不詳	印刷, 紙	40.1	30.0			メリヨン版画複製(ファクシミリ)
不詳	ノートルダム大聖堂	不詳	印刷, 紙	40.1	30.0			メリヨン版画複製(ファクシミリ)
不詳	ノートルダム大聖堂	不詳	印刷, 紙	40.1	30.0			メリヨン版画複製(ファクシミリ)
不詳	ノートルダム大聖堂	不詳	印刷, 紙	40.1	30.0			メリヨン版画複製(ファクシミリ)
不詳	ノートルダムの橋	不詳	印刷, 紙	29.8	40.0			メリヨン版画複製(ファクシミリ)
不詳	ノートルダムの橋	不詳	印刷, 紙	29.8	40.0			メリヨン版画複製(ファクシミリ)
不詳	大江戸地震 類焼場取附	1855	木版, 紙	21.3	14.0			
不詳	要石安政二年十月二日 江戸大地震末代断種二編	1855	木版, 紙	17.5	11.8			

彫刻・インスタレーション

柄澤齊	スフィンクスの影	1987	版木, 箱	21.5	15.3	6.0		
-----	----------	------	-------	------	------	-----	--	--

その他

柄澤齊	龍 絵柄テレフォンカード	1988	紙	8.5	5.5			
柄澤齊	シロタ画廊 木口木版画展パンフレット	1988	印刷, 紙	21.9	17.9			
柄澤齊	シロタ画廊 柄澤齊木口木版画展パンフレット	1990	印刷, 紙	22.3	18.1			
不詳	メリヨン作「ノートルダム大聖堂の傍ら」	不詳	ファクシミリ				中下: 印あり	版画複製(ファクシミリ)
不詳	Collages '88 ギャラリー池田美術パンフレット	1988	印刷, 紙	22.9	10.0			
不詳	鑿の会 木口木版画展パンフレット 追悼城所祥	不詳	印刷, 紙	21.0	14.8			
不詳	バラの騎士 ポスター	不詳	印刷, 紙	92.0	61.5			

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
不詳	玩具ボックスの劇場	不詳	紙	32.0	38.0	8.0		
不詳	覗き眼鏡	18世紀末 ～19世紀	木, 金属, ガラス	52.0	17.5(直径)			
不詳	歌舞伎座 広告	不詳	印刷, 紙	26.3	37.8			

〈栗田政裕氏寄贈〉

版画

栗田政裕	『イマジオ&ポエティカ』第38号	2012	木口木版, 紙	22.0(表紙)	18.0(表紙)			2点木口木版あり(《ガンダ ーラ 夢想》《ガンダ ーラ 1》)
栗田政裕	『イマジオ&ポエティカ』第39号	2013	木口木版, 紙	22.0(表紙)	18.0(表紙)			2点木口木版あり(《木蓮・ 阿修羅》《横草》)

〈監物武夫氏寄贈〉

日本画

川上冬崖	山水図	不詳	墨画淡彩	132.8	57.2			
------	-----	----	------	-------	------	--	--	--

〈鈴木正道, 鈴木美津子氏寄贈〉

素描・水彩画など

二見彰一	夏の流れ	1984	水彩, 紙	17.6/38.5	35.4/51.5			
二見彰一	秋のテリトリー	2000	水彩, 紙	28.9/48.0	36.8/63.0			
二見彰一	夏の庭園	2000	水彩, 紙	29.3/63.0	20.3/48.0			
二見彰一	夏のひかり	不詳	水彩, 紙	14.2/45.0	16.8/54.0			

〈荘司準氏寄贈〉

日本画

荘司福	眼(忿怒)	1967	顔料, 紙	128.8	174.3			
-----	-------	------	-------	-------	-------	--	--	--

〈角勝四郎氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

小磯良平	婦人像	1970年代	油彩, カンヴァス	48.5	48.8		右下: R KOISO	
荻須高德	Une cour(中庭)	1970年代	油彩, カンヴァス	63.5	79.3		右下: Oguiss	

〈西雅秋氏寄贈〉

その他

西雅秋	展望スペースのデザイン(A)	2012	クレヨン, コピー紙	29.6	21.0			
西雅秋	展望スペース デザイン(B)	2012	ボールペン, コピー紙	29.6	21.0			
西雅秋	展望スペース デザイン(C)	2012	色鉛筆, コピー紙	39.4	25.8			

〈野中ユリ氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

野中ユリ	発生についてI	1975頃	油彩, カンヴァス	64.5	52.4			
野中ユリ	発生についてII	1975	油彩, カンヴァス	102	72.0			
野中ユリ	発生についてIII	1975	油彩, カンヴァス	64.5	52.4			

素描・水彩画など

野中ユリ	妖精たちの森I	1976	コラージュ, 紙	49.0	33.0		右下: Yuri Nonaka 76	『妖精たちの森』講談社、 1980年
野中ユリ	妖精たちの森II	1977	コラージュ, 紙	51.0	37.5		右下: Yuri Nonaka 77	『妖精たちの森』講談社、 1980年
野中ユリ	妖精たちの森III	1977	コラージュ, 紙	52.5	37.5		左下: Yuri Nonaka 77	『妖精たちの森』講談社、 1980年
野中ユリ	妖精たちの森IV	1979	コラージュ, 紙	36.7	29.8		右下: N. Yuri	『妖精たちの森』講談社、 1980年
野中ユリ	夢の地表I 愛の歌	1978	コラージュ, パステル, 紙	76.0	55.0			
野中ユリ	夢の地表II 李朝尺	1978	コラージュ, パステル, 紙	73.7	55.0			
野中ユリ	夢の地表III 泉・あるいはここからの光	1978	コラージュ, パステル, 紙	73.7	55.0			
野中ユリ	夢の地表IV 黄金の花	1978	コラージュ, パステル, 紙	74.5	59.0			
野中ユリ	夢の地表V 緑の太陽	1978	コラージュ, パステル, 紙	74.0	55.0			
野中ユリ	夢の地表VI エメラルドの水門	1979	コラージュ, パステル, 紙	72.0	55.0			
野中ユリ	凸面鏡の自画像 パルミジアーノに	1979	コラージュ, 紙	53.5	40.5			
野中ユリ	天使について—フラ・アンジェリコ(籠の壁)	1987	コラージュ, 紙	53.5	65.0			

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
野中ユリ	天使について―フラ・アンジェリコ(兎と頌歌)	1995頃	コラージュ, 紙	20.0	32.5			
野中ユリ	天使について―フラ・アンジェリコ(癒しの手)	1994	コラージュ, 紙	24.2	33.3			
野中ユリ	心月輪の濼澤龍彦 (1)	1997	コラージュ, 紙	29.8	20.6			
野中ユリ	水の観想について 観無量寿経第二観 濼澤龍彦に捧ぐ	1986-87	コラージュ, 紙	75.0	55.5			
野中ユリ	光の世界に憩う濼澤龍彦と頻伽	1987	コラージュ, デカル コマニー, 紙	19.0	13.5			
野中ユリ	雲母の手のあるアンドレ・ブルトン(連作「愛する芸術家たちの肖像」)	1996-2002	コラージュ, 紙	37.2/42.3	24.7/31.2			
野中ユリ	沈みゆく大伽藍のアルチュール・ランボオ(連作「愛する芸術家たちの肖像」)	1997	コラージュ, 紙	33.8/49.8	20.6/36.4			
野中ユリ	ハッブル宇宙望遠鏡にイルミネイトされたアルチュール・ランボオ(連作「愛する芸術家たちの肖像」)	1997	コラージュ, 紙	27.0/36.3	27.1/49.8			
野中ユリ	オリオン大星雲のアルチュール・ランボオ(連作「愛する芸術家たちの肖像」)	1997	コラージュ, 紙	21.3/42.3	17.3/31.1			
野中ユリ	ブッダガヤの塔のあるアルチュール・ランボオ(連作「愛する芸術家たちの肖像」)	1998	コラージュ, 紙	49.0	36.5			
野中ユリ	恐ろしい砂漠のアルチュール・ランボオ(連作「愛する芸術家たちの肖像」)	1996-2002	コラージュ, 紙	22.8/22.8	28.6/28.6			
野中ユリ	タージ・マハールのあるアルチュール・ランボオ(連作「愛する芸術家たちの肖像」)	1998	コラージュ, 紙	15.8/15.8	20.7/20.7			
野中ユリ	鍍金術の元素のあるアルチュール・ランボオ(連作「愛する芸術家たちの肖像」)	1998	コラージュ, 紙	36.5	51.8			
野中ユリ	金星と鏡とシャルル・ボードレー(連作「愛する芸術家たちの肖像」)	1998	コラージュ, 紙	28.3	20.4			
野中ユリ	黄色い東洋の石のあるシャルル・ボードレー(連作「愛する芸術家たちの肖像」)	1998	コラージュ, 紙	27.5	18.7			
野中ユリ	死と少年のシャルル・ボードレー(1)(連作「愛する芸術家たちの肖像」)	1998	コラージュ, 紙	42.4	31.2			
野中ユリ	死と少年のシャルル・ボードレー(2)(連作「愛する芸術家たちの肖像」)	1998	コラージュ, 紙	28.0	19.0			
野中ユリ	マルセル・ブルーストと弟(連作「愛する芸術家たちの肖像」)	1996	コラージュ, 紙	23.0	17.2			
野中ユリ	マルセル・ブルーストと妹(連作「愛する芸術家たちの肖像」)	1996	コラージュ, 紙	36.4	25.9			
野中ユリ	大ガラス、できしも、より前にいるレーモン・ルセル(連作「愛する芸術家たちの肖像」)	1998	コラージュ, 紙	20.0	16.0		右下: Yuri Nonaka 左下: 1998.7	
野中ユリ	2つの月と土星と少年ホーキング	1995	コラージュ, 紙	42.3	31.1			
野中ユリ	花・イマジナシオンⅢ 大理石の薔薇(1)	1965	コラージュ, 紙	34.3	25.0		右下: N.Yuri	『新婦人』1965年3月号
野中ユリ	花・イマジナシオンⅢ 大理石の薔薇(2)	1965	コラージュ, 紙	34.2	25.2		右下: N.Yuri	『新婦人』1965年3月号
野中ユリ	花・イマジナシオンⅥ 花と果実の紋章(1)	1965	コラージュ, 紙	25.5/38.0	17.0/28.8		右下: N.Yuri	『新婦人』1965年6月号
野中ユリ	花・イマジナシオンⅥ 花と果実の紋章(2)	1965	コラージュ, 紙	25.7/38.0	17.2/28.8		右下: N.Yuri	『新婦人』1965年6月号
野中ユリ	無題	1962	コラージュ, 紙	11.0/24.6	23.1/40.3		右下: N. Yuri -62	三輪秀彦「禁じられた名前」『芸術生活』1962年9月号
野中ユリ	無題	1962	コラージュ, 紙	17.8/28.0	21.8/31.9		右下: N.Yuri	坂上弘「くすんだ場所」『芸術生活』1962年10月号
野中ユリ	無題	1962	コラージュ, 紙	32.5	26.0		右下: N. Yuri -62	三輪秀彦「禁じられた名前」『芸術生活』1962年9月号
野中ユリ	無題	1962-65	コラージュ, 紙	23.1/35.9	20.5/29.6		右下: N.Yuri	小佐井伸二「途絶えたセレナード」『芸術生活』1962年11月号
野中ユリ	無題	1962-65	コラージュ, 紙	30.6	38.5		右下: N.Yuri	小佐井伸二「途絶えたセレナード」『芸術生活』1962年11月号
野中ユリ	無題	1962-65	コラージュ, 紙	38.5	26.8		右下: N.Yuri	田畑麦彦「部屋」『芸術生活』1962年12月号
野中ユリ	無題	1962-65	コラージュ, 紙	38.1	31.4		右下: N.Yuri	坂上弘「くすんだ場所」『芸術生活』1963年10月
野中ユリ	無題	1962-65	コラージュ, 紙	24.0/32.7	30.7/40.5		右下: N.Yuri	田畑麦彦「部屋」『芸術生活』1962年12月号
野中ユリ	つましい者の神秘Ⅰ	1996-2002	コラージュ, 紙	27.4	23.0			
野中ユリ	つましい者の神秘Ⅱ	1995-2002	コラージュ, 紙	27.4	23.0			
野中ユリ	つましい者の神秘Ⅲ	1995-2002	コラージュ, 紙	27.4	23.0			
野中ユリ	つましい者の神秘Ⅳ	1995-2002	コラージュ, 紙	27.4	23.0			
野中ユリ	つましい者の神秘Ⅴ	不詳(1995-2002)	コラージュ, 紙	27.3/36.4	23.0/25.8			
野中ユリ	つましい者の神秘Ⅵ	不詳(1995-2002)	コラージュ, 紙	25.4/36.5	35.5/49.8			
野中ユリ	つましい者の神秘Ⅶ	1996-2002	コラージュ, 紙	25.4/36.5	35.5/49.8			
野中ユリ	つましい者の神秘Ⅷ	1995	コラージュ, 紙	25.4	35.5			
野中ユリ	青と黄のデカルコマニー	不詳	デカルコマニー, 紙	6.1	4.4		右下: N.Yuri	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
野中ユリ	青と黄のデカルコマニー	不詳	デカルコマニー, 紙	8.2	8.8		右下: N.Yuri	
野中ユリ	青い花のシリーズ 青いハート	1984	デカルコマニー, 紙	19.7	13.7			
野中ユリ	青い花のシリーズ	不詳	デカルコマニー, 紙	19.7	13.9			
野中ユリ	青い花のシリーズ	不詳	デカルコマニー, 紙	27.5	19.8			
野中ユリ	青い花のシリーズ	不詳	デカルコマニー, 紙	19.5	13.7		中央: N.Yuri	
野中ユリ	青と黄のデカルコマニー	1983頃	デカルコマニー, 紙	8.1	6.1		右下: N.Yuri	
野中ユリ	青と黄のデカルコマニー	1983頃	デカルコマニー, 紙	7.6	15.7		右下: N.Yuri	
野中ユリ	青のデカルコマニー	1983頃	デカルコマニー, 紙	17.5	21.8			
野中ユリ	青のデカルコマニー	1983	デカルコマニー, 紙	15.5	22.4		右下: N.Yuri	
野中ユリ	黒のデカルコマニー	1987	デカルコマニー, 紙	19.5	18.0		右下: N.Yuri	
野中ユリ	植物について(1)(黒のデカルコマニー)	1978	デカルコマニー, 紙	20.8	16.3		右下: N.Yuri '78	
野中ユリ	植物について(2)(黒のデカルコマニー)	1978	デカルコマニー, 紙	20.8	16.3		右下: N.Yuri '78	
野中ユリ	デカルコマニー(黒)	1966	デカルコマニー, 紙	11.4	5.5			
野中ユリ	デカルコマニー(青)	不詳	デカルコマニー, 紙	9.5;9.5	8.8;9.7			2点組
野中ユリ	デカルコマニー(青)	1966	デカルコマニー, 紙	2.8	19.2			
野中ユリ	デカルコマニー(紺)	不詳	デカルコマニー, 紙	9.3	6.5		右下: N.Yuri	
野中ユリ	デカルコマニー(黒)	不詳	デカルコマニー, 紙	18.2	18.0		右下: N.Yuri	
野中ユリ	黄と青のデカルコマニー	不詳	デカルコマニー, 紙	4.4	10.5			
野中ユリ	プラネタリウム 一角獣座	1977	コラージュ, 紙	25.3	32.0		左下: N.Yuri '77	
野中ユリ	プラネタリウム 金羊宮	1978	コラージュ, 紙	25.3	34.0		右下: N.Yuri '78	
野中ユリ	プラネタリウム 双子座	1977	コラージュ, 紙	25.3	34.0		右下: N.Yuri '77	
野中ユリ	視る人I	1979	コラージュ, デカル コマニー, 紙	35.5	30.0			
野中ユリ	視る人II	1979頃	コラージュ, デカル コマニー, 紙	35.5	26.4			
野中ユリ	光のデッサン (1)	1975頃	パステル, 紙	44.5	33.6			
野中ユリ	光のデッサン (2)	1975頃	パステル, 紙	44.5	33.6			
野中ユリ	光のデッサン (3)	1975頃	パステル, 紙	44.5	33.6			
野中ユリ	Favorite Things in Draconia	1987	コラージュ, 紙	32.7	55.5			
野中ユリ	硝煙画報 翔ぶものたちの夜	1976	コラージュ, 紙	17.8	17.8		右下: N.Yuri '76	
野中ユリ	硝煙画報 かがり火	1976	コラージュ, 紙	14.2/30	20.8/43.5			
野中ユリ	宇宙王子	1997	コラージュ, 紙	28.0	20.9			
野中ユリ	ジョバンニとカンパネラ (2)	1997	コラージュ, 紙	27.4	20.6			
野中ユリ	ジョバンニとカンパネラ (3)	1997	コラージュ, 紙	20.8	17.0			
野中ユリ	ジョバンニとカンパネラ (4)	1996- 2002	コラージュ, 紙	23.0	17.8			
野中ユリ	ジョバンニとカンパネラ (5)	1996- 2002	コラージュ, 紙	15.2	20.8			
野中ユリ	ジョバンニとカンパネラ (6) 虹の真中に坐る トシ	1997	コラージュ, 紙	9.5	12.0		右下: Yuri Nonaka 左下: 1997	
野中ユリ	ジョバンニとカンパネラ (7) 虹の真中に坐る トシ	1997	コラージュ, 紙	9.5	12.0		右下: Yuri Nonaka 左下: 1996 12	
野中ユリ	ジョバンニとカンパネラ (8)	1996- 2002	コラージュ, 紙	20.9	27.3			
野中ユリ	ジョバンニとカンパネラ (9)	1996- 2002	コラージュ, 紙	24.5	32.2			
野中ユリ	ジョバンニとカンパネラ (10)	1996- 2002	コラージュ, 紙	14.2	19.3			
野中ユリ	ジョバンニとカンパネラ (11) 天気輪の柱	1997	コラージュ, 紙	9.5	17.5			
野中ユリ	ジョバンニとカンパネラ (12) 天気輪の柱	1996- 2002	コラージュ, 紙	9.5	17.5			
野中ユリ	ジョバンニとカンパネラ (13)	1996- 2002	コラージュ, 紙	28.0	20.5			
野中ユリ	ジョバンニとカンパネラ (14)	1996- 2002	コラージュ, 紙	24.5	32.2			
野中ユリ	少年SUDANAの遍歴 (1)	2002	コラージュ, 紙	11.0	8.2			
野中ユリ	少年SUDANAの遍歴 (2)	不詳	コラージュ, 紙	10.8	8.2			
野中ユリ	少年SUDANAの遍歴 (3)	1997	コラージュ, 紙	10.8	8.2			
野中ユリ	少年SUDANAの遍歴 (4)	2002	コラージュ, 紙	10.8	8.2			
野中ユリ	少年SUDANAの遍歴 (5)	2002	コラージュ, 紙	10.0	11.4			
野中ユリ	少年SUDANAの遍歴 (6)	1998	コラージュ, 紙	13.5	18.0			
野中ユリ	連作「蓮華集」(1)	1998	コラージュ, 紙	34.7	27.0			
野中ユリ	連作「蓮華集」(2)	1996- 2002	コラージュ, 紙	34.7	27.0			
野中ユリ	連作「蓮華集」(3)	1998	コラージュ, 紙	24.3	19.3			
野中ユリ	連作「蓮華集」(4)	1995- 2002	コラージュ, 紙	24.3	19.2			
野中ユリ	連作「蓮華集」(5)	1998	コラージュ, 紙	24.3	19.2			
野中ユリ	連作「蓮華集」(6)	1998	コラージュ, 紙	34.7	27.0			
野中ユリ	連作「蓮華集」(7)	1998	コラージュ, 紙	34.7	27.0			

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
野中ユリ	連作「蓮華集」(8)	1995-2002	コラージュ、紙	15.7	11.7			
野中ユリ	連作「蓮華集」(9) 大日如来を囲むワサの寺院と僧院	1999	コラージュ、紙	24.0	17.0		右下: Yuri Nonaka '99	
野中ユリ	連作「蓮華集」(10) 小島曼陀羅による	1999	コラージュ、紙	16.0	18.5		右下: Yuri Nonaka '99	
野中ユリ	連作「蓮華集」(11)	1999	コラージュ、紙	20.8	18.6		右下: Yuri Nonaka '99	
野中ユリ	連作「蓮華集」(12)	1997	コラージュ、紙	28.6	20.9			
野中ユリ	連作「蓮華集」(13)	1997	コラージュ、紙	30.0	30.4			
野中ユリ	連作「蓮華集」(14) 高山寺の小塔	1997	コラージュ、紙	26.9	19.7			
野中ユリ	連作「蓮華集」(16)	1995-2002	コラージュ、紙	34.7	26.2			
野中ユリ	蓮とモノリス (2)	1998	コラージュ、紙	27.5	22.8			
野中ユリ	蓮とモノリス (3)	1998頃	コラージュ、紙	17.8	22.3			
野中ユリ	蓮とモノリス (4)	1998	コラージュ、紙	28.7	20.4			
野中ユリ	蓮とモノリス (5)	1998	コラージュ、紙	27.4	19.3			
野中ユリ	蓮とモノリス (6)	1998頃	コラージュ、紙	27.5	23.0			
野中ユリ	明恵賛仰 華厳会に小悟を得	不詳	コラージュ、紙	27.2	23.0			
野中ユリ	明恵上人を讃える 愛玩の二つの石に	1995-2002	コラージュ、紙	30.0	30.0			
野中ユリ	世尊拈華	1996	コラージュ、紙	12.0	9.5		右下: Yuri Nonaka 左下: 1996.12.30	
野中ユリ	世尊拈華	1997	コラージュ、紙	12.0	10.4		右下: Yuri Nonaka 左下: 1997.2.21	
野中ユリ	不詳	不詳	コラージュ、紙	27.0/42.0	19.7/31.0			
野中ユリ	To and from Olive Flower, WHITE	1972	コラージュ、紙	21.8	14.8			
野中ユリ	『写真の少女 ルイス・キャロルが撮した少女たちと人工着色ポートレート集』のための挿図原画	1972	写真、彩色、紙	21.1	14.1			
野中ユリ	『別冊 現代詩手帖』(特集 ルイス・キャロル)のための表紙原画	1972	写真、彩色、紙	/29.0	/20.0			
野中ユリ	『コリントン卿登場』のための献辞	1974	パステル、紙	29.5	22.5			
野中ユリ	『コリントン卿登場』のための挿図原画	1974	パステル、紙	29.0	22.0			
野中ユリ	『コリントン卿登場』のための挿図原画	1974	コラージュ、紙	25.5	19.4			
野中ユリ	『狂王』1	1965頃	コラージュ、紙	26.5	21.0			文: 澁澤龍彦、挿画: 野中ユリ『狂王』プレス・ビブリオマース、1966年
野中ユリ	『狂王』2	1965頃	コラージュ、紙	26.5	21.0			
野中ユリ	『狂王』3	1965頃	コラージュ、紙	26.5	21.0			
野中ユリ	『狂王』4	1965頃	コラージュ、紙	26.5	21.0			
野中ユリ	『狂王』5	1965頃	コラージュ、紙	26.5	21.0			
野中ユリ	『狂王』6	1965頃	コラージュ、紙	26.5	21.0			
野中ユリ	『狂王』7	1965頃	コラージュ、紙	26.5	21.0			
野中ユリ	『狂王』8	1965頃	コラージュ、紙	26.5	21.0			
野中ユリ	『狂王』9	1965頃	コラージュ、紙	26.5	21.0			
野中ユリ	初期コラージュ	1962	コラージュ、紙	18.2/30.9	16.0/27.2		右下: N.Yuri '62	
野中ユリ	初期コラージュ	1962	コラージュ、紙	13.9/22.6	14.2/29.4		右下: N.Yuri '62	
野中ユリ	『タルホ逆流辞典』表紙原画	1990	コラージュ、紙	22.7	16.8			高橋康雄『タルホ逆流辞典』国書刊行会、1990年
野中ユリ	『百花事典Ⅰ 女神』のための挿図原画(1)	1987	コラージュ、紙	28.0	20.0			真理花、1987年
野中ユリ	『百花事典Ⅰ 女神』のための挿図原画(2)	1987	コラージュ、紙	23.0	15.0		右下: N.Yuri 左下: 87	真理花、1987年
野中ユリ	『百花事典Ⅰ 女神』のための挿図原画(3)	1987	コラージュ、紙	28.0	20.0			真理花、1987年
野中ユリ	『百花事典Ⅲ 美』表紙原画	1987頃	コラージュ、紙	38.1/27.2	28.2/20.0			真理花、1987年
野中ユリ	『百花事典』のための挿図原画	不詳	コラージュ、紙	32/25.5	38.7/30.5			
野中ユリ	小さな生物V	不詳	コラージュ、紙	27.0	19.8			
野中ユリ	『ユリイカ』(特集 稲垣足穂)のための挿図原画	1986	コラージュ、紙	27.0	19.8			
野中ユリ	不詳	不詳	コラージュ、紙	22.8	17.0			
野中ユリ	狐のだんぶくろ	1983	コラージュ、紙	28.8	21.0			
野中ユリ	dessin	1972	水彩、紙	79.0	109.0			
野中ユリ	焰のための試作Ⅰ	不詳	水彩、紙	79.0	109.0			
野中ユリ	焰のための試作Ⅱ	不詳	水彩、紙	79.0	109.0			
野中ユリ	小さな生物Ⅰ	不詳	コラージュ、紙	27.0	19.8			
野中ユリ	小さな生物Ⅱ	不詳	コラージュ、紙	27.0	19.8			
野中ユリ	無題	1965頃	コラージュ、紙	24.6	19.0		右下: N.Yuri	
野中ユリ	須弥山伝説	1980	コラージュ、紙	42.5	45.3			『妖精たちの森』講談社、1980年
野中ユリ	魚石伝説	1980	コラージュ、紙	42.0	42.5			『妖精たちの森』講談社、1980年
野中ユリ	蛇姫様の看板絵	1954頃	コラージュ、紙	19.3	24.7			
野中ユリ	『幻想庭園』挿図原画 (1)	1971	コラージュ、紙	29.0	22.0			『草月』第77号

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
野中ユリ	『幻想庭園』挿図原画 (2)	1971	カラージュ、紙	29.0	22.0			『草月』第77号
野中ユリ	『幻想庭園』挿図原画 (3)	1971	カラージュ、紙	29.0	22.0			『草月』第77号
野中ユリ	『幻想庭園』挿図原画 (4)	1971	カラージュ、紙	29.0	22.0			『草月』第77号
野中ユリ	詩のための絵(1~7)	1978-80	カラージュ、紙	(各)29.5	(各)21.0			7点組
野中ユリ	[高橋章子イラストレーション]	1986	カラージュ、紙	31.0	21.2			
野中ユリ	『エムベドクレス』挿図原画	1966	カラージュ、紙	18.0	12.3			コレクション「サファイール」、 プレス・ビブリアオマーズ、 第2期第13号

版画

野中ユリ	『野中ユリ彩色版画 I 大洪水の後』	1975	リトグラフ、コロタイプ、紙	59.1	44.7			
野中ユリ	『野中ユリ彩色版画 II 神秘』	1975	リトグラフ、コロタイプ	59.1	44.7			
野中ユリ	『野中ユリ彩色版画 III 神秘』	1975	リトグラフ、コロタイプ、紙	59.1	44.7			
野中ユリ	『野中ユリ彩色版画 IV 花々』	1975	リトグラフ、コロタイプ、紙	59.1	44.7			
野中ユリ	『野中ユリ彩色版画 V 野蛮』	1975	リトグラフ、コロタイプ、紙	59.1	44.7			
野中ユリ	美しい村	1981	アクアチント、紙	32.2	23.4			右下：N.Yuri
野中ユリ	不詳	1979	アクアチント、紙	36.2/56.4	39.8/58.2			右下：N.Yuri '79
野中ユリ	硝煙画報 バンジー	1976頃	シルクスクリーン、紙	30.0	43.6			右下：N.Yuri 左下：Test Proof HC
野中ユリ	硝煙画報 菜の花	1976頃	シルクスクリーン、紙	30.0	43.5			右下：N.Yuri 左下：Test Proof HC
野中ユリ	硝煙画報 [無題]	1976頃	シルクスクリーン、紙	14.1	22.1			
野中ユリ	火一女	不詳	リトグラフ、紙	18.8	12.5			左下：N.Yuri
野中ユリ	火一男	不詳	リトグラフ、紙	18.8	12.5			左下：N.Yuri
野中ユリ	ふたつの手	不詳	銅版、紙	10.0;12.1/45.0	15.0;15.0/32.0			右下：N.Yuri 左下：essai 2点組
野中ユリ	海辺を横切るボツンとジャン	1958	銅版、紙	17.0;17.1/41.8	9.0;9.0/38.7			2点組
野中ユリ	不詳	不詳	銅版、紙	(各)19.6	(各)13.0			2点組
野中ユリ	燃える錠	1958	銅版、紙	34.2	26.4			
野中ユリ	使者	1958	銅版、紙	26.1	34.3			
野中ユリ	美しい村	1981	アクアチント、紙	32.0/51.5	23.5/39.7			左下：Ep.
野中ユリ	二つの庭	1980	アクアチント、紙	36.2/52.5	29.4/39.2			左下：29/50
野中ユリ	不詳	不詳	印刷、紙	21.7	31.2			
野中ユリ	白い王様	1957	銅版、紙	13.8	13.2			
野中ユリ	ヒアリアスの座	1959頃	銅版、紙	27.3	26.2			左下：Ep. d'artiste 右下：N.Yuri
野中ユリ	無題	1965頃	銅版、紙	16.2/21.3; 16.2/21.3	28.8/33.8; 28.8/33.6			2点組
野中ユリ	『ことばの食卓』挿図(1~12)	1981-1983	シルクスクリーン、紙	(各)20.8	(各)15.4			12点組

スケッチブックなど

土方 興/滋澤 龍彦/中西夏之/加藤 郁乎/池田満寿夫/飯島耕一/加納光於/三好豊一郎/中村宏/吉岡賢/瀧口修造/野中ユリ	『あんま』より	1968	版画集	(各)38.0	(各)66.1			11点組
---	---------	------	-----	---------	---------	--	--	------

その他

詩：瀧口修造、 絵・造本：野中ユリ	『星は人の指ほどの一』	1965	印刷、紙	46.8	39.0			野中ユリ私家版、小型本の額装版
詩：瀧口修造、 絵・造本：野中ユリ	『星は人の指ほどの一』	1965	印刷、紙	12.3	11.7			野中ユリ私家版、エディション195/250
詩：瀧口修造、 絵・造本：野中ユリ	『星は人の指ほどの一』	1965	印刷、紙	12.3	11.7			野中ユリ私家版、エディション196/250
野中ユリ	『ユリイカ』〈特集 アンドレ・ブルトン〉抜き刷り	1991	印刷、紙	22.6	14.3			
野中ユリ	『エムベドクレス』	1966	印刷、紙	18.0	12.3			コレクション「サファイール」、 プレス・ビブリアオマーズ、 第2期第13号
野中ユリ	高橋睦郎詩集『私』宣伝用印刷物	不詳	印刷、紙	51.4	36.4			
野中ユリ	高橋睦郎詩集『私』宣伝用印刷物(試し刷り1~3)	不詳	印刷、紙	(各)51.4	(各)36.4			
野中ユリ	『幻想庭園』刷り出し	1971	印刷、紙	29.0	22.0			『草月』第77号
野中ユリ	『吸血鬼幻想』のための表紙装丁	不詳	印刷、紙	32.0	46.9			
野中ユリ	「O氏の死者の書」	1976	印刷、紙	25.7	18.3			アバッシュ館、エディション56/200

〈富永健氏寄贈〉

油彩、カンヴァス

原勝郎	風景	1938	油彩、カンヴァス	46.0	55.0			左下 KATURO HARA 1938
-----	----	------	----------	------	------	--	--	---------------------

〈二見彰一氏寄贈〉

素描・水彩画など

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	書名年記・書込み等	備考
二見彰一	森の館	1984	水彩、紙	25.0	15.0			
二見彰一	青い風景	1984	水彩、色鉛筆、紙	16.0	22.5			
二見彰一	秋の風景・フリースランド(2)	1984	水彩、紙	16.5	23.9			
二見彰一	霧が立つ	1988	水彩、紙	12.4	18.9			
二見彰一	海辺のひかり	1988	水彩、色鉛筆、紙	17.0	12.7			
二見彰一	幻の村	1988	水彩、色鉛筆、紙	15.4	12.6			
二見彰一	海のまつり	1988	水彩、紙	10.9	15.5			
二見彰一	秋の断片	1988	水彩、コラージュ、紙	15.4	11.0			
二見彰一	星の道	1988	水彩、色鉛筆、紙	13.0	25.8			
二見彰一	初夏のリズム	1989	水彩、紙	12.9	18.1			
二見彰一	小さい惑星のフーガ	1988	水彩、紙	16.0	11.5			
二見彰一	虹の残影	1996	水彩、紙	16.8	12.0			
二見彰一	花の対話	1995	水彩、紙	12.2	11.2			
二見彰一	極北のモニュメント	1996	水彩、紙	16.8	12.0			
二見彰一	浮遊	1988	水彩、紙	17.0	11.9			
二見彰一	朝のうた	1996	水彩、紙	15.4	11.0			
二見彰一	朝のしらせ	1996	水彩、コラージュ、デカルコマニー、紙	14.8	10.2			
二見彰一	冬と早春の挨拶	1996	水彩、色鉛筆、紙	22.3	18.0			
二見彰一	秋の標本	1996	水彩、コラージュ、紙	15.1	10.8			
二見彰一	秋のしるし	1996	水彩、紙	12.3	9.8			
二見彰一	バルーン・フェスト	2002	水彩、コラージュ、紙	17.0	29.7			
二見彰一	風媒花	2002	水彩、紙	21.0	14.6			
二見彰一	気分のおもむくままに	2005	水彩、コラージュ、紙	18.4	13.0			
二見彰一	白いモノローグ	2006	水彩、デカルコマニー、紙	15.5	11.0			
二見彰一	霧の塔	2006	水彩、紙	17.0	24.0			
二見彰一	スターズ・ストリート	2006	水彩、色鉛筆、紙	15.0	25.9			
二見彰一	水辺のトリオ	2006	水彩、デカルコマニー、紙	9.6	15.6			
二見彰一	ホルンのヴァリエーション	2007	水彩、色鉛筆、紙	18.9	14.0			
二見彰一	遠い塔	2007	水彩、紙	15.5	11.0			
二見彰一	ボトル・コンビネーション	2007	水彩、色鉛筆、紙	17.6	25.0			
二見彰一	朝のひかり	1994	水彩、色鉛筆、紙	23.4	16.0			
二見彰一	水のメタモルフォーゼ(1)	1983	水彩、紙	63.0	46.3			
二見彰一	カプリース(1)	1987	水彩、紙	30.0	40.0			
二見彰一	カプリース(2)	1987	水彩、紙	30.0	39.0			
二見彰一	弾む音	1987	水彩、紙	23.0	36.0			
二見彰一	庭でくつろぐとき	1993	水彩、紙	45.0	30.0			
二見彰一	アリアを歌う	1993	水彩、紙	50.7	35.1			
二見彰一	北海帆走	1993	水彩、バステル、紙	28.8	42.0			
二見彰一	薄暮帆走	1993	水彩、紙	20.7	29.0			
二見彰一	フーガ・イン・ウインター	1993	水彩、コラージュ、紙	32.4	39.9			
二見彰一	針路は北北西	1994	水彩、紙	38.0	29.5			
二見彰一	ホークジールのヨットハーバー	1994	水彩、紙	31.0	40.8			
二見彰一	M氏の庭園にて	1999	水彩、紙	35.8	49.8			
二見彰一	出会いのコンビネーション	2007	水彩、色鉛筆、紙	26.7	36.0			
二見彰一	アクア・カンタータ(1)	2010	水彩、色鉛筆、紙	51.0	71.8			
二見彰一	アクア・カンタータ(2)	2010	水彩、色鉛筆、紙	51.0	71.8			
二見彰一	アクア・カンタータ(3)	2010	水彩、色鉛筆、紙	51.0	71.8			
二見彰一	きらめく風	1987	水彩、色鉛筆、紙	27.6	38.0			
二見彰一	瓶のコンビネーションのデッサン(1)	不詳	鉛筆、紙	26.5	35.5			
二見彰一	瓶のコンビネーションのデッサン三態	不詳	鉛筆、紙	10.0	14.8			
二見彰一	瓶とガラスのデッサン	不詳	色鉛筆、紙	38.0	49.0			
二見彰一	瓶のコンビネーションのデッサン(3)	不詳	色鉛筆、紙	32.0	38.0			
二見彰一	作品No.251と252のためのデッサン	不詳	鉛筆、紙	22.0	32.5			
二見彰一	デッサン・秋の印象	1993	水彩、コラージュ、紙	50.5	35.5			
二見彰一	瓶のコンビネーションのデッサン(2)	不詳	黒字に白色鉛筆、紙	17.5	25.0			
二見彰一	ラウンド・ミッドナイト(2)	1969	エッチング、アクアチント、紙	22.6	38.0			
二見彰一	「ボリスは来なかった」新潮文庫本カバー 原画	1991	アクアチント、コラージュ、紙	16.0	11.7			

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
二見彰一	カナルのほとり	1988	水彩, デカルコマニール, 紙	10.5	13.0			
二見彰一	堤防のある風景・フリースランド	1993	水彩, コラージュ, 紙	32.4	46.7			
二見彰一	嵐の北海	1993	水彩, 紙	29.7	39.5			
二見彰一	朝のひかりの中で	2007	水彩, 色鉛筆, 紙	28.0	33.4			
二見彰一	水のメタモルフォーゼ(2)	1983	水彩, 紙	34.8	47.1			
その他								
一原有徳	[1977年の年賀状(一原有徳から二見彰一宛)]	1976	銅版, 紙	4.9/14.8	7.0/10.0			台紙に貼付
一原有徳	[1978年の年賀状(一原有徳から二見彰一宛)]	1977	銅版, 紙	6.9/14.8	7.7/10.0			台紙に貼付
一原有徳	[1978年の葉書(一原有徳から二見彰一宛)]	1978	銅版, 紙	5.8/14.8	4.0/10.0			台紙に貼付
一原有徳	[1978年の葉書(一原有徳から二見彰一宛)]	1978	銅版, 紙	3.5/14.8	6.0/10.0			台紙に貼付
一原有徳	[1979年の葉書(一原有徳から二見彰一宛)]	1979	銅版, 紙	3.1/14.8	6.3/10.0			台紙に貼付
一原有徳	[1979年の年賀状(一原有徳から二見彰一宛)]	1978	銅版, 紙	7.5/14.8	5.1/10.0			台紙に貼付
一原有徳	[1980年の年賀状(一原有徳から二見彰一宛)]	1979	銅版, 紙	14.8/14.8	10.0/10.0		画面下: I. Arinori	
一原有徳	[1979年の葉書(一原有徳から二見彰一宛)]	1979	銅版, 紙	4.7/14.8	4.4/10.0		台紙右下: I. Arinori	台紙に貼付
一原有徳	[1984年の年賀状(一原有徳から二見彰一宛)]	1983	銅版, 紙	10.0/14.8	7.1/10.0		左下: □/□ 右下: I. Arinori	封筒入り、手紙同封
一原有徳	[1994年の年賀状(一原有徳から二見彰一宛)]	1993	銅版, 紙	7.8/14.8	5.3/10.0			台紙に貼付
一原有徳	[1993年の年賀状(一原有徳から二見彰一宛)]	1992	銅版, 紙	5.2/14.8	4.4/10.0			台紙に貼付
一原有徳	[1996年の年賀状(一原有徳から二見彰一宛)]	1995	銅版, 紙	5.2/14.8	5.0/10.0			
一原有徳	[1995年の年賀状(一原有徳から二見彰一宛)]	1994	銅版, 紙	3.3/14.8	6.5/10.0			
一原有徳	[1997年の年賀状(一原有徳から二見彰一宛)]	1996	銅版, 紙	7.6/14.8	7.3/10.0		右下: I. Arinori	台紙に貼付
一原有徳	[1999年の年賀状(一原有徳から二見彰一宛)]	1998	銅版, 紙	3.4/14.8	5.2/10.0		左下: '98 右下: I. Arinori	台紙に貼付
一原有徳	[1991年の葉書(一原有徳から二見彰一宛)]	1990	銅版, 紙	14.8	10.0			台紙に貼付
一原有徳	[1981年の葉書(一原有徳から二見彰一宛)]	1980	銅版, 紙	5.1/14.8	5.8/10.0			台紙に貼付
一原有徳	[1982年の葉書(一原有徳から二見彰一宛)]	1981	銅版, 紙	9.7	14.5			台紙に貼付
萩原英雄	[1976年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1975	木版, 紙	14.8	10.0			
萩原英雄	[1975年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1974	木版, 紙	14.8	10.0		卯の春	
萩原英雄	[1978年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1977	木版, 紙	14.8	10.0		春	
萩原英雄	[1977年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1976	木版, 紙	14.8	10.0		はるの雪	
萩原英雄	[1980年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1979	木版, 紙	14.8	10.0			
萩原英雄	[1979年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1978	木版, 紙	14.8	10.0			
萩原英雄	[1982年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1981	木版, 紙	10.0	14.8			
萩原英雄	[1981年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1980	木版, 紙	14.8	10.0		初春之賦	
萩原英雄	[1984年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1983	木版, 紙	10.0	14.8		春の子 左下: h. h	
萩原英雄	[1983年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1982	木版, 紙	10.0	14.8		春	
萩原英雄	[1986年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1985	木版, 紙	10.0	14.8		賀	
萩原英雄	[1985年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1984	木版, 紙	10.0	14.8			
萩原英雄	[1988年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1987	木版, 紙	10.0	14.8		賀	
萩原英雄	[1987年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1986	木版, 紙	10.0	14.8			
萩原英雄	[1990年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1989	木版, 紙	10.0	14.8			
萩原英雄	[1989年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1988	木版, 紙	10.0	14.8			
萩原英雄	[1992年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1991	木版, 紙	10.0	14.8			
萩原英雄	[1991年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1990	木版, 紙	10.0	14.8		しんしゅん	
萩原英雄	[1995年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1994	木版, 紙	10.0	14.8		亥春	
萩原英雄	[1993年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1992	木版, 紙	14.8	10.0			
萩原英雄	[1997年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1990	木版, 紙	10.0	14.8		寿	
萩原英雄	[1996年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1995	木版, 紙	10.0	14.8		賀	
萩原英雄	[1999年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1998	木版, 紙	14.8	10.0		卯	
萩原英雄	[1998年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1997	木版, 紙	10.0	14.8			
萩原英雄	[2001年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	2000	木版, 紙	10.0	14.8			
萩原英雄	[2000年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	1999	木版, 紙	10.0	14.8			
萩原英雄	[2003年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	2002	木版, 紙	10.0	14.8			
萩原英雄	[2002年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	2001	木版, 紙	10.0	14.8			
萩原英雄	[2005年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	2004	木版, 紙	10.0	14.8			
萩原英雄	[2004年の年賀状(萩原英雄から二見彰一宛)]	2003	木版, 紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1969年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1968	木版, 紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1968年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1967	木版, 紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1971年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1970	木版, 紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1972年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1971	木版, 紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1974年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1973	木版, 紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1973年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1972	木版, 紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1975年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1974	木版, 紙	13.2	10.0			
清宮質文	[1976年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1975	木版, 紙	14.8	10.0			

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
清宮質文	[1977年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1976	木版、紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1978年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1977	木版、紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1979年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1978	木版、紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1980年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1979	木版、紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1982年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1981	木版、紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1981年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1980	木版、紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1984年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1983	木版、紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1983年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1982	木版、紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1986年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1985	木版、紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1985年の葉書(清宮質文から二見彰一宛)]	1985	木版、紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1988年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1987	木版、紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1987年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1986	木版、紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1989年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1988	木版、紙	14.8	10.0			
清宮質文	[1991年の年賀状(清宮質文から二見彰一宛)]	1990	木版、紙	14.8	10.0			

〈橋秀文氏寄贈〉

日本画

玉村方久斗	葡萄園	不詳	二曲一隻、金紙、墨、岩絵具	138.8	139.0			
玉村方久斗	能因法師	1926-27頃	紙本着彩、軸装	45.3	56.2			

〈濱素紀氏寄贈〉

版画(日本)

若林奮	W50000	1962	エッチング、紙	8.6	21.1			
-----	--------	------	---------	-----	------	--	--	--

〈松谷武判氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

松谷武判	空	1979	ビニール接着剤によるレリース、鉛筆、和紙、カンヴァス	185.0	144.5	6.0		
------	---	------	----------------------------	-------	-------	-----	--	--

〈丸山雅秋氏寄贈〉

彫刻・インスタレーション

丸山雅秋	春を待つ No.1	1986	ブロンズ	38.0	9.5	11.5	台座:[雅]	
丸山雅秋	存在と関係	2006	ブロンズ	17.5	17.5	16.5	右側面右下:[雅4/5]	

〈山下昌子氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

山下菊二	無題	不詳	油彩、板	38.8	30.3			
------	----	----	------	------	------	--	--	--

素描・水彩画など

山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (61)	1973-74	コンテ、紙	29.9	24.3			第1回 安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画/山下菊二 構成/吉田臣 『朝日ジャーナル』連載21回 1973.9.7～1974.2.8
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (62)	1973-74	コンテ、紙	17.9	20.3			第1回 同上
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (63)	1973-74	コンテ、紙	15.3	15.6			第1回 同上
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (64)	1973-74	コンテ、紙	16.9	7.2			第2回 同上
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (65)	1973-74	コンテ、紙	19.9	16.3			第4回 同上
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (66)	1973-74	コンテ、紙	12.5	17.9			第7回 同上
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (67)	1973-74	コンテ、紙	19.7	11.9			第7回 同上
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (68)	1973-74	コンテ、紙	27.3	24.1			第8回 同上
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (69)	1973-74	コンテ、紙	29.0	21.9			第8回 同上
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (70)	1973-74	コンテ、紙	26.5	14.4			第13回 同上
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (71)	1973-74	コンテ、紙	24.0	16.0			第15回 同上
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (72)	1973-74	コンテ、紙	23.4	18.1			第17回 同上
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (73)	1973-74	コンテ、紙	24.0	17.0			第18回 同上
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (74)	1973-74	コンテ、紙	23.0	11.6			第5回 同上

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (75)	1973-74	コンテ, 紙	15.0	11.1			第2回 同上
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (76)	1973-74	コンテ, 紙	18.6	26.0			第21 同上
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (77)	1973-74	コンテ, 紙	26.0	11.0			第8回 同上
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (78)	1973-74	コンテ, 紙	20.9	16.9		裏:2 左下:聊齋②コ オロギの声 成名	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (79)	1973-74	コンテ, 紙	16.9	13.7		裏:2 左下:聊齋②コ オロギの声 コオロギ	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (80)	1973-74	コンテ, 紙	14.0	11.7		裏:2	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (81)	1973-74	コンテ, 紙	18.1	16.0		裏:2 左下:聊齋②コ オロギの声 コオロギ	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (82)	1973-74	コンテ, 紙	17.0	15.3		裏:2 左下:聊齋②コ オロギの声 コオロギ	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (83)	1973-74	コンテ, 紙	15.2	14.0		裏:2 左下:聊齋②コ オロギの声 コオロギ	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (84)	1973-74	コンテ, 紙	25.6	17.2		裏:3 左下:聊齋③恐 妻と科挙と大清の国 礎をかためた清太宗 (1597~1643)	
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (85)	1973-74	コンテ, 紙	16.9	16.2		裏:6	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (86)	1973-74	コンテ, 紙	11.9	16.5		裏:8	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (87)	1973-74	コンテ, 紙	26.9	23.9		裏:8	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (88)	1973-74	コンテ, 紙	22.4	15.8		裏:9	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (89)	1973-74	コンテ, 紙	22.7	13.3		裏:9	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (90)	1973-74	コンテ, 紙	14.5	22.6		裏:9	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (91)	1973-74	コンテ, 紙	13.0	10.4		裏:10	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (92)	1973-74	コンテ, 紙	19.3	14.9		裏:11	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (93)	1973-74	コンテ, 紙	22.9	15.7		裏:13	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (94)	1973-74	コンテ, 紙	19.2	26.7		裏:13 右下:聊齋③B	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (95)	1973-74	コンテ, 紙	23.3	17.3		裏:15	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (96)	1973-74	コンテ, 紙	16.1	25.0		裏:15A	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (97)	1973-74	コンテ, 紙	21.3	16.4		裏:15	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (98)	1973-74	コンテ, 紙	25.3	18.2			掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (99)	1973-74	コンテ, 紙	33.3	21.4			掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (100)	1973-74	コンテ, 紙	22.0	14.4		裏:16	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (101)	1973-74	コンテ, 紙	26.9	19.1		裏:16	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (102)	1973-74	コンテ, 紙	16.9	23.0		裏:18	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (103)	1973-74	コンテ, 紙	16.5	16.0		裏:18-B	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (104)	1973-74	コンテ, 紙	19.0	16.5		裏:19	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (105)	1973-74	コンテ, 紙	18.0	17.2		裏:19	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (106)	1973-74	コンテ, 紙	37.0	17.1		裏:19-A	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (107)	1973-74	コンテ, 紙	18.7	23.3		裏:20	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (108)	1973-74	コンテ, 紙	16.7	25.6		裏:20	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (109)	1973-74	コンテ, 紙	22.0	15.9		裏:21	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (110)	1973-74	コンテ, 紙	24.0	18.3		裏:21	掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (111)	1973-74	コンテ, 紙	12.0	11.4			掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (112)	1973-74	コンテ, 紙	7.0	16.0			掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (113)	1973-74	コンテ, 紙	22.0	14.0			掲載なし
山下菊二	安岡章太郎『私説 聊齋志異』挿画原画 (114)	1973-74	コンテ, 紙	12.3	25.0			掲載なし
山下菊二	不詳[顔]	不詳	水彩, 紙	27.0	24.0		右下: Kikuji-ya-	菊
山下菊二	不詳[花]	不詳	水彩, 紙	24.0	27.0			
山下菊二	不詳[人]	不詳	水彩, 紙	27.0	24.0		右下: 菊	
山下菊二	不詳[かいこつ]	不詳	水彩, 紙	27.0	24.0		右下: 菊	
山下菊二	開高健『渚から来るもの』挿画原画 番号なし	1966	コラージュ, 紙	20.0	23.6			
山下菊二	開高健『渚から来るもの』挿画原画 番号なし	1966	コラージュ, 紙	10.4	26.1		右下: 山下菊二	
山下菊二	開高健『渚から来るもの』挿画原画 番号なし	1966	コラージュ, 紙	15.6	23.3		右下: y	
山下菊二	開高健『渚から来るもの』挿画原画 番号なし	1966	コラージュ, 紙	12.0	17.1			
山下菊二	弾乗り No.1	1972	リトグラフ, コラージュ, 紙	75.1	51.1		右下: A.P 中央: 弾乗りNo.1 左下: Kikuji-ya-72	
シュレーダー=ゾンネン シュター, フリード リッヒ	ルフティボール博士	1956	鉛筆, 紙	67.4	86.3			
版画								
山下菊二	敬礼	1947	エッチング, 紙	26.0/37.5	21.5/27.8		右下: 3/20 中央下: 敬礼 左下: Kikuji-ya- 1947	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
山下菊二	空の壁	1947	エッチング, 紙	27.8/38.2	20.4/28.6		右下: 3/20 中央下: 空の壁 左下: Kikuji.ya- 1947	
山下菊二	廃帝	1947	エッチング, 紙	27.1/37.3	20.9/28.2		右下: 3/20 中央下: 廃帝 左下: Kikuji.ya- 1947	
山下菊二	無題	1970	エッチング, 紙	17.6/29.4	12.1/21.3		右下: A.P 左下: Kikuji.ya- -70'	
山下菊二	無題	1970	エッチング, 紙	17.6/29.4	12.1/21.3		右下: A.P 左下: Kikuji.ya- -70'	
山下菊二	KとMの人生案内	1972	リトグラフ, カラー ジュ, 紙	38.0	26.3		右下: Kikuji.ya- -72' 左下: 49/50	
山下菊二	程なくつくよ	1984	リトグラフ, 紙	35.0	27.2		右下: Kikuji.ya- 左下: 18/20	
中村正義	裸婦	1972	リトグラフ, 紙	42.2	64.9			

〈村山治江氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

村山知義	少女エルズベットの像	1922	油彩, カンヴァス	44.8	38.8		左下: ELSBETH	
------	------------	------	-----------	------	------	--	-------------	--

館外貸出作品一覧

開催初日が2011年4月1日から2012年3月31日までの展覧会に限る

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」会場(会期)
	1	麻生三郎《海》	
	2	麻生三郎《自画像》	
	3	麻生三郎《狂人の家》	
	4	麻生三郎《女》	
	5	麻生三郎《子供》	
	6	麻生三郎《人のいる風景》	
	7	麻生三郎《死者》	
	8	麻生三郎《ある群像》	
	9	麻生三郎《カンとパンと手》	
	10	麻生三郎《りょうはしの人》	
	11	麻生三郎《人(1935)》	
	12	麻生三郎《人(1935)》	
	13	麻生三郎《人(1935)》	
	14	麻生三郎《人(1936)》	
	15	麻生三郎《人(1949)》	
	16	麻生三郎《人(1951)》	
	17	麻生三郎《人(1951)》	
	18	麻生三郎《人(1976)》	
	19	麻生三郎《人(1976)》	
	20	麻生三郎《人(1976)》	
	21	麻生三郎《横の人》	
1	22	麻生三郎《ヨコノ人(1982)》	「平成24年度常設展・麻生三郎特集展示」岩手県立美術館(4月10日-2013年1月27日)
	23	麻生三郎《ヨコノ人(1984)》	
	24	麻生三郎《人》	
	25	麻生三郎《人10》	
	26	麻生三郎《人8》	
	27	麻生三郎《荒川風景》	
	28	麻生三郎《隅田川(起重機)》	
	29	麻生三郎《川ぶち》	
	30	麻生三郎《日雇い労働者》	
	31	麻生三郎《煙突》	
	32	麻生三郎《三軒茶屋》	
	33	麻生三郎《海(鎌倉)》	
	34	麻生三郎《子供(1952)》	
	35	麻生三郎《子供(1957)》	
	36	麻生三郎《おばあちゃん》	
	37	麻生三郎《自画像》	
	38	麻生三郎《のぞく》	
	39	麻生三郎《寝ている男》	
	40	麻生三郎《寝ている男》	
	41	麻生三郎《寝ている男》	
	42	麻生三郎《寝ている男》	
	43	麻生三郎《寝ている男》	
	44	麻生三郎《寝ている男》	
<hr/>			
2	1	堀文子《初秋》	「堀文子展 命の不思議」長野県信濃美術館(4月14日-5月27日)
	2	堀文子《蓮》	
	3	堀文子《霧氷》	
<hr/>			
3	1	オディロン・ルドン《『ゴヤ顔』 1 …夢の中で天に神秘の顔を見た》	「版画の冒険展 ミレー、ドガそしてムンクへ」町田市立国際版画美術館(4月14日-6月17日)
	2	オディロン・ルドン《『ゴヤ顔』 2 …沼に咲く花 悲しそうな人間の顔》	
	3	オディロン・ルドン《『ゴヤ顔』 3 …陰気な景色の中の狂人》	
	4	オディロン・ルドン《『ゴヤ顔』 4 …胎児のような存在もいた》	
	5	オディロン・ルドン《『ゴヤ顔』 5 …不思議な吟遊詩人》	
	6	オディロン・ルドン《『ゴヤ顔』 6 …目覚めた時 厳しくおごそかな顔立ちの叡知の女神を見た》	
<hr/>			
4	1	川村清雄《桃と百合》	「FLOWERSCAPES フラワースケープ展」DIC川村記念美術館(4月28日-7月22日)
	2	川村清雄《静物(菊と水仙)》	
	3	岸田劉生《近藤医学博士之像》	
	4	野中ユリ《銅版画集『METAMORPHOSES』 II アドニース》	
	5	野中ユリ《銅版画集『METAMORPHOSES』 III ヒュアキントス》	
	6	野中ユリ《天使について フラ・アンジェリコ(顔のある)》	
	7	野中ユリ《『野中ユリ彩色版画 イリュミネーション』I 大洪水の後》	
	8	野中ユリ《妖精たちの森I》	
	9	野中ユリ《妖精たちの森II》	
	10	野中ユリ《妖精たちの森III》	
	11	野中ユリ《妖精たちの森IV》	
	12	野中ユリ《夢の地表I 愛の歌》	
	13	野中ユリ《夢の地表II 季朝尺》	
	14	野中ユリ《夢の地表III 泉・あるいはここからの光》	
	15	野中ユリ《夢の地表IV 黄金の花》	
	16	野中ユリ《夢の地表V 緑の太陽》	

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」会場(会期)
	17	野中ユリ《夢の地表VI エメラルドの水門》	
	18	野中ユリ《凸面鏡の自画像 バルミジアニーノに》	
	19	野中ユリ《天使について フラ・アンジェリコ《甕の壁》》	
	20	野中ユリ《マルセル・ブルーストと弟》	
	21	野中ユリ《心月輪の澁澤龍彦(1)》	
	22	野中ユリ《連作「蓮華集」(10) 小島曼陀羅による》	
	23	野中ユリ《連作「蓮華集」(9) 大日如来を開むらサの寺院と僧院》	
	24	野中ユリ《硝煙画報 [無題]》	
	25	野中ユリ《硝煙画報 パンジー》	
	26	野中ユリ《硝煙画報 菜の花》	
5	1	資料(青木文庫) 神奈川県庁の御触書	「近代洋画の開拓者 高橋由一展」東京藝術大学大学美術館(4月28日-6月24日)、山形美術館(7月20日-8月26日)、京都国立近代美術館(9月6日-10月21日)
	2	高橋由一《江の島図》	
6	1	岸田劉生《童女図(麗子立像)》	「画家 岸田劉生の軌跡展」北九州市立美術館分館(6月2日-7月8日)
7	1	萬鉄五郎《日傘の裸婦》	
	2	萬鉄五郎《裸婦》	「日本油彩画二〇〇年展」静岡県立美術館(6月9日-7月22日)
8	1	小山敬三《雲中高嶽》	
	2	小山敬三《修道院附近》	「開館10年記念 小山敬三と高橋節郎 文化勲章受章2人展」安曇野高橋節郎記念美術館(7月14日-8月26日)
	3	小山敬三《アルカンタラの橋》	
9	1	オディロン・ルドン《『幽霊屋敷』 2…私は大きく蒼い微光を見た》	「ドビュッシー、音楽と美術—印象派と象徴派のあいだで展」石橋財団ブリヂストン美術館(7月14日-8月26日)
10	1	高村光太郎《裸婦坐像》	
	2	オーギュスト・ロダン《花子のマスク》	「没後70年 彫刻家 長沼守敬展—守敬・ロダン・碌山・光太郎—」関市博物館(7月14日-9月2日)
11	1	鎌木清方《お夏清十郎物語(全6点)》	「平塚市制80周年記念 上村松園と鎌木清方展」平塚市美術館(7月21日-9月2日)
12	1	岸田劉生《童女図(麗子立像)》	「百花繚乱 女性の情景展」横須賀美術館(9月15日-10月21日)
13	1	川村清雄《室内》	
	2	川村清雄《鶏図》	「川村清雄展」東京都江戸東京博物館(10月8日-12月2日)、静岡県立美術館(2013年2月9日-3月27日)
14	1	上村松篁《杜若》	
	2	上村松篁《鶴》	「生誕100年記念 上村松篁展」茨城県天心記念五浦美術館(10月13日-11月25日)
15	1	浜田知明《初年兵哀歌(銃架のかげ)》	
	2	浜田知明《風景》	
	3	浜田知明《初年兵哀歌(一隅)》	
	4	浜田知明《刑場(B)》	「美術にぶるっ!ベストセレクション 日本近代美術の100年 第二部 “実験場1950s”」東京国立近代美術館(10月16日-2013年1月14日)
	5	浜田知明《人》	
	6	浜田知明《初年兵哀歌(歩哨)》	
	7	鶴岡政男《松本竣介の死(死の静物)》	
16	1	三輪勇之助《明治の館》	「重要文化財旧諸戸清六郎(現六華苑)創建100年記念特別展 コンドルのディテール」桑名市博物館(10月27日-12月2日)
17	1	朝井閑右衛門《丘の上》	
	2	朝井閑右衛門《奇しきヘロデ王の怒りとサロメ(A)》	
	3	朝井閑右衛門《奇しきヘロデ王の怒りとサロメ(B)》	
	4	朝井閑右衛門《三好達治大壺を見る》	「朝井閑右衛門展」横須賀美術館(11月3日-12月25日)、田辺市立美術館(2013年1月12日-2月17日)
	5	朝井閑右衛門《晩来天欲雪》	
	6	朝井閑右衛門《過去現在因果経》	
	7	朝井閑右衛門《ロリルの踊り》	
	8	朝井閑右衛門《玉葱のある静物》	
	9	朝井閑右衛門《ファルスA》	
	10	朝井閑右衛門《電線風景》	
	11	朝井閑右衛門《祭 I—お狐》	[同展]横須賀美術館(11月3日-12月25日)
	12	朝井閑右衛門《祭 II—巫女さん》	
	13	朝井閑右衛門《祭 III—鶴ヶ岡》	
	14	朝井閑右衛門《薔薇(法華壺)》	
18	1	浜田知明《初年兵哀歌》	
	2	浜田知明《初年兵哀歌(廟)》	
	3	浜田知明《假標》	「TOKYO1955-1970:新しい前衛展」ニューヨーク近代美術館(11月13日-2013年2月25日)
	4	浜田知明《副校長D氏像》	
	5	浜田知明《群盲》	
19	1	中島千波《青》	
	2	中島千波《衆生・女・阿吽》	
	3	中島千波《形態 * '83-8》	
	4	中島千波《形態 * '84-3-T.1》	
	5	中島千波《形態 * '84-3-T.2》	
	6	中島千波《形態 * '84-3-T.3》	
	7	中島千波《形態 * '85-3-F.1》	
	8	中島千波《形態 * '85-3-F.2》	
	9	中島千波《形態 * '85-3-F.3》	「退任記念展 中島千波 人物図鑑」東京藝術大学大学美術館(11月15日-12月2日)
	10	中島千波《形態 * '85-3-F.4》	
	11	中島千波《形態 * 素描 I》	
	12	中島千波《形態 * 素描 II》	
	13	中島千波《形態 * 素描 III》	
	14	中島千波《眠 * '87-3-白描 I》	
	15	中島千波《眠 * '87-3-白描 II》	
	16	中島千波《眠 * '87-3-白描 III》	
	17	中島千波《眠 * '87-3-白描 IV》	

18	中島千波《眠 * '88-3》	
19	中島千波《眠 * '88-8》	
20	1 村山知義《美しき少女等に捧ぐ》	
	2 八木和夫《作品》	「日本・オブジェ 1920-70年代 断章展」うらわ美術館(11月17日-2013年1月20日)
	3 向井良吉《勝利者の椅子》	
21	1 足立源一郎《北穂高主峰 穂高滝谷の岩壁》	
	2 足立源一郎《檜ヶ岳(北鎌尾根にて)》	
	3 足立源一郎《北穂高南峯》	
	4 小山敬三《雲中富嶽》	「山に魅せられた画家たち展」北海道立帯広美術館(2013年1月25日-3月24日)
	5 片岡球子《火山(浅間山)》	
	6 片岡球子《火山(浅間山)》	
22	1 中川一政《静物(びん・白布)》	
	2 有島生馬《赤い帽子》	
	3 北大路魯山人《水盤(白瓷盤)》	
	4 北大路魯山人《水盤(信楽大平鉢)》	「観光地鎌倉と鎌倉彫展」神奈川県立歴史博物館(2013年2月16日-3月24日)
	5 北大路魯山人《備前銀刷毛目小皿》 5点	
	6 北大路魯山人《信楽灰被大壺》	
23	1 牛田雞村《はこねの山》	
	2 鍋木清方《お夏清十郎物語(全6面)》	「近代日本画と工芸の流れ 1868-1945」(2013年2月26日-5月5日)ローマ国立近代美術館
24	1 若林齋《日出、日没(グラマンTBFを見た)》	「Re:Quest—1970年代以降の日本現代美術展」ソウル大学校美術館(2013年3月5日-4月14日)
25	1 俵屋宗達《狗子図》(木下翔通コレクション)	「かわいい江戸絵画展」府中市美術館(2013年3月9日-5月6日)
26	1 寄託作品《油彩》	「中村彝展—下落の画室—」新宿区立新宿歴史博物館(2013年3月17日-5月12日)
27	1 宮崎静夫《鴻毛の秤》	
	2 宮崎静夫《夏の回帰》	
	3 宮崎静夫《夏草に棲む》	「宮崎静夫の世界展」東京・九段ギャラリー(2013年3月20日-3月26日)
	4 宮崎静夫《丘にて》	
28	1 萬鉄五郎《田園風景》	「夏目漱石の美術世界展」広島県立美術館(2013年3月26日-5月6日)、東京藝術大学大学美術館(2013年5月14日-7月7日)、静岡県立美術館(2013年7月13日-8月25日)

当館を含む巡回展への貸出作品

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」会場(会期)
1	1	須田国太郎《雪の比叡山》	「須田国太郎展 没後50年に顧みる」神奈川県立近代美術館 葉山(4月7日-5月27日)、茨城県近代美術館(7月21日-8月26日)、石川県立美術館(9月1日-10月14日)、鳥取県立博物館(10月20日-11月25日)、京都市美術館(12月1日-2013年2月3日)、島根県立美術館(2013年2月15日-4月1日)
	1	松本竣介《山王山風景》	
	2	松本竣介《建物》	
	3	松本竣介《立ち話》	
	4	松本竣介《R夫人像》	
	5	松本竣介《構図》	
	6	松本竣介《自画像》	
	7	松本竣介《立てる像》	
	8	松本竣介《電気機関車》	
	9	松本竣介《牛》	
	10	松本竣介《象》	
2	11	松本竣介《橋(東京駅裏)》	「生誕100年 松本竣介展」岩手県立美術館(4月14日-5月27日)、神奈川県立近代美術館 葉山(6月9日-7月22日)、宮城県美術館(8月4日-9月17日)、島根県立美術館(9月29日-11月11日)、世田谷美術館(11月23日-2013年1月14日)
	12	松本竣介《工場》	
	13	松本竣介《少女》	
	14	松本竣介《都会》	
	15	松本竣介《画家の像 下絵》	
	16	松本竣介《立てる像 下絵》	
	17	松本竣介《少年と手》	
	18	松本竣介《Y市の橋》	
	19	松本竣介《松本竣介差出 麻生三郎宛書簡 (1946年1月8日)》	
	20	松本竣介《松本竣介差出 麻生三郎宛書簡 (1946年1月20日)》	
	21	松本竣介《松本竣介・船越保武二人展ポスター原画》	
	22	松本竣介、麻生三郎《「松本竣介・麻生三郎・舟越保武 油絵・彫刻展覧会」冊子掲載、葵屋広告の原画》	
3	1	山口勝弘《ヴィトリヌス No.37》	
	2	山口勝弘《光のオブジェ》	「実験工房展—戦後芸術を切り拓く」神奈川県立近代美術館 鎌倉(2013年1月12日~3月24日)、いわき市立美術館(2013年4月20日~6月2日)、富山県立近代美術館(2013年7月13日~9月8日)北九州市立美術館分館(2013年10月5日~11月10日)、世田谷美術館(2013年11月23日~2014年1月26日)
	3	図書資料(仲田文庫)Moholy-Nagy, <i>Vision in Motion</i> , 1983	
	4	図書資料(仲田文庫)Moholy-Nagy, <i>The New Vision</i> , 1947	

修復報告—油彩画

神奈川県立近代美術館 伊藤由美

作者：高橋由一

作品名：西周肖像画

材料：油絵具、カンヴァス

制作年：1893年頃

寸法(mm)：修復前1076×762 修復後1080×768

所蔵：太鼓谷稲成神社

修復の経緯

本報は、調査研究の一環として本館において行われた修復の報告である。2009年、鳥根県津和野町の太鼓谷稲成神社に高橋由一作と思われる油彩画《西周肖像画》が収蔵されていることが分かった。津和野町には津和野町郷土館にもう1点の高橋由一作《西周像》の油彩画が収蔵されており、両作品ともにほぼ同寸法、同図柄の作品である。2作品とも旧津和野藩主亀井茲明が制作を依頼し、両作品が亀井家から各施設に収蔵されるまでの経緯は明らかであった。新出と既知の2作品は一見酷似しながらも相違点も多く、そこに発せられる様々な疑問点を解明することは、高橋由一研究において興味深い結果が得られると想像された。2作品とも修復が必要な状態であったため、研究助成を受け、寄託作品として本館において修復調査を行うこととなった。研究に際しては保存科学的な立場と人文的な立場より多角的に調査を進めるため、各分野の専門家からなる「西周像研究会」を発足し、共同研究を行った。本報告はその一環で行われた2作品の修復のうち、太鼓谷稲成神社蔵《西周肖像画》の修復報告と2点の比較である。

修復前の所見

作品は額装されて神社の集会室の壁に掛けられていた。木枠周辺部で切り取られた作品は、画布のみがガラスと裏板に挟まれた状態で額装となっていた。そのため画布全面に変形が生じ、また大きな目立つ傷や汚れのため決して鑑賞に堪える状態とは言えなかった。状態の詳細は下記の通りである。

ワニス層：全体的に光沢は弱く、背景の暗色部分は光沢が引いてムラが生じている。表面の汚れ付着のため全体的にくすんだ印象である。

絵具層：大きな掻き傷が数か所あり、傷に沿って細かい絵具層の剥落が生じている。カーテン部分、背景、周縁部にも同様の傷と剥落が散在している。人物左肩部分には数センチほどの支持体の破れを修理した跡があり、黒色絵具で補彩が施されている。四隅にはシワ状の光沢ムラが目

立つが、絵具自体の光沢かワニスの光沢かの判断は難しい。

地塗り層：白色。外的要因による剥落以外は、固着状態は良好である。右下隅に支持体の折れによって生じた剥落がみられる。

支持体：張り代が切り落とされ、木枠に張り込まれていなかったために全体に著しく変形が生じ、四隅から中央に向けて画面全体に細かい波打ち状の変形が観察される。人物の左肩付近に縦50mm、横40mm程度の破れがあり、裏面から和紙を張って補強が施され、周辺部は変形し硬化している。裏面上方にWINSOR & NEWTON, L^{TD}のメーカー印が押されている。

木枠：なし。画布周辺部に白っぽい色の違いが観察され木枠が存在したことがわかる。

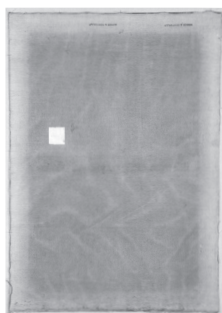
額：深さのないマット装用の額であるので、オリジナルの額ではない。額装状態としては、作品はガラス板に裏蓋ベニヤ板で押しつけて固定されていたため、画面はガラス板と直に接触した状態である。裏面もベニヤ板と接触した状態である。当初の調査時に稲成神社にて画布と裏板の間に和紙を挟む応急処置をした。

施工処置

1. 光学調査、材料分析、修復前状態調査(耐溶剤テストを含む)：通常光による正面、側光線撮影のほか、X線撮影、紫外線蛍光撮影、赤外線撮影を行った。剥落箇所や画面周辺部から地塗り層および主だった色の微小の絵具層を採取して、顔料分析を行った。剥落が少なく絵具の採取ができない箇所は、非接触型の蛍光X線分析装置で分析を行った。
2. 浮き上がり接着：絵具層の傷、亀裂、浮き上がり、剥落箇所を、接着剤に膠水を使用して、こてで加温接着した。
3. 張り代の接着：支持体の周辺部に帯状の新しい麻布で準備した、張り込みのための張り代を接着した。
4. 仮張り変形修正：伸張式の仮枠に作品を張り込み、支持体の変形の修正を行った。更に裏面から低温度のアイロンで加湿加温し、部分的な変形修正を行った。
5. 破れ部分のかけはぎおよび当て布補強：旧当て紙を除去し、破損部周辺の支持体の変形を修正した。破れ部分に麻糸の繊維を渡して膠水でかけはぎ接着をした。さらに破れ部分全体を覆うように、レーヨン繊維の三軸織物を熱可塑性フィルムで接着した。この三軸織物は60度角で3本の繊維が交差しており、全方向に対して等しい強度を持つ。支持体の動きに柔軟に対応し、また籠編み状に六角形の織り形状をしていることで、支持体との接着面も小さく接着剤の量も最小限に抑えることが出来る。
6. 汚れ除去：希アンモニア水で汚れを除去した。綿棒には黒褐色の汚れが付着した。洗浄後は、ワニスの黄変は目立たなかったため鑑賞



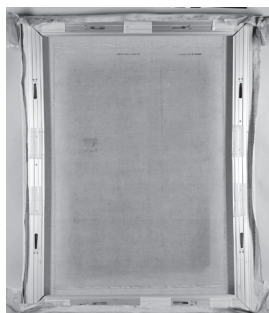
1. 修復前 表 (稲成神社蔵)



2. 修復前 裏 (稲成神社蔵)



3. 修復前 表 側光線写真 (稲成神社蔵)



4. 修復中 仮張り変形修正



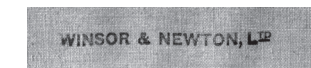
5. 修復後 表 (稲成神社蔵)



6. 修復後 裏 (稲成神社蔵)



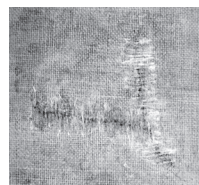
7. 修復後 新調額の額装 (稲成神社蔵)



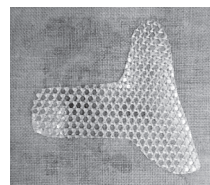
8. WINSOR & NEWTON社のメーカー印



9. 洗浄部分 綿棒に黒い汚れが付着



10. 破損部のかけはぎ



11. 破損部の当て布 三軸織物を接着

上の問題とはならないと判断し、ワニスの除去や軽減処置は行わなかった。

7. 支持体張り直し：支持体裏面の清掃後エタノールで殺菌し、楔付きの新調木枠に張り込んだ。
8. 充填整形：絵具層および地塗層欠損部を充填剤で埋め、周囲のマチエールに合わせて整形した。
9. 第一次ワニス塗布：オリジナルの絵具層と補彩絵具との絶縁層として、ダンマル樹脂ワニスを塗布した。
10. 補彩：充填部分に周囲の色調に合わせて、溶剤型アクリル樹脂絵具で補彩をした。
11. 第二次ワニス塗布：絵具層の保護と光沢のむらを軽減するため、ダンマル樹脂ワニスを塗布した。
12. 修復後の写真撮影：修復処置後の作品の状態を記録するため写真撮影を行った。
13. 額装：修復後の作品寸法に合わせて額を新調した。前面に紫外線カット・低反射アクリル板を装置し、裏蓋にポリカーボネート製コルゲート板を取り付けた。

修復後の所見

画面洗浄により、一見してわからなかった煤のような黒い汚れが除去され、全体的に透明感のある画面となり、繊細な質感の描写などが明瞭に観察出来るようになった。複数の大きな傷は鑑賞の妨げになっていたが、充填、補彩により人物像が全体感を取り戻した。支持体の変形修正と強度のある木枠に張り直したことにより、保管、展示、輸送を安定した状態で行うことが出来るようになった。

額は修復を機に所蔵者により新調されたが、デザインは、作品発注者である茲明が生前デザインし、今でも亀井家に残る亀井家紋入りの額の意匠を参考に作られた。

津和野町郷土館蔵《西周像》と修復の概要

材料：油絵具、カンヴァス 制作年：1893年 額：黒漆塗装特注額
寸法(mm)：修復前1069×755 修復後1070×759

当作品は額装の状態郷土館のガラスケース内で展示されていた。一見、目立った外傷はないが、白いカビの繁殖と黄変したワニスの塗布むらが目立った。画布は、他の由一作品では見たことのない粗い織り目のものであった。

画面上辺と右辺は15ミリ程木枠側面に折り込まれ、小さい寸法に張り直した跡がある。額は黒漆塗装であり、西家の家紋がデザインされた特注額である。下辺には「西周君肖像 高橋由一氏寫 明治廿六年晩冬」と刻まれている。額側面の一部に漆塗装の著しい浮き上がりや剥落が生じ

ており、全体の部材の緩みもひどい状態であった。

修復処置としては、汚れの除去、黄変ワニスの軽減、絵具層の固着強化、画布の変形修正、新調木枠と旧木枠の調整、剥落部の充填整形、補彩、ワニス塗布であり、施工方法は稲成神社蔵作品とほぼ同様である。旧木枠は強度が不足していたため、新調木枠にマジックテープで張り合わせ一体化させて、新調木枠側に作品を張り込んだ。額の修復は漆塗装であったため、木彫、漆を扱う修復家に外注した。

2点の比較検討

両作品は構図、寸法、描写は一見したところ非常に近い。しかし、2点を並べて観察すると細部の表現方法に違いが見えてくる。

下記にいくつかの相違点を挙げてみる。①稲成神社蔵品は織り目の細かいウインザー&ニュートン社の既成品であるが、郷土館蔵品は他の由一作品では見たことのない粗い織り目の麻布である。②背景部カーテン襷の明部表現の違いは顕著で、前者は下塗りの白の上に透明な固有色を塗り重ねており、油彩画の古典的な方法である。一方後者は固有色に白を混ぜ、白色絵具の量で明るさの調子を作っている。③大礼服の金モール装飾の描写は、前者はそのすべてを描き込まんとする気迫でその図柄に目を添うように筆絵を運んでいるように感じられるが、後者は金モールの光を要領よく捉え、かなり機械的に筆を進めている。④帽子の羽根も同様、前者は羽根の色や柔らかさなど羽根の質感さえも表現されているが、後者からはむしろ帽子の立体感と筆捌きの巧みさが読みとれる。⑤前者には顔のしわの下層に下描きのような黒い線が見られ、同様の線が白い襟の結び目の下層にも見られるが、後者には見られない。⑥人物の左手は、前者には骨格のデッサンが狂ったような歪みとともに、それを見直すかのような黒い線描写が上から描き加えられている。しかし後者の手の描写に狂いはない。⑦サーベルの柄と先の繋がりはずれが、前者には見られ後者には見られない。このような相違点がある一方、両者の透過画像を重ねると、ほぼすべてがきれいに重なるほど同寸法で描かれている。また、主だった色の絵具層の分析でも、ほぼ同様の層構造が見られる。また背景の処理の仕方でも近似している。

両者の関わりについてみれば、描写方法の違いなどは、両作品の制作に由一以外の制作者が何らかの理由で関わった可能性が考えられる。材料分析結果の一致や概の技法の近似から、少なくとも由一に近い存在の人物であったと思われる。茲明の関連資料調査の結果、本作品の画稿が発見され、そこには由一の息子源吉が関与していることから、源吉の制作への関わりが示唆される。「西周像研究会」ではこの点について多方面から究明しており、その内容は研究報告を参照されたい。

尚、本修復はポーラ美術振興財団調査研究費および科学研究費補助金の助成を受け、増田久美氏と筆者が共同で作業を行った。



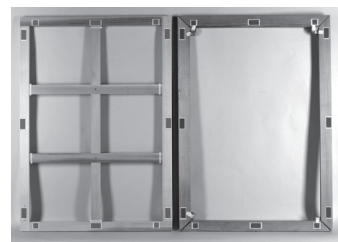
12. 修復後 表 (郷土館蔵)



13. 修復後 裏 (郷土館蔵)



14. 修復後 オリジナル額の額装 (郷土館蔵)



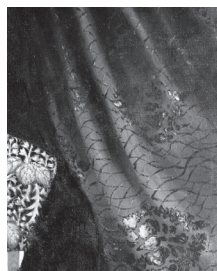
15. 新調木枠(左)と旧木枠(右)をマジックテープで一体化させる(郷土館蔵)



16. 額下辺の銘記(郷土館蔵)



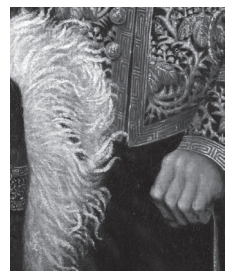
17. (稲成神社蔵)背景カーテン部分 絵具の透明感を生かした明部表現



18. (郷土館蔵)背景カーテン部分 白色を混色したグラデーションによる明部表現



19. (稲成神社蔵)羽根の柔らかさの表現、左手の骨格のゆがみが見られる



20. (郷土館蔵)巧みな筆さばきによる羽根の表現

修復報告—彫刻

(有)修復研究所21 宮崎安章

作者：若林奮

作品名：地表面の耐久性について

材料：鉄、合成樹脂系塗料

制作年：1975年

寸法(mm)：5480×1830×h280

総重量(kg)：2739

修復前の状態

本作品は鉄製のパーツを組み合わせ屋外で展示されていた。作品を主に構成する大きなパーツが16点、立方体で杭の形状パーツ277本、固定用の円柱の杭40本が分解された状態で保管されていた。組み立てが困難なため修復前寸法は第6回現代日本彫刻展が公表している数値を参照し、総重量も各パーツの重量を合計した数値とした。

防錆塗料が塗られていたが屋外に展示されていたため剥落や亀裂等から鉄部に赤錆(赤酸化鉄)が発生し腐食が進行していた。特に地面に接する箇所や打ち込まれた杭は、鉄部の表面が凹凸状になるほど腐食が進行していた。下塗り塗料として赤茶色の長期防錆型塗料が塗布され、仕上げ塗料は濃緑色の塗料が塗布されていた。立方体と円柱の杭には下塗り層は無く、濃緑色の塗装のみの仕上げになっており、防錆型塗料が塗布されものと比較して、錆の腐食はより進んでいた。表面には、移動や展示中に何らかの原因で細かい擦傷や剥落が多数あり、その一部にも錆が発生していた。

施工処置

1. 塗料除去：ディスクグラインダーとエアリーユーターを使用し、クリーニングブラシやホイルブラシ、カップブラシを装着して塗料を取り除いた。機材の届かない箇所はジクロロメタン系剥離剤を使用した。
2. 錆除去：錆は塗料とほぼ同時に除去され、機材の届かない箇所はワイヤブラシなどを使用し手作業で除去した。金属下地をなるべく削らないディスクの使用と研磨方法を選択した。
3. 錆止め塗装：フェノール変性アルキド樹脂塗料を塗布した。色は赤茶色。塗料の塗布はスプレーガンを使用した。塗装前に金属下地の表面に

残った油分や水分をホワイトガソリンで拭き取った。

4. 下塗り塗装：1液型高分子エポキシ樹脂塗料を塗布した。色は白色。
5. 仕上げ塗装：ニトロセルロース変性アクリルラッカーエナメル塗料を塗布した。色は濃緑色。

修復後の所見

塗装部と錆を除去し、防錆塗料、下塗り塗料、仕上げ塗料の塗布を施したことにより、外気から遮断され、鉄部の腐食はある程度防げる状態になった。

展示の都度、地面に接する箇所や必ず打ち込まれる杭の塗料の剥落等は確実に起こり、表面にも展示作業中以外や移動中にも傷が付き、再度、錆びる可能性は高い。

今後経過観察し、展示保存や修復について十分に考慮する必要がある。また、展示を頻繁に行う事は非常に困難であると考えられるので、運搬や配置の手順について、映像などで記録を残しマニュアルを作成することにより、安全でスムーズな展示が行えると考えられる。

防錆型塗装は日本最初の鋼橋が1868(明治元)年に長崎で製作された際、屋外環境に晒されて腐食(錆びる)してしまうため、初めて防錆を目的とした塗装が施された。

当時の日本には防錆塗料製造技術がなく、鉛丹を主成分とする防錆塗料を輸入して使用していた。国産の鉛丹防錆塗料は1881(明治14)年に発売された。更に、昭和初期には合成樹脂の研究が始まり、第二次世界大戦後には現在用いられているエポキシ樹脂やウレタン樹脂などの合成樹脂に関する研究が急速に進み、1970(昭和45)年代以降、広く実用化されるようになった。

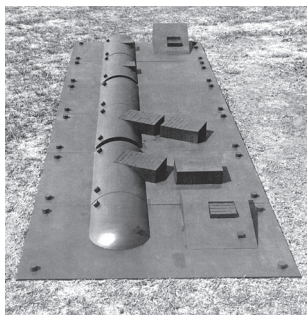
重量計に乗る大きさのパーツは実測の重量である。作品のベースになる6枚の鉄板は計測機材が無いため、鋼板重量の算出計算式を利用し、切り抜かれた箇所などは差し引かない最大重量で記載してある。実際の総重量は記載よりも多少軽い。

*計算式(天地(m)×左右(m)×厚み(m)×単位体積重量(t/m³))

鉄の単位体積重量は7.85(t/m³)

【1.83×0.915×0.015×7.85=0.1972t(197.2kg)】

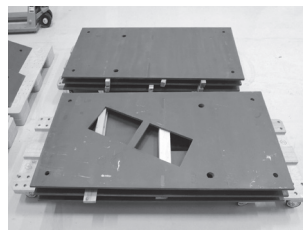
*一般社団法人日本橋梁・鋼構造物塗装技術協会 第16回技術発表会 長期防錆(重防食)塗装の歴史と現状より抜粋



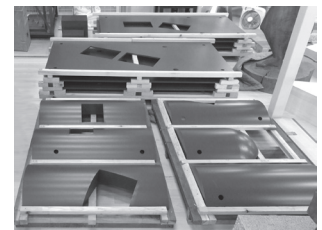
1. 修復前 全体図 第6回現代日本彫刻展図録より



2. 修復前 分解した状態でパレットに乗せて保管



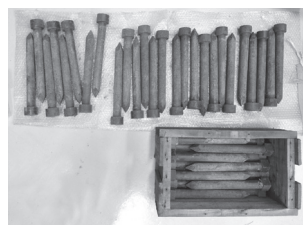
3. 修復前 ベースになるプレートは重ねて保管



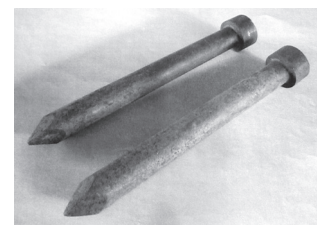
4. 修復後 保管、移動時に傷付かないように木枠で保護



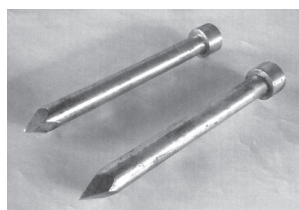
5. 修復後 パーツ全体、杭は黄色い箱に保管



6. 修復前 腐食の進んだ杭、木箱に保管されていた



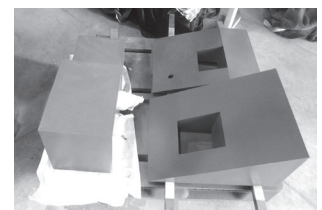
7. 修復前 杭・腐食が進行し表面が凹凸状になっている



8. 修復中 杭・塗装と錆を除去後



9. 修復中 塗装と錆を除去後



10. 修復後 仕上げの塗装後

2012年度 修復作品一覧

*外部委託による修復は受託者を記した。標記のないものは当館修復担当者による。
 *他施設収蔵作品は調査研究および展覧会のための修復。
 *石巻文化センター蔵作品の修復は、「東日本太平洋沖地震被災文化財等救援委員会」およびその参加団体「全国美術館会議」による美術品レスキュー活動の一環としての作業。

作家名	作品名	寸法(mm) h:高さ	制作年	種別	外部委託および共同作業 *
若林奮	地表面の耐久性について	5490×1827×h455	1975	彫刻	(有)修復研究所21
松本竣介	立ち話	292×238	1937	油彩画	
松本竣介	象	140×180	1943-46頃	油彩画	
松本竣介	牛	137×180	1943-46頃	油彩画	
松本竣介	電気機関車	140×180	1943-46頃	油彩画	
原勝郎	風景	460×550	1938	油彩画	
朝井閑右衛門	祭りI お狐	580×520	1977	油彩画	
朝井閑右衛門	祭りII 巫女さん	695×350	1977	油彩画	
朝井閑右衛門	祭りIII 鶴ヶ岡	625×450	1977	油彩画	
村山知義	美しき少女等に捧ぐ	940×805	1923頃	油彩画	
山口薫	風景	237×321	不詳	素描	
山口薫	裸婦	322×200	不詳	素描	
中野和高	「姉妹」のための習作 4点	332×333	1958	素描	
中野和高	「姉妹」のための習作 2点	664×333	1958	素描	
高橋由一	西周肖像画(太鼓谷稲成神社蔵)	1080×768	1893頃	油彩画	当館修復担当者および増田久美
太宰春夫	東尋坊(石巻文化センター蔵)	490×609	1942	油彩画	当館修復担当者および土師広、渡邊薫、森田愛香、富山恵介、小川絢子、大久保伊織
芳賀俣	青年像(石巻文化センター蔵)	414×321	1930-1942	油彩画	
芳賀俣	石巻風景(石巻文化センター蔵)	239×332	1946-1950	油彩画	
芳賀俣	海(石巻文化センター蔵)	585×911	1950-1956	油彩画	
芳賀俣	金野氏(石巻文化センター蔵)	908×719	不詳	油彩画	
芳賀俣	青年(石巻文化センター蔵)	912×731	1950-1956	油彩画	
芳賀俣	待つ労働者(石巻文化センター蔵)	729×917	1950-1956	油彩画	
芳賀俣	ランプ(石巻文化センター蔵)	450×550	1950-1956	油彩画	
[S.タグチ]	辰治肖像画(石巻文化センター蔵)	456×378	1917	油彩画	
不詳	光子肖像画(石巻文化センター蔵)	648×531	不詳	油彩画	
[ヒガシノボル]	甲生肖像画(石巻文化センター蔵)	532×412	不詳	油彩画	
[ナガノヒデオ]	杜生肖像画(石巻文化センター蔵)	533×459	1950	油彩画	
永井潔	布施辰治先生像(石巻文化センター蔵)	729×532	不詳	油彩画	

調査研究活動

研究・調査報告

須田国太郎による動物園での『スケッチブック』その他

橋秀文

このたび、洋画家・須田国太郎ご子息の寛氏より、須田国太郎のスケッチブック2冊およびスケッチ2点の寄贈を受けた。この2冊2点だけで須田の芸術の特色を語るなど到底できないのであるが、彼のデッサンの生命感あふれる線描やシュルレアリスムのイメージの発想などどれをとっても、彼の芸術の価値ある輝きを見せてくれることから、この場でそれらの特徴を指摘することで、須田国太郎のこれまであまり気づかれなかった側面を明らかにしてみるのも少しは意義があるものと思われる。

今回寄贈を受けた1937年のスケッチブックには、デッサンが多数描かれているが、そのテーマの多くは動物と裸婦である。動物画は、須田国太郎の得意とする分野であったが、そのスタートが動物をただ愛する故に描かれたものと考えられるにはあまりにも短絡的すぎるかもしれない。いずれにせよ、まず押さえるべきは、須田がどのような行動をとったかの事実である。

家屋や裸体デッサンが描かれているスケッチブックの背には「S 12 (1937). 4. F. L」とある。もう一冊の動物と裸婦デッサンのあるスケッチブックの背文字には「S 12(1937). 11. 動物園F」と表記されている。これが須田国太郎の直筆かどうか定かではないが、描かれたデッサンを日記などと比較しながら特に「動物園」のスケッチブックを中心に制作年などを再検討しつつ、内容を考察していきたい。

ところで須田が鷲を描き始めたのは1930年頃からという。動物画といっても須田国太郎にとってモチーフとして動物を本格的に描き始めたのは鷲であった。岡部三郎氏の翻刻・編集した須田国太郎の日記^{註1)}をみると1929(昭和4)年8月に「カナリヤをかく」という記述が出てくる。そして、1930(昭和5)年には1月15日に「隼」24日に「依囑物の鷲かく」翌日「鷲仕上げる」とある。この記述を根拠にすると、この時点では、須田はもともと鷲の絵は注文から描き始めたのかもしれない。また、当時の京都にあって日本画家たちは、動物を描くことが当たり前のようなテーマになっていたし、日本画で好んで注文したテーマを油彩画でも描くことを依頼した顧客がいたとしても何ら不思議ではない^{註2)}。そして、2月1日には「動物園 鷹かく 鳥常

に瞑目をつづけ弱る」、9日に「鷹のスケッチ加筆す」と。この頃はまだ、京都の岡崎公園内の動物園近くの住居ではなく、上京区(現・北区)出雲路松ノ下町に住んでいた。1930年の秋には、左京区鹿ヶ谷桜谷町に引越している。それほど離れていないながらも動物園に近いという理由で動物園に動物を描きに行っていたわけではないことが分かる。本当に動物園の近くの左京区南禅寺草川町に引越すのは、1939(昭和14)年6月のことである。日記に動物園なり動物の写生をしているといったことが書かれていないからといって、全く動物園で写生をしなかったことにはならないが、その後日記に動物を写生していることが再び書かれるのは1937(昭和12)年になってからである。もともと動物園で動物を描くことはとても勉強になるから描きに通ったのだろうか、動物園の近所に引越したので通うのがより楽になって回数が増えたととらえるのが妥当と思われる。

今回寄贈された2冊のスケッチブックのうち動物園で写生したと思われる方を見てみる。6月1日の日記には「動物園にて写生 ワシ 梟」とある。そして10月27日「動物園 らくだ」10月29日「動物園 豹」とある。これはまさしく、このスケッチのらくだと豹であろう。豹は、虎にも見えるが日記とスケッチブックを突き合わせれば、豹と考えるべきであろう。らくだは、11図から12図描かれている。はつきりとらくだといっているのかどうか、馬の頭部を描いているのかも知れないと思われるものもあることから作品数をはつきりと断定はできない。ただ、そのときのスケッチがそのまま油彩画の下絵として活用されたわけではなさそうだ。このスケッチブックでは、日記以外の動物も多く描かれている。制作順は分からないが、最初のページから順番に列挙してみると、木の枝の上の黒豹(3頁:図1)、白熊(5頁:図2)、マントヒヒ(7頁)、らくだの頭部(9頁)、らくだ(頭部と全身像)(11頁)、らくだの全身像(12-13頁)、らくだの後ろ脚(15頁)、らくだの頭部とらくだの体(16-17頁)、座るらくだ(19頁:図3)、横たわるらくだ(20-21頁)、馬(?) (22-23頁)、らくだの頭部(25頁)、らくだの全身像(26-27頁)、左向きのらくだの全身像(28-29頁)、立っているらくだ(30頁)、珍しい鳥(31頁)、冠鶴と水鳥(33頁)、トナカイ(鹿?) (35頁:図4)、裸婦(37頁:図5)、裸婦二態(39頁)、裸婦二態(41頁)、裸婦二態(42頁)、裸婦(43頁)、裸婦(45頁)、豹(47頁)、横たわる豹と豹の頭部(虎?) (48-49頁:図6)、横たわる豹と豹の頭部(虎?) (50-51頁:図7)、虎の頭部(52-53頁:図8)、冠鶴の脚(?) (55頁)、冠鶴の頭部と下半身(56-57頁:図9)、冠鶴(59頁)。

その後も1940年代の日記に、動物園で鷲を描いたりしている姿が読み取れる。京都の岡崎の動物園のみならず、大阪の天王寺動物園にまで写生に出かけている^{註3)}。

ところで、須田は、スケッチをするのに線描を使い分けていることが分かる。当たり前のようにも思えるが、動こうとしている動物を捉える線と静止しているモデルを描いた線とは、とらえる線が異なる。木の枝の上で憩っている黒豹にしても、その動物の生命力を鉛筆素描で表現しようと意識してデッサンに持ち込んでいる。それに対して、同じスケッチブックのなかでも裸婦デッサンの方はどうであろうか。こちらは、あえて動く姿をとらえる必要がないのか、勢いは感じられない。まさに生きものを描こうとする場合に、そこにおのずと生命感を与える描写を行うことになる^{註4)}。静止していても色彩の明暗や筆触、デッサンの肥瘦のある線などの工夫によって生命感を持たせることは可能だ。例えば走る人物とか、あえて動きのあるポーズをとる人物を描こうとしない限り、ただ単純な線を引くだけでは

註3) 1939(昭和14)年11月1日の日記に「大阪の動物園写生」とある。前掲書113頁参照。

註4) 「アート・ギャラリー・ジャパン 20世紀日本の美術13坂本繁二郎／須田国太郎」(1987年、集英社)の巻で、島田康寛は須田が草川町に引越して動物園は目と鼻の先となり、動物や鳥のモチーフが須田芸術のなかの割合をそれまで以上に大きく占めるようになったことから、《禽舎》の解説のところで「それは、須田芸術に生き生きとした生命感を与える契機ともなった」と述べている。まさに生命感を与えるための表現がいろいろと工夫された。これはまさにロマン主義の考え方である。そこには、勢いのある線を絡み合わせながら、動物の生命力を画面に息吹かせたドラクロワのデッサンに類似している。ただ、ロマン主義の画家ドラクロワも絵を描く際に、写真を利用していたことが知られている。以下の文献を参照のこと。Delacroix et la photographie par Jean Sagne, Edition Herscher, 1982.

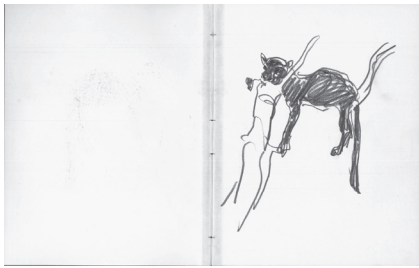


図1 須田国太郎 木の枝の上の黒豹 1937年 鉛筆、紙



図2 須田国太郎 白熊 1937年 鉛筆、紙



図3 須田国太郎 座るらくだ 1937年 鉛筆、紙



図4 須田国太郎 トナカイ(鹿?) 1937年 鉛筆、紙



図5 須田国太郎 裸婦 1937年 鉛筆、紙

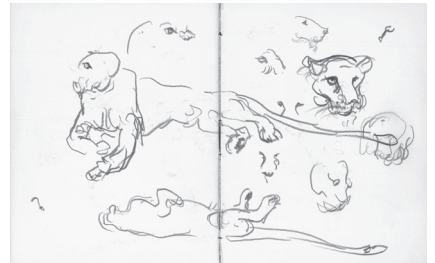


図6 須田国太郎 横たわる豹と豹の頭部(虎?) 1937年 鉛筆、紙

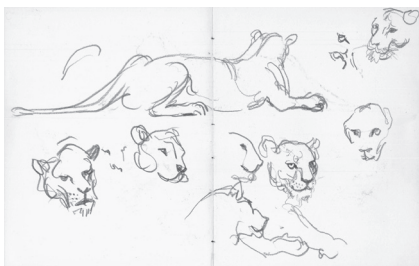


図7 須田国太郎 横たわる豹と豹の頭部(虎?) 1937年 鉛筆、紙



図8 須田国太郎 虎の頭部 1937年 鉛筆、紙



図9 須田国太郎 冠鶴の頭部と下半身 1937年 鉛筆、紙



図10 須田国太郎 《書斎》のための草案 1936-37年 木炭、グワッシュ、紙



図11 須田国太郎 《校舎(乙)》の下絵 1943年 鉛筆、水彩、紙

(図版)*所蔵先は全て神奈川県立近代美術館

なかなか躍動感のあるデッサンを描き出すことはできない。須田のデッサンの動きに対する敏感な特徴がとくに動物園での動物を写生する場合と能楽の舞う人物の動きをとらうとする姿に如実に表れてくる。彼の素早い速さで描きとらうとする動物園での動物たちのデッサンは、能楽師を描こうとするデッサンに連動していく。二つのデッサンの瞬時に描きとらうとするデッサンの共通性を考えるときに、能楽を舞う人物をデッサンするとき、須田は、手元を見ずに対象物を見続けながらデッサンしていたというエピソードを思い出す。おそらく須田は、動物園で生き生きとした動物の姿をとらえようとしたときにも、対象物を見つめたまま手元

を見ないで描いていたのではないだろうか。

躍動感溢れるデッサンは、ロマン主義の画家ドラクロワの流儀に似ているが、須田自身の芸術論の文章や日記などからその名前をほとんど見出すことはできない^{註5)}。しかし、東西の芸術に精通した須田国太郎は、生命感あふれる野獣を描くことに長けたドラクロワの芸術を全く意識していなかったとは考えにくい。この動物園でのスケッチは、須田のこのロマン主義の画家の精神をしっかりと継承していることの証左といえるのではないだろうか。

先に1937(昭和12)年のスケッチブックのこことについて語ったが、この年

註5) 須田国太郎の西洋美術の受容に関しては、須田自身の文集『近代絵画とリアリズム』(1963年、中央公論美術出版)が必読である。最近の論考としては、永井隆則「須田国太郎と西洋近現代美術—孤高か共鳴か?」『美術フォーラム21』23号(2011年、醍醐書房)153-159頁参照。永井は京都大学に寄贈された須田旧蔵の書籍いわゆる須田文庫を詳細に調査されたが、ドラクロワの名前は見出せなかったようである。しかし、須田の油彩画全般についての考察を進めながら、「物質性を駆使して、物質的具象イメージに精神性(静謐、内面の輝きと深さ)を授けた点で、水墨画、書、能楽の美学とも、外見と目的はまったく異なりながら、同時代のシュルレアリスムとも通底

する(内省)こそ、須田芸術の核心となった。」(156-157頁)というように結論づけていることは須田とドラクロワの芸術の近似性を感じると上でもきわめて興味深い。なお、ドラクロワの動物のデッサンについては、以下のルーヴル美術館所蔵のドラクロワのデッサン目録の動物の部を参照するとよい。Musée du Louvre cabinet des dessins, Inventaire général des dessins école française, Dessins d'Eugène Delacroix 1798-1863 Tome I par Maurice Serullaz, Arlette Serullaz, Louis-Antoine Prat, Claudine Ganeval, Ministère de la culture, Editions de la réunion des Musées Nationaux, Paris, 1984, pp.363-408.

の3月の第7回独立展に須田国太郎は《書齋》を出品している。今回寄贈を受けた『《書齋》のための草案』（図10、27.9×38.2cm）は、まさに草案として早い時期に制作されたであろうから、それは前年の作の可能性もある。このデッサンは、当時の須田国太郎の写実に基づきながらかなり幻想的なイメージへと膨らんでいく想像力を理解する上でとても重要な役割を果たしているように思われる。完成作の《書齋》自体も見る者によって何が描かれているのか意見が分かれるような曖昧さをあえて残した表現となっている。書齋の描かれた時間は、真夜中を表そうとしているのか。右手前に書籍が無造作に積まれ、奥は電燈の光に照らされているのか、白く光り、右横にはおそらく作者である須田国太郎のシルエットがぬっと表れている。左手前には、紙がずが集積しているのかと思う人もいるぐらいに不思議なイメージを見せているが、黄緑色の球体が花瓶であることから、バラか何かの花が活けてあると見るべきであろう。そのイメージが強烈なだけに、今回寄贈を受けたデッサンを見た時に、まず、花のイメージが重なって、《書齋》の下絵といわないまでも草案ということはいえるのではないかと考えたわけである。しかし、よく見ると、画面中央に花の塊が溢れかえって見られるが、書籍がない。つまり書齋のイメージに結び付かないのである。乱舞する花々の前にはよく見ると人物が横たわっているようである。右側に頭部が描かれ、左手で頬をついて、右手は前に垂らしているようだ。ただ、この頭部は男でも女でもなく、豹か虎のような猛獣の頭部のように思われる。ちょうど真ん中に腹部が見え、臍の点が添えられている。さらに左側に足が伸びている。このイメージを考えると、はたして《書齋》に結び付いていったといつていいのだろうか。これを《書齋》の下絵というには無理があろうが、草案として発想の起点となったということではできるのかもしれない。また、須田国太郎は何を描こうとしていたのか不思議な感じがする。頭部が野獣だったとすると、発想当時は、シュルレアリスティックにモチーフを捉えようと思っていたに違いない。いずれにせよこの幻想的なイメージから、須田がロマン主義的ないしシュルレアリスム的な嗜好に対してもただならぬ関心を寄せていたことがよくわかる。

《校倉(乙)》は、1943(昭和18)年の第13回独立展に《校倉(甲)》と一緒に出品された。この校倉は、奈良の手向山八幡宮宝庫の背景が真正面から描かれている。油彩画には、いかにも墨絵のような効果も加味した西洋と東洋の芸術の見事な融合がなされたものと見てとることができよう。そのため今回寄贈された下絵(図11、鉛筆、水彩、紙; 38.0×59.2cm)にしても、セピア色の水彩で画面全体の統一感を与えている。こうした表現にも動物のデッサンとはまた別の須田ならではの西洋から生まれた油彩画と東洋的な墨絵的世界を融合させようとする姿勢を見て取ることが出来る。これは決して技法上のことにとどまるのではなく、そうした技法的なものが須田の芸術の精神性に見事に現れていることを示しているのである^{註6)}。

以上、今回須田寛氏から寄贈を受けたデッサンやスケッチブックは須田国太郎の芸術の特色の一端を垣間見ることが出来、とても興味深いものであると思われる。

註6) 須田国太郎の芸術における東洋画的なものの考察は、1978年に新宿小田急で開催された『須田国太郎展』図録所収の原田平作「須田国太郎の東洋的精神とその展開」などを参照のこと。

イリヤ・レーピンの絵画の特質について ——《皇女ソフィヤ》と《新兵の見送り》を中心に——

榎山昌夫

はじめに

19世紀後半のロシア絵画を代表するイリヤ・レーピン(1844-1930)は、歴史画と風俗画を同時並行的に描いて、そのどちらでも成功した数少ない画家のひとりである。本稿では、レーピンの絵画の特質として、彼の歴史画と風俗画が主題と形式の両面で緊密な関係にあること、より具体的には、レーピンの歴史画の主題解釈には同時代の社会状況が反映されている一方で、同時代を映す風俗画も、歴史画の主題や形式の伝統に基づいて構成されていることを、1877年から翌年にかけての露土戦争を背景に制作され、1879年に完成されたふたつの作品《ノヴォデヴィチ修道院に幽閉されて1年後の皇女ソフィヤ・アレクセエヴナ、1698年に銃兵隊が処刑され、彼女の使用人が拷問されたき》(国立トレチャコフ美術館蔵、以下《皇女ソフィヤ》)と《新兵の見送り》(国立ロシア美術館蔵)を中心に論じる。

1 レーピンの歴史画と風俗画の出会い

レーピンが現実の要素を歴史画に取り入れたきっかけは、従来から指摘されているように、サンクト・ペテルブルク帝国美術アカデミーの大金メダルのためのコンクール課題作、《ヤイロの娘の復活》(1871年、国立ロシア美術館蔵、図1)にある。^{註1)} レーピンは、このテーマに取り組む際、14年前に若くして他界した姉のウスチーニヤ(ウースチャ、1842-1857)を思い起こしながら、この場面を構想したのである。彼の回想録『遠きこと近きこと』には次のように記されている。



図1 イリヤ・レーピン《ヤイロの娘の復活》1871年、国立ロシア美術館

クラムスコイのところからの帰宅途中(とりわけ道が遠ければ、とても多くの新しく素晴らしい考えが道で思い浮かぶのだが)、ある考えがふと私の心に浮かんだ。今や、つまり、明日、この大きなカンヴァスに、「ヤイロの娘の死」というこのテーマを、私の想像の中に現れるままに、新たに、現実感を持って着手することなど無理ではないか? 私の姉ウースチャが亡くなったときの雰囲気、それによって家族の皆が呆然となった様子を思い出した。家も、部屋も——すべてが暗く沈み、悲しみに締めつけられ、苦しかった。^{註2)}

つまり、《ヤイロの娘の復活》は聖書に基づく歴史画ではあるものの、レーピン自身が体験した現実が織り込まれた作品でもあった。ここに、歴史画を描いてもリアリズムを代表する画家として評されるレーピンの絵画の特質の萌芽が認められる。この場合の「リアリズム」とは、現実をありのままに写し取るのではなく、もっともらしく表現することで現実的なイメージを構成することであり、《ヤイロの娘の復活》では、聖書の一場面を自らの経験を通して再現しているのである。

レーピンは《ヤイロの娘の復活》で大金メダルと国外への留学の権利を得て、1873年5月から1876年7月まで、イタリアとフランスに滞在することになる。

その一方で、後のアレクサンドル3世(1845-1894)の弟でアカデミーの副総裁、ウラジーミル・アレクサンドロヴィチ大公(1847-1909)の注文によって同時期に描かれたレーピンの風俗画《ヴォルガの船曳き》(1871-1873年、国立ロシア美術館蔵、画像は『国立トレチャコフ美術館所蔵 レーピン展』図録(アートインプレッション、2012年)42-43頁を参照)こそは、いかにも典型的な人物が物語を演じる従来の風刺画ではなく、演劇性を排した現実的なイメージを構成するなかで人物の個性を描出する「近代的リアリズム」がロシア絵画に成立したことを標す記念碑的作品である。このことは、1871年春から1873年春にかけての改作によって、象徴的に示される。

改作の詳細は、1871年春までに描かれた旧作の原画である《ヴォルガの船曳き》習作(1870年、以下「習作」、国立トレチャコフ美術館蔵、画像は上記図録40-41頁を参照)と現在の作品とを比較することで明らかになる。たとえば、習作ではほとんどの船曳きが俯いて、表情を隠しているのに対して、現在の作品では、左から3番目、4番目の船曳きが顔を上げ、個性的な表情を見せていることや、彼らの服装にも個性が現れていることが挙げられる。

そして、当時の知識人の中にも、このことを看破した者がいた。作家のフョードル・ドストエフスキー(1821-1881)は次のように述べている。

曳き船人夫たちは本物の曳き船人夫たちであって、それ以外のなものでもない。人夫たちのうち誰ひとりとして画面から見物人に向かって「おれがどんなに不幸であるか、お前がどれほど民衆に借りがあるか、ひとつ見てくれ!」と叫んではいない。^{註3)}

つまり、《ヴォルガの船曳き》は、詩人のニコライ・ネクラーフ(1821-1878)が詠うような、社会の底辺で「呻く」^{註4)}人々を典型的に描いた風刺画ではなく、レーピンが船曳きたちの個性を描出しながら構成した近代的リアリズムの風俗画なのである。

1870年前後、レーピンは美術アカデミーの課題制作である聖書に基づく伝統的な歴史画^{註5)}からはかけ離れた同時代の風俗を題材にして、本来、絵画の題材としては相応しくない社会の底辺の船曳きを採り上げ、実在する彼らひとりひとりの個性を明らかにしながら作品を構成した。リアリズムと言っても、現実の一瞬を切り取ったものではない。改作からも明らかのように、この作品は現実を再構成した「現代の物語」を描いた作品と言える。

2 《長輔祭》から《皇女ソフィア》へ

1876年夏にフランスから帰国すると、レーピンは家族と共にサンクト・ペテルブルク郊外のクラスノエ・セローに滞在し、その秋から翌1877年9

註3) フョードル・ドストエフスキー(1821-81)『展覧会に関して』、『決定版ドストエフスキー全集17 作家の日記(1)』川端香男里訳、新潮社、1979年、105-106頁

註4) Выдь на Волгу: чей стон раздается / Над великою русской рекой? / Этот стон у нас песней зовется - / То бурлаки идут бечевою!.. / Волга! Волга!.. Весной многоводной / Ты не так заливаешь поля, / Как великою скорбью народной / Перепопилилась наша земля, - / Где народ, там и стон... Эх, сердечный! (Николай Алексеевич Некрасов, РАЗМЫШЛЕНИЯ У ПАРАДНОГО ПОДЪЕЗДА (1858), <http://ilibrary.ru/text/1026/p.1/index.html>, 2013年12月5日アクセス)

ヴォルガ川を見よ 誰の呻き声が響いているか/このロシアの大河に? / 我が国ではこの呻き声が歌と呼ばれている— / 船曳きが船を曳いて歩いているのだが…! / ヴォルガ! ヴォルガ! …春の出水でも / そこまでお前は野を満たすことはない、 / 人々の大いなる嘆きが / 我が大地にあふれるほどには—、 / 人々がいるところに呻き声がある…何と、心がかき乱されることか! (ニコライ・ネクラーフ「表玄関での願想」、1858年)

註5) レーピンは美術アカデミーで、1865年に《エジプトの初子の死》によって小銀メダルを、1869年に《ヨブとその友》によって小金メダルを得ている。いずれも旧約聖書に基づく課題制作である。

註1) Игорь Грабарь, Репин. Монография в двух томах, Т. 1, М.: Издательство Академии наук СССР, 1963. с. 80-81など。

註2) И. Е. Репин, Далекое близкое, 9-е изд., Л.: Художник РСФСР, 1986, с. 431.

月にモスクワに移り住むまでの約1年を故郷チュグーエフで暮らした。《長輔祭》(1877年、国立トレチャコフ美術館蔵、画像は上記図録67頁を参照)は、その間にチュグーエフの輔祭、イワン・ウラノフをモデルに描かれた。モスクワに移ってまもなく、この作品は、1878年のパリ万国博覧会への出品候補作品として帝都サンクト・ペテルブルクに送られたが、結局落選して万国博覧会に出品されることなく、その代わりに、移動美術展覧会組合員としてのレービンのデビュー作となった。このとき、美術批評家のウラジーミル・スターソフ(1824-1906)は「極めて民族的なロシアの典型のひとり」が描かれている《長輔祭》について、次のように述べた。

我が国の芸術当局の責任者が、新しいロシア絵画において、この極めて重要な作品を、パリ万国博覧会には不適當であると、まさか斥けるとは誰が考えたであろうか。でも、それは起きたのだ！ お解りだろうが、彼らは、我が国の傷口や潰瘍を国外にみっともなく曝してはだめだと言うのである。^{註6)}

つまり、《長輔祭》は同時代の人物の肖像画ではあるけれども、ロシア民族のあまりにも典型的な、非ヨーロッパ的な姿を描いていて、それゆえに、西ヨーロッパに対するロシアの後進性を「曝して」しまうものと判断されたのである。しかし、このロシア民族固有の姿を描く姿勢は、露土戦争に伴って高揚したナショナリズムを背景に、レービンの歴史画へと引き継がれていく。

レービンは、1870年代末から1880年代にかけて、《皇女ソフィヤ》、《トルコのスルタンに手紙を書くザポロージャのコサック》(1880-1890年、国立ロシア美術館蔵)、《1581年11月16日のイワン雷帝とその息子イワン》(1885年、国立トレチャコフ美術館蔵)などロシアの歴史に取材した作品に取り組み、今日、それらは19世紀後半のロシア・リアリズム絵画の代表作とみなされている。

《長輔祭》がロシア民族の同時代の典型を描いているとすれば、前年の《長輔祭》に続いて、翌1879年の第7回移動美術展覧会に出品された《皇女ソフィヤ》(図2)は、ロシア民族の歴史上の典型を描いた「対作品」と言えよう。先に、この作品を「ロシア・リアリズム絵画の代表作」のひとつに挙げたが、ここで言う「リアリズム」とは—再確認になるが—現実を写し取るのではなく、もっともらしい表現で現実的なイメージを想起させることである。

この作品には、まず、歴史的な正確さを強調するように、ノヴォデヴィチ修道院に幽閉されて1年後の皇女ソフィヤ・アレクセエヴナ、1698年に銃兵隊が処刑され、彼女の使用人が拷問されたときという、とても具体的



図2 イリヤ・レービン《皇女ソフィヤ》1879年、国立トレチャコフ美術館

註6) В. В. Стасов, «Передвижная выставка 1878 года», Избранные сочинения в трёх томах. Живопись, скульптура, музыка, Т. 3, М.: Искусство, 1952, с. 304.

註7) 長女ヴェーラ・レービナの回想。В. Репин, «Из детских воспоминаний», Нива, № 29, 1914, с. 571.

な題名が与えられている。1698年、皇帝ピョートル1世(1672-1725)がヨーロッパに外遊している間に、幽閉されていた皇女ソフィヤ(1657-1704)を旗印に銃兵隊が反乱を起こしたものの、帰国したピョートルが反乱者を鎮圧して厳しく処刑した。この作品では、皇女ソフィアの居室の窓外に、吊るされた銃兵の姿が描かれている。また、レービンはその制作の参考に、皇女ソフィアの衣装を実際に再現した。たとえば、彼女が着ている金糸の施されたルバーシカの袖は、7メートルもの長さで縫われ、上着の真珠飾りは妻ヴェーラが付けたという。^{註7)}

同じ銃兵隊の反乱を題材とした作品に、レービンと共にモスクワやその周辺の修道院を取材したワシーリー・スーリコフ(1848-1916)の《銃兵処刑の朝》(1881年、国立トレチャコフ美術館蔵、図3)が知られている。しかし、同じ事件を扱いがならも、レービンが皇女ソフィヤを主人公として描いた点が重要である。



図3 ワシーリー・スーリコフ《銃兵処刑の朝》1881年、国立トレチャコフ美術館

レービンが《皇女ソフィヤ》に着手した当時、ロシアが戦っていたオスマン・トルコを支援していたのは、ロシアの南下阻止を目論んだフランスとイギリスであった。つまり、1877年から翌年にかけての露土戦争は、ロシア対西欧列強の戦争という側面があった。そして、ロシアをヨーロッパ化したピョートルと敵対した皇女ソフィヤは、伝統的なロシアの価値を守る存在として、ナショナリズムの象徴として描かれたのである。^{註8)}

つまり、《皇女ソフィヤ》は、祖国の歴史を描いた「歴史画」であるとともに、同時代の現実に対するレービンの思いを込めた作品、言い換えれば、同時代の現実を反映した「愛国的な歴史画」であったのである。

3 《新兵の見送り》

《皇女ソフィヤ》と同時期に制作された《新兵の見送り》(図4)は、露土戦争を背景とした作品で、農家の若者が家族や親類に別れを告げて出兵する場面を描く「愛国的な風俗画」であり、《ヴォルガの船曳き》と同様、ウラジーミル・アレクサンドロヴィチ大公が買い上げた。^{註9)} しかし、大公がこの作品を取得した理由は、その愛国的内容だけではなくと思われる。

家族と別れを告げて出兵するこの主題は、新古典主義で流行した題材のひとつ「ヘクトールとアンドロマケの別れ」に遡るが、それを触発したのは、1748年の古代都市ポンペイの発掘である。1768年に新古典主義の女流画家アンゲリカ・カウフマン(1741-1807)がイギリスで描いた《アンド

註8) 拙論「1880年前後のロシアにおける歴史画とイリヤ・レービン」『鹿島美術研究年報第20号別冊』(2003年11月、95-106頁)では、ピョートル1世がヨーロッパに赴いて採り入れたロシアの官僚制度の悪弊について述べたレービンの書簡を紹介し、1698年の銃兵隊の反乱を描いた《皇女ソフィヤ》が、実は露土戦争を背景とした「愛国的な歴史画」であることを論じた。

註9) この作品は、サーワ・マーモントフ(1841-1918)が所有するアブラムツェヴォのアトリエで、その土地の農民たちをモデルに描かれた。1880年にサンクト・ペテルブルク美術アカデミーの第4回展覧会協会展覧会に、その後、第8回移動美術展覧会のモスクワ会場に出品された。さらに、1881年の美術アカデミーでの「ロシアの新旧芸術派の絵画」展にも出品された。また、複製画が『絵画批評 Живописное обозрение』第1号(1881年1月3日)9頁に掲載された。И. Е. Репин и В. В. Стасов, Переписка II 1877-1894, М.-Л.: Искусство, 1949, с. 279. Grigori Sternin, intro., Ilya Repin: Painting・Graphic Arts, Leningrad: Aurora Art Publisher, 1985, p. 254. 但し、И. Е. Репин и В. В. Стасовでは移動美術展覧会へは出品されなかったとされる。



図5 アンゲリカ・カウフマン《アンドロマケーに別れを告げるヘクトール》1768年、サルトラム・ハウス(ナショナル・トラスト)



図6 ガヴィン・ハミルトン《アンドロマケーに別れを告げるヘクトール》1775-80年頃、ハンタリアン美術館



図8 ギョーム・クストゥ1世《馬丁に抑えられる馬(マルリーの馬)》1739-1745年、ルーヴル美術館



図4 イリヤ・レーピン《新兵の見送り》1879年、国立ロシア美術館



図7 アントン・ロセンコ《ヘクトールとアンドロマケーの別れ》1773年、国立ロシア美術館

ロマケーに別れを告げるヘクトール(1768年、サルトラム・ハウス(ナショナル・トラスト)蔵、図5)では、トロイアの古代建築を背景に、左手に槍を持つヘクトールが、妻アンドロマケーの方に振り返っている。ヘクトールの右手を握り締めるアンドロマケーの背後には、侍女が夫婦の一子アステアナクスを抱えている。

その後、この題材はスコットランドの新古典主義の画家ガヴィン・ハミルトン(1723-1798)などが群集画にしている。ハミルトンの《アンドロマケーに別れを告げるヘクトール》(1775-80年頃、ハンタリアン美術館蔵、図6)の前景中央には、ヘクトール、アンドロマケー、アステアナクスと侍女、中景には動揺するトロイアの市民、背景には古代都市の建築群が描かれている。こうした構図は、フランスの古典主義の画家ジャン・レストゥー2世(1692-1768)に師事したロシア最初の歴史画家とされるアントン・ロセンコ(1737-1773)の《ヘクトールとアンドロマケーの別れ》(1773年、国立ロシア美術館蔵、図7)にも共通する。古代都市の建築群を背景に、前景中央ではヘクトール、アンドロマケー、アステアナクスと侍女が明るく照らし出されている。その中間の左側には出撃を待つトロイアの兵士たち、右側にはフランスの彫刻家ギョーム・クストゥ1世(1677-1746)の有名な《馬丁に抑えられる馬(マルリーの馬)》(1739-1745年、ルーヴル美術館蔵、図

8)を想起させる暴れ馬と男が描かれている。註10) このように、「ヘクトールとアンドロマケーの別れ」は、18世紀後半には Санкт・ペテルブルクでも共有された主題であった。

ここで、改めて《新兵の見送り》を見てみると、納屋の屋根の隙間から漏れる光が照らす若い夫婦と、泣きじゃくる子供、そして夫婦いずれかの母親と思われる人物を親類縁者らが取り巻き、その左側には若い男の出兵を待つ馬車が描かれている。そして、背後に描かれている納屋の柱は、あたかも古代建築の円柱のようである。さらに、その奥の納屋の戸口の向こうには、若い男が旅立つ平原が広がっている。

美術アカデミーの総裁となっていたウラジーミル大公は、レーピンが構図に組み込んだ新古典主義の歴史画の伝統を感得したのではないかと想像する。つまり、《新兵の見送り》は同時代の露土戦争を背景とした「愛国的な風俗画」であると同時に、帝室が所有するに相応しいヨーロッパの歴史画の伝統を踏まえた絵画であると認識されたのであろう。註11)

おわりに

本稿では、レーピンの歴史画と風俗画との「出会い」が美術アカデミーのコンクール課題制作《ヤイロの娘の復活》にあり、その後のヨーロッパ留学を経て、露土戦争の時期に高揚したナショナリズムを背景に、レーピンが祖国の人々と祖国の歴史を描く中で、同時期に制作された歴史画と風俗画とが、主題と形式の両面で緊密な関係を持つようになったことを、《皇女ソフィヤ》と《新兵の見送り》を例に示した。具体的には、《皇女ソフィヤ》は同時代の社会状況に対するレーピンの思いを反映した歴史画であり、《新兵の見送り》は歴史画の主題と形式の伝統を踏まえた風俗画である。そして、レーピンのその後の作品、たとえば、《トルコのスルタンに手紙を書くザポロージャのコサック》は前者に、《集会》(1883年、国立トレチャコフ美術館蔵)や《思いがけなく》(1884-1888年、国立トレチャコフ美術館蔵)は後者に連なる作品と言えようが、その議論については稿を改めたい。

*本稿は2013年3月3日に姫路市立美術館で行った講演会「イリヤ・レーピンの絵を読み解く—1870-80年代の歴史画と風俗画」と同年5月17日に神奈川県立近代美術館葉山で行った講演会「イリヤ・レーピンの絵画の特質について」の一部に基づいて執筆した。

註10) Санкт・ペテルブルクのアニーチコフ橋に設置されているピョートル・クロート(1805-1967)による4体の《馬使い》(1833-1850)もクストゥの彫刻を参照している。

註11) レンブラントの作品を想起させる《新兵の見送り》全体の金色の色調も、作品購入を促す一因であったかもしれない。後にスターソフは『北方通信Северный вестник』1891年11月号と12月号に掲載した記事「ヨーロッパ旅行からИз поездки по Европе」の中で、批評家ゲオルグ・フォスが『国民新聞National Zeitung』に寄稿した論文を紹介し、《新兵の見送り》について次のように引用している。「…レーピンの絵画《新兵の見送り》には、忠実に感情を込めて表現された民族的なタイプに関するところにとりわけ高い芸術性があり、その全体的な印象は「レンブラントの金色の色調」を思い出させる…。」И. Е. Репин и В. В. Стасов, с. 383. 一方、《新兵の見送り》がアブランツェヴォの農民をモデルに描かれていても、その主題と構図に歴史画の伝統を組み込むことで、帝室コレクションに相応しいものと判断されたと考えるならば、1870年に美術アカデミーの学生であったレーピンに対する《ヴォルガの船曳き》の注文は、破格の扱いであったと言える。レーピンが《ヤイロの娘の復活》という極めてアカデミックな課題に対して、コンクールの課題の自由選択を求めて7年前に退学したイワン・クラムスコイらに迫従することを美術アカデミーが危惧したためであったかもしれない。

調査研究・執筆等

1) 当館開催展覧会に伴う調査研究・発表

展覧会図録への発表：27件(詳細は展覧会活動ページの各展図録内容を参照)
外部の媒体への発表：5件

2) 所蔵作品や館内の活動にかかわる調査研究・発表

当館の刊行物(年報・たいせつな風景)への発表：7件
外部の媒体への発表：4件

3) その他の調査研究・発表

外部の媒体への発表：5件

外部資金の活用

1) 外部資金を活用した調査研究

科学研究費補助金(独立行政法人 日本学術振興会)
「瀧口修造におけるコラボレーションと集団的想像力」研究分担者(朝木由香)
「新出と既知の高橋由一作《西周像》について」研究代表者(長門佐季)、研究分担者(伊藤由美)
公益財団法人ポーラ美術振興財団
「2点の高橋由一《西周像》制作の経緯と亀井茲明コレクションとの関わり——明治期の美術の有り様を探る——」(伊藤由美)

2) 外部資金を活用した展覧会・事業

協賛金助成
「国立民族学博物館コレクション ピーズ イン アフリカ」(株式会社資生堂)
「アントニー・ゴームリー 彫刻プロジェクト IN 葉山 TWO TIMES—ふたつの時間」(公益財団法人 大林財団)
「美は甦る 検証・二枚の西周像 高橋由一から松本竣介まで」(公益財団法人 ポーラ美術振興財団)

講師派遣・外部委員等就任

1) 講演会講師等派遣(当館主催の学校連携プログラム以外の講師派遣)

実施日	内容	対象	会場	参加者数	主催/共催	実施者
2012年4月28日	「シャルロット・ベリアンと日本」展ギャラリートーク	一般	目黒区美術館	28	目黒区美術館	長門佐季
5月28日	第61回全国美術館会議 「文化財レスキュー事業の経過とこれから」	全国美術館会議会員	大塚国際美術館	200	全国美術館会議	伊藤由美
6月27日	美術セミナー	中学2年生	北鎌倉女子学園中学校	76	北鎌倉女子学園中学校	三本松倫代
8月21日	座談会「レービンの魅力を語る」	一般	Bunkamura ザ・ミュージアム	70	(株)東急文化村	榎山昌夫
9月23日	「幻想の美術」展 関連講演会	一般	和歌山県立近代美術館	11	和歌山県立近代美術館	橋秀文
10月13日	シンポジウム『文化財をまもる—日本における「西洋画」の保存修復』	一般	一橋大学	200	(社)文化財保存修復学会	伊藤由美
10月16日	世田谷美術館「美術大学」	一般	世田谷美術館	100	世田谷美術館	橋秀文
10月31日	「バレエ実験劇場を振り返る」	一般	法政大学	20	バレエ史研究会	西澤晴美
11月3日	「イリヤ・レービンと19世紀ロシア・リアリズムの世界」	一般	浜松市美術館	80	レービン展実行委員会	榎山昌夫
12月21日	美術講演会「日本近代にみる山の風景」	一般	北海道立帯広美術館	75	北海道立帯広美術館	橋秀文
2013年1月8日	逗子小学校区画工作科年間指導計画策定	小学校教員	逗子市立逗子小学校	4	逗子小学校	山内舞子・鈴木智香子
2013年2月13日	相模原市立小学校教育研究会「子どもの主体的な造形活動をめざして～豊かな発想を広げる学び合い～」	小学校教員	相模原市立桜台小学校	34	相模原市立小学校教育研究会	長島彩音・鈴木智香子
3月3日	「イリヤ・レービンの絵を読み解く 1870-80年代の歴史画と風俗画」	一般	姫路市立美術館	99	姫路市立美術館	榎山昌夫

2) 外部委員等就任

職員名	内 容	
	団体名	職 名
水沢 勉	平塚市	平塚市美術館協議会委員
	静岡県	静岡県立美術館第三者評価委員会委員
	群馬県立館林美術館	群馬県立館林美術館作品収集委員会委員
	公益財団法人ポーラ美術振興財団	助成事業選考委員
	福岡市	福岡アジア美術館美術資料収集審査員
	熊本市	熊本市美術品等収集審査委員会委員
	東京国立近代美術館	東京国立近代美術館評議委員会委員
	岡山県立美術館	岡山県立美術館美術品評価委員会委員
	鎌倉市	鎌倉市教育委員会美術工芸作品収集選定委員会委員
	東京藝術大学	客員教授
橋 秀文	平塚市美術館	平塚市美術品選定評価委員会委員
	世田谷区	世田谷区立世田谷美術館美術品等収集委員会委員
	山口蓬春記念館	山口蓬春記念館美術品評価委員
伊藤 由美	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第34回大会実行委員
	東京藝術大学大学院	非常勤講師
是枝 開	湯河原町	湯河原町美術品等選定委員会委員
	武蔵野美術大学	特別講師
	東京藝術大学	非常勤講師
李 美那	東京藝術大学	非常勤講師
榎山 昌夫	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市美術品審査委員会委員

運営・管理報告

概況

(1) 沿革

昭和26年11月17日	神奈川県立近代美術館として開館
昭和41年 3月31日	収蔵庫及び常設展示室並びに附属棟を増設
昭和44年 3月31日	学芸員室を増設
昭和49年 8月 1日	神奈川県立近代美術館組織規則(昭和49年神奈川県教育委員会規則第9号)により、管理課、学芸課の2課を置く。
昭和59年 7月28日	別館を開館
平成 3年10月30日	本館の改修工事完了
平成13年 7月 5日	PFI事業契約の締結
平成15年 6月 1日	神奈川県立近代美術館組織規則の改正により、管理課、企画課、普及課の3課体制となる。
平成15年10月11日	葉山館を開館

(2) 所掌事務

県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を実施する。

(3) 施設の状況

ア 土地	県 有	(葉山館分) 面積	15,034.8㎡
		※生涯学習課管理 (鎌倉別館分) 面積	4,937.0㎡
	借 用	(鎌倉館分) 面積	4,243.1㎡
		(有償分)	1,547.2㎡
		(無償分)	2,695.8㎡
イ 建物	県 有	面積	4,034.0㎡
		(鎌倉館分)	2,435.0㎡
		(鎌倉別館分)	1,599.0㎡

PFI事業の概要

(1) 事業内容

PFI法に基づいて、PFI事業者が葉山館建設やその後の維持管理業務などを実施し、県は提供されたサービスの対価を30年間で事業者を支払う。PFI事業者が実施する主な業務は次のとおりである。

- ア 葉山館建設業務：葉山館新築工事、バスベイ・歩道整備工事など
- イ 維持管理業務：葉山館 建築物修繕、建築設備保守管理(修理を含む)、清掃、警備、受付・監視など
鎌倉館及び鎌倉別館 建築設備保守管理(修理を含まない)、清掃、警備、受付・監視など
- ウ 美術館支援業務：美術情報システムの整備及び運用支援、独立採算による付帯施設(レストラン、ミュージアムショップ、駐車場)運営
- エ 備品等整備業務：葉山館備品整備、美術作品等移転など

(2) 事業者

株式会社 モマ神奈川パートナーズ

所在地：横浜市神奈川区鶴屋町2-23-2

(落札した企業グループが設立した事業会社)

収入・支出の状況

収入	(千円)	
	科 目	内 訳
行政財産使用料	266	鎌倉館喫茶建物使用料等
使用料	42,436	観覧料収入
立替収入	1,812	レストラン他光熱水費
雑入	15,419	図録販売等
教育受講料収入	144	県立機関活用講座
計	60,077	

支出(人件費含まず)	(千円)	
	科 目	内 訳
維持運営費	64,164	維持管理
美術館事業費	93,889	展覧会開催費
調査研究事業費	270	調査研究謝礼等
教育普及事業費	3,073	教育普及事業
美術作品整備事業費	4,873	美術作品購入・修復
特定事業費	456,594	PFI事業
県立機関活用講座開催事業費	355	
近代美術館活性化事業費	24,128	ゴムリープロジェクト等
緊急雇用創出事業費	5,880	広報・周知事業委託
計	652,906	

(趣旨)

第1条 この条例は、神奈川県立近代美術館(以下「美術館」という。)の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、美術館を三浦郡葉山町一色2,208番地の1に設置する。

(職員)

第3条 美術館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付)

第4条 美術館に展示している美術館資料を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している美術館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度別に定めることができる。

3 前2項の観覧料は、前納とする。

(観覧料の減免)

第5条 前条第1項本文及び第2項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和22年法律第26号。別表備考において「法」という。)第1条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第6条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第7条 美術館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第8条 教育委員会は、美術館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、美術館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

1 この条例は、昭和42年4月1日から施行する。

2 神奈川県立近代美術館条例(昭和26年神奈川県条例第46号)は、廃止する。

附 則(昭和50年12月27日条例第58号抄)

1 この条例は、昭和51年4月1日から施行する。(後略)

附 則(昭和55年12月23日条例第60号抄)

1 この条例は、昭和56年4月1日から施行する。(後略)

附 則(昭和58年12月21日条例第41号抄)

(施行期日)

1 この条例は、昭和59年1月1日から施行する。ただし、(中略)第8条の規定は公布の日から起算して8月を超えない範囲内で神奈川県教育委員会規則で定める日から施行する。

附 則(平成4年12月22日条例第62号)

(施行期日)

1 この条例は、平成5年1月1日から施行する。ただし、第2条及び第5条から第9条までの規定は、同年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 第1条、第3条、第4条及び第10条から第12条までの規定の施行の際現に申込みを受理しているものに係る神奈川県立音楽堂、神奈川県立相模湖漕艇場、神奈川県立体育センター、神奈川県立県央地区体育センター、神奈川県立西湘地区体育センター、神奈川県立武道館、神奈川県立スポーツ会館若しくは神奈川県立相模原球場(以下「神奈川県立音楽堂等」という。)の利用又は平成5年1月1日から同年3月31日までの間の神奈川県立音楽堂等の利用(相模湖漕艇場の艇庫の利用については、平成5年1月1日から同年3月31日までの間にその利用を開始し、かつ、その引き続き利用期間が平成5年4月1日以降にまたがる場合の当該平成5年4月1日以降の期間における利用を含む。)に係る使用料については、これらの規定に規定する各条例のこれらの規定による改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成13年3月27日条例第22号)

この条例は、平成13年4月1日から施行する。

附 則(平成15年3月20日条例第43号)

この条例は、公布の日から起算して6月を超えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成15年5月教育委員会規則第10号で、同15年6月1日から施行)

附 則(平成19年1月30日条例第3号)

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年1月25日条例第1号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成21年3月27日条例第25号)

この条例は、平成21年7月1日から施行する。

別表(第4条関係)

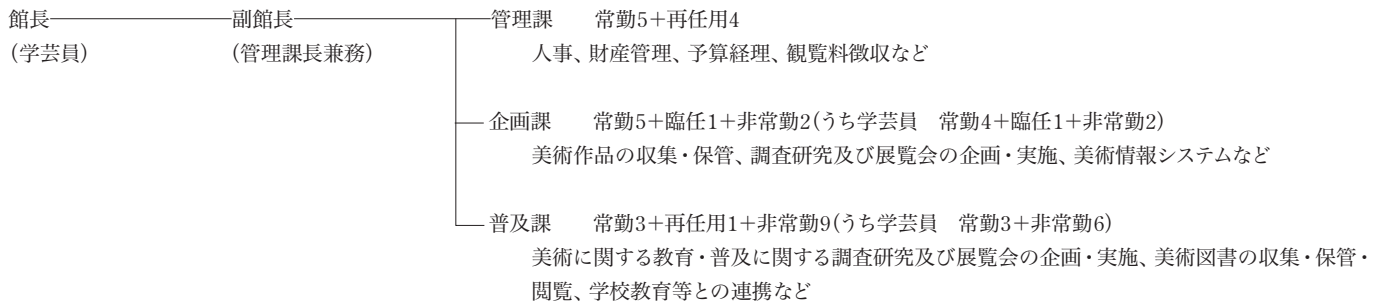
区 分	個 人	20人以上の団体
20歳以上65歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1人につき 250円	1人につき 150円
20歳未満の者(高校生を除く。) 学生(65歳以上の者を除く。)	同 150円	同 100円
65歳以上の者 高校生	同 100円	同 100円

備考 1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。

2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

組織

葉山館の整備による組織の改編を行うため、神奈川県立近代美術館組織規則を改正(平成15年6月1日施行)し、従来の管理課・学芸課の2課体制から、管理課・企画課・普及課の3課体制となった。平成24年4月1日現在の職員配置状況は次のとおり。



職員数合計 32人

常勤15人(うち学芸員8人)、再任用5人、臨任1人(うち学芸員1人)、非常勤11人(うち学芸員8人)

施設別配置状況

葉山館 23人(常勤10人(うち学芸員5人)、再任用3人、臨任1人(うち学芸員1人)、非常勤9人(うち学芸員6人))

鎌倉館 9人(常勤5人(うち学芸員3人)、再任用2人、非常勤2人(うち学芸員2人))

職員一覧

館長 水沢 勉

副館長 巴 靖章

管理課 課長(兼) 巴 靖章
副主幹 中田 馨
副主幹 杉本 邦夫
副主幹 田中 博
主査 野村いく子
主事 阿部真利子
管理業務専門員 小神 敏行
管理業務専門員 薄井 健一
管理業務専門員 村上 典繁
管理業務専門員 小野 和子

普及課 課長(兼) 橋 秀文
主任学芸員 是枝 開
主任学芸員 榎山 昌夫
学芸員 三本松倫代
非常勤学芸員 土居 由美
非常勤学芸員 山内 舞子
非常勤学芸員 松尾子水樹
非常勤学芸員 鈴木智香子
非常勤学芸員 長島 彩音
非常勤学芸員 彦根 延代

企画課 課長 橋 秀文
専門研究員 伊藤 由美
主任学芸員 李 美那
主任学芸員 長門 佐季
学芸員 西澤 晴美
臨時学芸員 朝木 由香
非常勤学芸員 酒井 一有
非常勤学芸員 川野 恵子

[美術図書室]
図書業務主任専門員 市川 雄基
非常勤司書 藤代 知子
非常勤司書 小川さよ子
非常勤司書 上田木綿子

年報 2012(平成24)年度

発行日：2014年3月14日

編集・発行：神奈川県立近代美術館

葉山 〒240-0111 三浦郡葉山町一色2208-1 電話 046-875-2800

鎌倉 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-1-53 電話 0467-22-5000

鎌倉別館 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-8-1 電話 0467-22-7718

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

制作：印象社

ANNUAL REPORT 2012

Edited and published by The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2014

Produced by Inshosha

© The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2014